

第 2 章
法人報告
事業報告

2025年度けいじゅヘルスケアシステム方針

継続的基本方針

1. 患者・利用者に信頼される医療機関・介護施設となる
2. 地域社会から必要とされる医療機関・介護施設となる
3. 経営の健全性を維持する
4. 恵寿フィロソフィの周知・浸透

単年度方針

日本社会のターニングポイントである2025年が、ついに来た。国の多くの施策が、このすべての団塊の世代が後期高齢者となる2025年の危機感への対応として検討されてきた。古くは社会保障国民会議から医療計画、地域医療構想、介護保険事業計画も然りだ。

誰もが経験したことのない超少子高齢社会が現実化してきた。いわば社会構造における災害かもしれない。認知症を含めた高齢者に伴う疾患や要介護者の増加、それを支える人口の減少と働き方改革は、ある意味、災害だ。さらに、私たちは、2024年1月1日に能登半島地震を体験した。全国でも地震、津波、水害などの実際の自然災害も激甚化し多発している。

これらの災害から地域とわれわれの病院を守るためには、旧来の成功モデルは全く成り立たないと心得なくてはならない。すなわち、旧来の体制に固執すれば衰退があるのみなのだ。新たな仕組みに果敢に挑戦するというターニングポイントの年とすべきだろう。私たちは、**この時代と社会への危機感と、ここで踏ん張る覚悟**が求められているのだ。

そこで、2025年度方針を
危機感と覚悟を持って



MOTTO

とする。MOTTO に二つの意味を込める。

mottoはイタリア語で、「言葉」や「スローガン」「信念」を意味する。すなわち「思い」「価値観」とも読めるだろう。法人全体のミッションとビジョンと通って個人や所属する組織が外すことができない「思い」とは？信念のない個人や組織は、進歩がない。守るべきもの、自分たちがやらねばならない「モットー」を明らかにしよう。

その上で、今の仕事やサービス、それに伴う顧客の、職員の満足感を「もっと motto」引き上げよう！もっと先を見据えて、今やらねばならないことは、明日ではなく、このターニングポイントの年としよう。

TQM発表大会（董仙会）

前期 第30回 2025年9月27日 七尾市文化ホール

セッション1 経営の質向上、健康経営の浸透、KAIZEN

部署	テーマ
福祉用具レンタルステーション恵寿、医療福祉ショップめぐみ	MOTTO みんなにめぐみをしてもらうための取り組み～販売件数の増加につなげる～
本院 管理課、医事課、データセンター	施設基準管理の共有化
総務部 健康経営対策室、健康管理センター、感染制御センター	董仙会職員ワクチンプログラムの構築
1位 恵寿金沢病院 臨床検査課	呼吸機能検査、MOTTO分かりやすく MOTTO効率的に

セッション2 職員の適正配置、強靱なBCM/BCPの策定更新

部署	テーマ
本院 放射線課、臨床検査課、内視鏡課	MOTTOよくなる！多職種協働で挑む持続可能な内視鏡業務
1位 本院 外来課	外来改革！フレキシブル運用による生産性の最大化
本部 総務部	育児介護休業法改正に伴う就業規則の整備
和光苑	誰でもすぐ使えるアクションカードの整備 ～アクションカードを用いたシミュレーションの実践～
本部 財務部 資材課、本院 臨床栄養課	BCP ～災害時の食事提供の見直し～

セッション3 医療介護PFMの完成、医療・介護の質向上、地域連携・マーケティングの強化

部署	テーマ
1位 本院 5病棟5階	看護師・介護福祉士との協働による褥瘡・スキンケア予防；専門性連携による個別ケアの深化
恵寿金沢病院 薬剤課、放射線課	造影検査 MOTTO安全に
本院 手術センター課、医療安全管理課	術前から行う患者の安全強化に向けた取り組み～入室方法を見直し誤認防止の再強化を目指す～
本院 リハビリテーションセンター	入院経頭蓋磁気刺激療法の始動としくみ作り

後期 第31回 2026年2月28日 七尾市文化ホール

セッション1 KAIZEN、けいじゅ救急搬送サービスの進化、医療収入の増加

部署	テーマ
恵寿金沢病院 看護部外来	外国人へMOTTO親切な外来へ
本院 血液浄化センター、臨床工学課	MOTTO改善しよう！業務改善による、本来業務への集中と業務の質向上をめざす
本院 薬剤課	続 持参薬運用のしくみ改革 -手順簡略化と代行入力を通して薬物治療の質向上を目指して-
本院 救急救命課	選ばれる理由がある！けいじゅ救急搬送サービスの実績と成長戦略
1位 恵寿金沢病院 ドックセンター	MOTTO満足 MOTTOオプション もっとMOTTO増収

セッション2 ユマニチュードの定着、医療・介護の質向上、医療介護PFMの完成

部署	テーマ
ほのぼの	虐待の芽を摘もう ～「もっと」言い合える職場を目指して～
恵寿金沢病院 看護部病棟、リハビリ課	みんな笑顔に ～院内デイケア スタートの取り組み～
恵寿金沢病院 医事課、管理課	ベクトルを束にして挑む part2 teamで医療の質向上をめざし、施設基準・加算算定を管理
本院 3病棟2階、外来	「“安心”をつなぐ、見守りリレー」～タスクシフト・シェアで生まれるゆとりと質～
1位 本院 入院管理センター、地域包括ケアセンター	地域PFMの構築 ～無限に繋がる支援の輪：インフィニティリング～

セッション3 自ら進みでる風土、医療・介護の質向上、強靱なBCM/BCPの策定更新、地域との共生

部署	テーマ
本院 事務部、地域連携課、診療情報管理室	事務部門におけるタスクシフト・タスクシェアの拡大 -業務量の可視化を起点とした、部門横断の業務分散と体制整備-
本部 財務部 経理課	補助金の管理体制の再構築
恵寿金沢病院（地域連携課・リハビリテーション科・臨床栄養課）、けいじゅ金沢訪問看護ステーション	MOTTO 地域とつながろう！ ～知ってもらってから始まる共生の一步～
1位 本院 5病棟3階（地域包括ケア病棟）、入院管理センター	地域包括ケア病棟から安心を届ける ～在宅と直入院の連携～
介護医療院 恵寿鳩ヶ丘	「がんぼう鳩ヶ丘～地域に向けてのアピール戦略～」

事例研究大会（徳充会）

2026年2月18日開催 大会テーマ：「危機感と覚悟を持って MOTTO」

	所属	発表者	テーマ
	青山彩光苑ライフサポートセンター	近藤 由香理	介護ソフト導入決定！ ～職員の声から業務の効率化を目指して～
	青山彩光苑ワークセンター田鶴浜	池田 まや	水耕事業から洗濯事業へ ～最高齢の挑戦～
	徳充会 本部事務局	中川 昂也 島田 高史	MOTTO効率よく ～AIを活用した業務負担の軽減～
優秀賞	青山彩光苑リハビリテーションセンター	佐竹 綾乃	「働きたい」を支えるために ～青山リハだからできること～
優秀賞	さいこうえんの障害者生活支援センター	越田 美喜子	地域生活支援拠点等事業 ～拠点コーディネーターとして手探りの9ヶ月間～
	石川県精育園	川島 大和	強みをMOTTO！ ～障害特性を生かした支援～
	青山彩光苑穴水ライフサポートセンター	幸崎 吉敏 久岡 タ子	食べたいを叶える ～デリソフターを使用した食支援～
	エレガンテナぎの浦 在宅部門	庵 実里	「脳らぼ」支援を通して ～笑顔と感動を届けるために～
	ローレルハイツ特定ケアハウス	清水 潤智	人員不足解消のための取り組み ～危機感をもって新たなる挑戦～
	エレガンテナぎの浦 入所部門	山崎 智美	日常生活を前向きに ～笑顔を増やそう大作戦～
最優秀賞	デイサービスセンター もみの木苑	柿島 善浩	もみの木計算検定への取り組み ～MOTTOやりがいのある余暇時間に～

新聞掲載（董仙会）

日付	内容	施設	掲載媒体
2025.4.2	新任式 恵寿総合病院/医療を担う決意 けいじゅヘルスケア	董仙会	北國新聞/北陸中日新聞
2025.4.11	食料提供で災害時協定 恵寿総合病院とローソン	董仙会	北國新聞
2025.4.15	介護施設送迎 AIで管理	董仙会	北國新聞
2025.4.22	ミャンマー人職員 初の介護福祉士/ミャンマー女性 介護福祉士に	恵寿総合病院	北國新聞/北陸中日新聞
2025.4.25	「Foot活」でもくろむ復活 石川県立大教授ら 健康づくり全国団体最高賞	董仙会	毎日新聞
2025.4.28	外国人の介護職 資格取得支援し定着化を	董仙会	北國新聞
2025.5.17	園児が看護の仕事体験 七尾・恵寿総合病院	恵寿総合病院	北國新聞
2025.5.20	七尾市長と語る「未来」ラジオななお24日から新番組 初回は恵寿理事長	董仙会	北國新聞
2025.5.25	免震構造で栄誉の受賞 七尾市の恵寿総合病院	董仙会	日本設備工業新聞
2025.6.6	スマートウォッチで健康管理 恵寿総合病院 13日から実証	恵寿総合病院	北國新聞
2025.6.6	中能登で元氣アップ教室	鳥屋診療所	北國新聞
2025.6.11	七尾・恵寿総合病院 ロボ、AIで働きやすく	恵寿総合病院	北國新聞
2025.6.11	新会長候補に神野理事長 全日本病院協会	董仙会	北國新聞
2025.6.12	能登半島地震 “ほぼ無傷” 恵寿総合病院（石川）	恵寿総合病院	福井新聞
2025.6.13	能登の恵寿総合病院、入院患者に腕時計型端末 血圧など把握	恵寿総合病院	日本経済新聞
2025.6.14	スマートウォッチで患者見守り 七尾・恵寿総合病院	恵寿総合病院	北國新聞
2025.6.29	新会長に恵寿の神野氏 全日本病院協会 県内から初選出	董仙会	北國新聞
2025.7.5	被災直後の栄養状態 論文に 七尾の栄養士・小蔵さん	恵寿総合病院	北國新聞
2025.7.8	日本免震構造協から普及賞「地震で医療止めず」評価	董仙会	北國新聞
2025.7.8	脳卒中の後遺症で新たな治療法導入	恵寿総合病院	北國新聞
2025.7.11	まひ解消へ新治療導入 七尾・恵寿総合病院が県内初	恵寿総合病院	北國新聞
2025.7.13	ずっと、能登と。復興を考える 平時の医療を災害時も	恵寿総合病院	北陸中日新聞
2025.7.23	自前の救急車 患者に好評 119より気軽に 搬送サービス利用堅調	恵寿総合病院	北國新聞
2025.7.28	小丸山小にプール開放 七尾 恵寿総合病院、ノアクラブ	恵寿総合病院	北國新聞
2025.7.29	高校生が看護体験	恵寿総合病院	北國新聞
2025.7.29	無料送迎サービス刷新 乗降116カ所に AIで効率化	恵寿総合病院	北國新聞
2025.8.21	「医者卵」が病院DXに理解 恵寿総合病院を訪問	恵寿総合病院	北國新聞
2025.8.27	介護技能 3部門で競う けいじゅヘルスケア	董仙会 / 徳充会	北國新聞
2025.8.28	能登再興 新技術吸収、変革の好機 インフラ・医療、導入相次ぐ	董仙会	日本経済新聞
2025.9.1	恵寿総合病院 準決勝へ進出 七尾、軟式野球大会	恵寿総合病院	北陸中日新聞
2025.9.2	ラジオななお フェスティバル13日開催を紹介 恵寿総合病院	恵寿総合病院	北國新聞
2025.9.6	介護予防教室4人修了 中能登町	鳥屋診療所	北國新聞
2025.9.14	子どもたちが医者さん体験 / 人形で内視鏡手術体験コーナー人気	恵寿総合病院	北國新聞/北陸中日新聞
2025.9.17	救急患者の対応 米医師に学ぶ 七尾・恵寿総合病院	恵寿総合病院	北國新聞
2025.9.27	七尾・恵寿病院「カラダ年齢」職員が測定	恵寿総合病院	北國新聞
2025.9.28	現場改善の取り組み発表 七尾で董仙会	董仙会	北國新聞
2025.10.10	働きやすい環境で厚労大臣奨励賞 七尾の2施設	和光苑 / ローレル	北國新聞
2025.10.19	トップが語る DXで効率的な医療	恵寿総合病院	読売新聞
2025.10.22	乳がん早期受診 恵寿病院で啓発 七尾、ティッシュ配布	恵寿総合病院	北國新聞
2025.11.12	介護 身近に感じて 七尾・恵寿病院で啓発	恵寿総合病院	北國新聞
2025.11.13	恵寿総合病院で介護啓発	恵寿総合病院	北陸中日新聞
2025.11.19	糖尿病デー啓発 七尾に青色の照明 ローレルハイツ恵寿	恵寿総合病院	北國新聞
2025.11.25	穴水・恵寿鳩ヶ丘でケアフェスタ	恵寿鳩ヶ丘	北國新聞

日付	内容	施設	掲載媒体
2025.11.30	董仙会内定者が先輩職員と交流 七尾で集い	董仙会	北國新聞
2025.12.5	介護予防教室 9人に修了証書 中能登町	鳥屋診療所	北國新聞
2025.12.6	膝がん検診 注目の「眼力」 七尾・恵寿病院 金大が協力	恵寿総合病院	北國新聞
2025.12.10	恵寿病院に地方創生大臣賞 第5回日本サービス大賞	恵寿総合病院	北國新聞
2025.12.13	きらきら ハンドベルの音色 七尾の園児 高齢者施設で披露	和光苑	北陸中日新聞
2026.1.6	自衛消防隊が七尾で放水訓練/新年互礼会と出初め式	董仙会	北國新聞/北陸中日新聞
2026.1.14	防災新時代 阪神大震災31年 免震広めた 神戸の2棟 能登でも効果	恵寿総合病院	読売新聞
2026.1.16	ラジオななお 恵寿病院が来月 認知症医療講座	恵寿総合病院	北國新聞
2026.1.26	複眼 地域の医療を守るか	董仙会	日本経済新聞
2026.2.3	一般病院の7割が赤字 診療報酬適切な配分を	恵寿総合病院	北陸中日新聞
2026.2.9	認知症の最新知見 チーム医療を紹介 恵寿総合病院が講座	恵寿総合病院	北國新聞
2026.2.10	アルツハイマー最新治療法解説 七尾で金大教授	恵寿総合病院	北陸中日新聞
2026.2.14	苦境の病院 支援へ一歩 診療報酬改定	恵寿総合病院	読売新聞
2026.2.25	七尾・恵寿総合病院 CFアワード特別賞 震災後の行動力評価	恵寿総合病院	北國新聞
2026.3.11	百歳 / 瀬那さん100歳おめでとう	恵寿鳩ヶ丘	北國新聞/北陸中日新聞
2026.3.19	陛下 医療功労者と面会	恵寿金沢病院	読売新聞
2026.3.27	介護現場の改善策紹介	恵寿鳩ヶ丘	北國新聞

新聞掲載（徳充会）

日付	内容	施設	掲載媒体
2025.8.27	介護技能 3部門で競う けいじゅヘルスケア	董仙会 / 徳充会	北國新聞
2025.9.3	被災障害者施設建て替え移転	石川県精育園	北國新聞
2025.9.12	穴水の精育園「移転が必要」	石川県精育園	北陸中日新聞
2025.10.10	働きやすい環境で厚労大臣奨励賞 七尾の2施設	和光苑 / ローレル	北國新聞
2025.10.15	あの時わたしは64	さいこうえんの障害者生活支援センター	読売新聞
2025.11.18	被災の穴水「精育園」移転へ初会合	石川県精育園	北陸中日新聞
2025.11.29	被災者全員戻れる日を	石川県精育園	北陸中日新聞
2025.12.8	障害者週間に合わせた苑内イベント	穴水ライフサポートセンター	北陸中日新聞
2026.1.7	県「精育園」移転先 穴水駅西の町有地候補	石川県精育園	北陸中日新聞
2026.3.15	ネイルケア講習会	石川県精育園	北國新聞/北陸中日新聞
2026.3.17	検討委で県が整備計画案	石川県精育園	北國新聞/北陸中日新聞

来訪者一覧（董仙会）

日付	見学者	見学内容
2025.4.23	建築研究所 JICA研修旅行 計18名	能登半島地震 建築関係
2025.5.9	社会医療法人博愛会 菅間記念病院 計5名	サービスセンター、SPD
2025.6.2	近森病院 1名	医療DX、生成AI
2025.7.4	藤沢湘南台病院 計8名	医療DX、生成AI
2025.7.7	福井大学医学部附属病院 計2名	看護DX、PFM
2025.7.8	京都きづ川病院 計6名	医療DX、生成AI、業務用iPhone活用
2025.8.1	手稲溪仁会病院 計2名	医療DX、データセンター、業務用iPhone活用
2025.8.5	一宮西病院 計7名	BCP、震災対応
2025.8.7	自治医科大学附属病院 計5名	業務用iPhone活用、生成AI
2025.8.12	医療法人財団大浦会 計6名	医療DX
2025.8.19	北信総合病院 計10名	医療DX、生成AI、恵寿セルケアチーム
2025.8.20	地域医療の未来を考えるスタディツアー 計14名	医療DX、震災対応
2025.8.29	済生会新潟病院 計5名	生成AI
2025.9.13	神戸学院大学現代社会学部社会防災学科 計10名	震災対応、BCP・BCM
2025.9.16	安房地域医療センター 計12名	生成AI、業務用iPhone活用、震災対応
2025.10.2	石川県議会厚生文教委員会 計15名	医療DX、震災対応
2025.10.8	ドイツ・フェルカー校 計15名	リハビリテーションセンター
2025.10.16	神奈川県庁 黒岩 祐治県知事 他9名	医療DX、震災対応
2025.10.20	金沢市立病院 計3名	救急搬送サービス
2025.10.21	松任石川中央病院 計2名	救急搬送サービス
2025.10.21	社会医療法人財団池友会 福岡和白病院 計5名	医療DX
2025.10.28	旭川市議会議員 1名	医療DX
2025.10.31	近森リハビリテーション病院 計2名	回復期リハビリテーション病棟
2025.11.4	JA広島総合病院 計3名	医療DX
2025.11.4	いずみ記念病院 計4名	医療DX
2025.11.7	丸ノ内プラチナ大学逆参勤交代コース 計22名	震災復興における地域医療
2025.11.17	構造設計研究会 計15名	震災対応、免震構造
2025.11.17	織田病院 1名	医療DX
2025.11.19	七尾市議会議員・子育て支援課 計3名	病児保育室あんず
2025.11.25	社会医療法人 創和会 計4名	医療DX、生成AI、業務用iPhone活用
2025.12.2	社会医療法人 寿楽会 大野記念病院 計5名	医療DX、生成AI、業務用iPhone活用
2025.12.8	株式会社日本設備工業新聞社 1名	震災対応
2025.12.8	久留米大学病院 1名	震災対応

日付	見学者	見学内容
2026.1.16	京都岡本記念病院 計3名	リハビリテーションセンター
2026.1.19	奈良東病院グループ 計7名	医療DX、オフィスリンク
2026.1.19	済生会富山病院 計5名	医療DX、オフィスリンク
2026.1.20	医療法人 錦秀会 計14名	医療DX、生成AI、業務用iPhone活用
2026.1.21	IMSグループ 計5名	医療DX、RPA
2026.2.3	小松市民病院 計5名	医療DX、生成AI、業務用iPhone活用
2026.2.10	深谷中央病院 計3名	医療DX、生成AI、業務用iPhone活用
2026.2.17	医療法人社団 美心会 黒沢病院 計4名	医療DX、データセンター
2026.2.17	社会医療法人財団 松原愛育会 松原病院 計5名	医療DX、生成AI、業務用iPhone活用
2026.2.27	京都私立病院協会 計9名	医療DX、生成AI、業務用iPhone活用
2026.3.3	丸子中央病院 計4名	入退院管理センター
2026.3.3	七尾市保育士会看護部会 計2名	病児保育室あんず
2026.3.17	医療法人社団 輝生会 計5名	医療DX、生成AI、業務用iPhone活用

来訪者一覧（徳充会）

日付	来訪者	見学内容
2025.12.28	俊友会合唱団	【エレガントなぎの浦】合唱ボランティア

■ 基本戦略と概念図

創業精神

いつでも、誰でも、たやすく、安心して、診療を受けられる病院にする。

基本理念

信頼の心
思いやりの心
健全な経営
職員の健康と幸せ

Mission

ミッション

創業精神・基本理念に基づいたスローガン
先端医療から福祉まで「生きる」を応援します

Vision

ビジョン

継続的基本方針：中期計画(3年毎)

Value

バリュー

戦略テーマ

戦略マップ

スコアカード

アクションプラン

BSC

単年度基本方針：短期計画（毎年）

- ・ 戦略目標
- ・ 成功要因（CSF）
- ・ 評価指標（KPI）
- ・ 現状値・目標値
- ・ アクションプラン
- ・ 中期・期末達成度
- ・ 評価

新型コロナ禍に果敢に挑み続けた3年間を経て、地域と患者・利用者を守り抜く姿勢は、医療・介護人として目を見張る活躍であり、仲間を気遣う温かな風土が定着した。医療介護は労働集約型（事業活動の大部分を人間の労働力に頼る割合が多い産業）ではあるが、テクノロジー（ICT/AI/Robot）の進歩を活用し、労働力を補い、温かな風土と共に全国の見本となろう！

【図1】董仙会Mission/Vision/Value

1. 基本戦略

2018-2021・2021-2023中期計画を踏襲するが優先順位を変えた下記の5施策を基本戦略とする。

- One Keijuを目指す
- 満足度を100%にする
- 生きるをデザインする
- 質を上げる
- 新サービスを創出する

2. 概念図

※3D経営(DX/Data/Design)
5施策を実行する際、中央にある3D経営を意識しよう！

DXの強みをいかし、収益増やファンづくりのための新サービスを創出する。

常に自分と家族が受けるサービスがどうかを基準として、改善を重ねる。

One Keiju
を目指す

「人・物・金・情報・心」「医療・介護・生活」の統合戦略により、データ活用を図りひとつになって健全な経営を目指す。

※3D経営

DX

Data

Design

満足度を
100%にする

明るく楽しく前向きな風土・働きがいのある職場を目指し、満足度向上を目指す。

患者・利用者視点で考え、体験プロセスを重視したPX*向上を目指し、ファンを作る。

PX*：Patient Experience

質を上げる

生きるを
デザインする

テクノロジー*を活用した仕組みづくりを行いDXを推進する。
患者・利用者・職員の生活をデザインする。

テクノロジー*：ICT/AI/Robotなど

【図2】董仙会中期計画概念図

■ 実施計画

私たちの やるべきこと

医療介護の質の向上と経営の安定を図る。

投資としては、施設の大規模改修、新金沢病院建築、先端医療・介護機器の導入である。

重要業績達成指標（KGI）

2024年度：医業収入155→150億円に修正

2025年度：医業収入156→151億円に修正

2026年度：医業収入157→152億円に修正

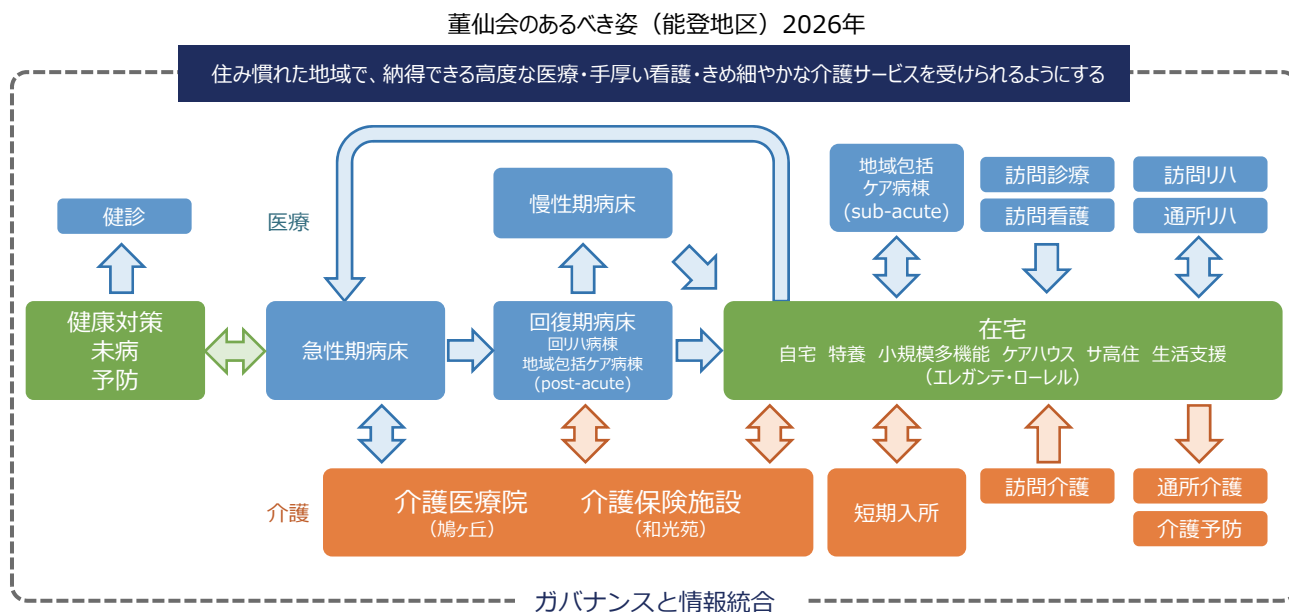
継続的 基本方針	2024年 弱み・脅威の 改善・克服戦略 単年度方針 <u>ATM:明るく楽しく前向きに</u>	2025年 強み・機会の 積極・差別化戦略 単年度方針 <u>MOTTO</u>	2026年 積極・差別化戦略 改善・克服戦 単年度方針 <u>WITH ー 仲間と、地域と、未来と。</u>
One Keijuを 目指す	Dataを活かす 【本院・金沢】夜勤人員の見直し 【本院】恵寿セルケア方式とiPhoneの効率化 【本院・金沢・介護】訪問・通所サービスの見直し 【金沢・介護】不採算部門の改善 【本院・介護】医療介護PFMの構築 【共通】医業収入155億	Dataを活かす 【必須】経営の質向上（医業収入の増加） 【本院・金沢】新夜勤体制構築（看護・介護の協働） 【本院】恵寿セルケア方式の完成 【本院・金沢・介護】訪問・通所サービスの集約・強化 【金沢・介護】新規事業へむけて採算性の強化 【本院・介護】医療介護PFMの完成 【共通】職員の適正配置（人数・適所適材）	【必須】経営の質向上（医業収入の増加・コスト管理） 【共通】THANKS文化の浸透（サンクスギフト） 【共通】職員の適正配置（職種横断で適所適材） 【共通】職員の定着促進・離職防止・リクルート強化 【共通】医療介護PFMの強化 【共通】入所・通所・訪問サービスの強化 【本院・金沢】恵寿セルケア方式の強化（多職種協働） 【本院・金沢】診療報酬改定に対応した体制の構築 【本院】病院機能評価受審に向けた準備
満足度を 100%にする	DX/Data/Design 【本院・金沢】医療の質改善 【本部】施設の老朽化対策 【介護】ロボットの導入 【本院】待ち時間対策と運用・ポケメド活用 【共通】ペーパーレス化（同意書など）の遅れ	DX/Data/Design 【本院・金沢】診療内容の充実・強化 【本部】施設の改修 【介護】ロボットの活用・MaaS事業展開 【本院】待ち時間対策強化・ポケメド活用 【共通】ペーパーレス化の達成 【共通】健康経営の浸透	【共通】ファン・マーケティング（ファンづくり・共創）（信頼の心） 【共通】ユマニチュードの浸透（思いやりの心） 【共通】健康経営の浸透（健康経営優良法人） 【共通】福利厚生の充実（福利厚生優良/推進法人） 【共通】心理的安全性の向上（ハラスメントゼロ） 【本院・金沢】待ち時間対策・外来運用見直し・フローの合理化 【本院・金沢】診療内容の充実・強化 【本院・介護】MaaSの浸透（医療介護送迎サービス）
生きるを デザインする	Designによる仕組みづくり 【本部】人財育成・人事評価制度の見直し 【共通】中堅リーダー教育（恵寿MBAコース他） 【共通】院内副業の開始 【共通】くれない族の存在	Designによる仕組みづくり 【本部】新人事評価制度開始 【本院】院内副業の開始 【共通】人財育成教育体制の充実 【共通】中堅リーダー活躍 【共通】自ら進みでる風土づくり（自立と自律の心）	【共通】人財育成教育の体制充実 【共通】自律的なスキルアップ（アップスキリングとリスキリング） 【共通】中堅リーダーの育成・活躍 【共通】法人内副業（スキルシェア）の定着 【本部】新・人事評価制度の浸透
質を上げる	DX/Data/Design 【本院】脳疾患・泌尿器科リクルート 【本院】地域との新たな関係構築（恵寿フェスティバル他） 【共通】BCM/BCPの年次改編 【共通】EK活動の開始・TQM活動の活発化 【共通】ユマニチュードの拡散	DX/Data/Design 【必須】医療介護マネジメントEラーニングでの学習成長 【本院】診療科の充実 【共通】医療・介護の質向上 【共通】地域連携・マーケティングの強化 【共通】地域との共生（恵寿フェス・市民公開講座等） 【共通】強靱なBCM/BCPの策定更新 【共通】KAIZEN(EK活動の定着・TQM活動の進展) 【共通】ユマニチュードの定着 【共通】全部署モニターのフル活用（業務の可視化）	【必須】医療介護マネジメントEラーニングでの学習成長 【共通】医療・介護の質向上 【共通】地域連携・地域との共生/共創 【共通】KAIZEN文化の強化（EK活動・TQM活動） 【共通】全部署モニターフル活用による業務KAIZEN 【共通】強靱なBCM/BCPの策定更新 【共通】ペーパーレス化の拡充 【本院・金沢】クリニカルパスの質向上 【本院・金沢】医療安全文化の醸成 【本院】診療科の充実
新サービスを 創出する	DXの強みを生かす 【本院】オンライン診療の実施 【本院】AI問診の拡大 【本院】けいじゅ救急搬送サービスの体制構築 【金沢】病院機能の再構築（集患・部門・スピード） 【共通】RPAの積極的展開 【共通】生成AIの導入 【共通】iPhoneの導入と活用 【共通】クラウドファンディングの導入	DXの強みを生かす 【本院】オンライン診療の拡大 【本院】AI問診の活用 【本院】けいじゅ救急搬送サービスの進化 【金沢】病院機能の再構築（集患・部門・採算） 【共通】RPAの活用 【共通】生成AIの活用 【共通】iPhone業務の効率化 【共通】新たなDXの導入	【共通】新たなICTの導入・DXの活用 【共通】AIの活用拡大（生成AI・AIエージェント等） 【共通】業務用iPhoneの活用拡大 【本部】ERP・EAI（業務統合・システム連携）の促進 【本院】ウェアラブルデバイスの活用（HUAWEI等） 【本院】けいじゅ救急搬送サービスの進化 【金沢】病院機能の強化（集患・部門） 【介護】テクノロジー（ロボット）・インカムの活用拡大

■あるべき姿（能登・金沢地区）

医療
介護
生活

1. 能登地区方針

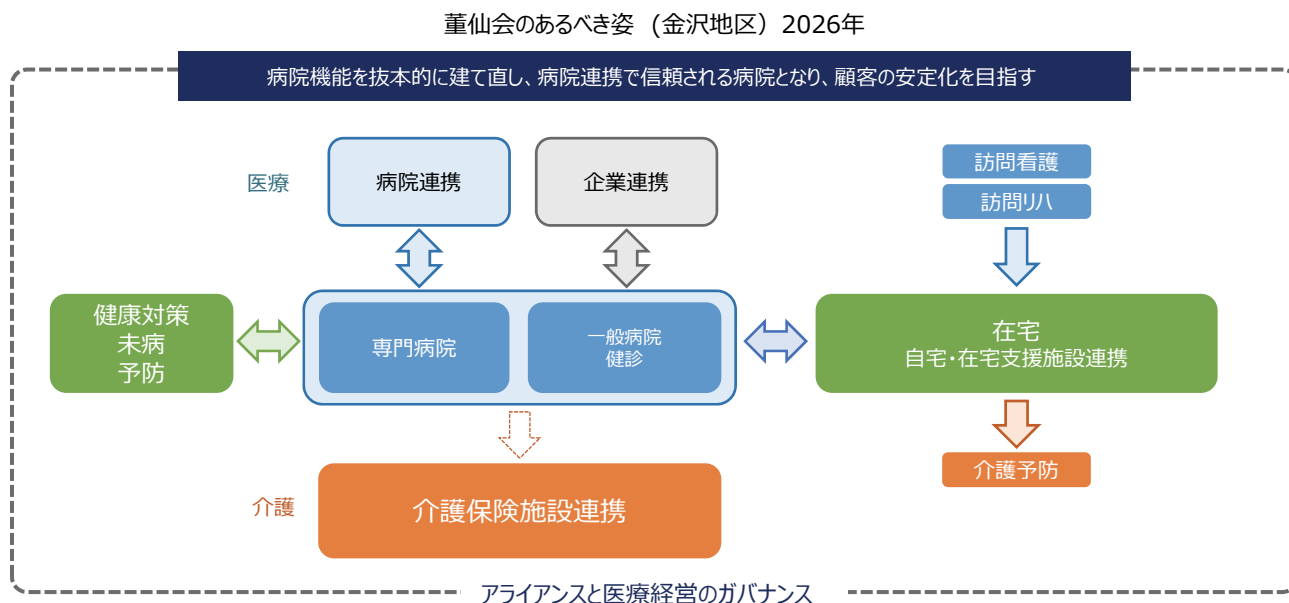
【図3】董仙会のあるべき姿（能登地区）の中では、急性期医療から生活支援までまずPFM（Patient Flow Management）を完成することである。本院ではデータに基づくPFMが2023年度確立したため、今後施設間への拡散が期待される。特に鳩ヶ丘・和光苑・鶴友苑は本院からの利用者受け入れが重要である。また施設では夜間医療が手薄になるため、急変時は本院での受け入れが重要である。訪問系サービス・通所事業は効率化の課題があり、機能を十分に果たし切れていない。地域包括ケアステーションという考えのもとサービス提供日などの集約を図り効率化を進め、併せてサービスの質向上を図ることが肝要である。選択と集中である。



【図3】董仙会のあるべき姿（能登地区）

2. 金沢地区方針

【図4】董仙会のあるべき姿（金沢地区）の中では、病院機能の抜本的建て直しが急務である。紹介元の大学病院・県中などからの信頼を得られるにはどうすることが必要なのかゼロベースで院内における議論から始めなければならない。またデータに基づき1日あたりの新入院患者数を達成できるように医師が中心となり体制再構築を行うべきである。NTT関係会社の健康を預かる病院として、未病・予防などの健康対策に注力されたい。新病院構想を受け、健診業務・外来運用など「昭和の病院」からの脱却を図りたい。



【図4】董仙会のあるべき姿（金沢地区）

董仙会本部 事務管理統括部門

董仙会本部

■ 常務理事	■ 理事長補佐	■ 本部長
神野 厚美	神野 正隆	進藤 浩美

■ 2025年度のトピックス

地震復旧補助金は原状復旧が原則であるが、以前の状態を再現できない3病棟の復旧工事について申請や説明に多大な時間を要した。下記が3病棟メイン工事である。

	既存の状態（被害）	復旧
空調換気	① 5病棟の2基の蒸気ボイラーが損傷。地下配管で3病棟に冷温水を送り冷房、暖房不可能。 ② 3病棟の蒸気式外気処理空調機2基が損傷。	① 5病棟のボイラーを更新しても、地下配管の損傷あり、エアコンに変更。 ② 5病棟の蒸気ボイラー更新しなければ蒸気式使用困難。電気式に変更。不足分は小型交換機を設置。
給湯	③ ①のボイラーが損傷し、3病棟屋上の貯湯槽も損傷、給湯困難。	③ 応急で産科系統をガス温水器設置、恒久的に電気温水器、貯湯槽は1階屋外設置。
給水	④ 本館の受水槽より、ポンプで3病棟屋上の市水、井水の水槽に送水していたが、ポンプも水槽も損傷。	④ 本館より直接加圧給水ポンプにて3病棟に送水。井水量不足予防で節水型便器に変更。

■ 事業報告

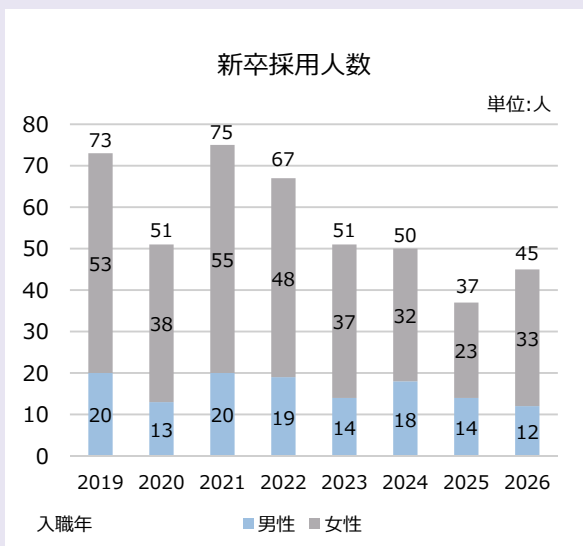
- ① 受賞：災害でも医療を止めないレジリエンス力が評価され第5回日本サービス大賞地方創生大臣賞を受賞。福利厚生推進法人に初認定、例年に続き健康経営優良法人に認定。和光苑では介護職員の働きやすい職場環境づくり厚生労働大臣表彰奨励賞を受賞。
- ② 新人事評価制度：評価基準を見直し、E-learningを活用して職員への浸透を目指した。
- ③ 人材育成：必須研修にWaculbaゼミを導入。ファシリテーターはMBA1期生が担当した。E-learning必修講座の履修率が95.4%まで上がった。
- ④ システム：新システム情報基盤をリプレイスし、拡張性・自由度を増強。金沢病院へのiPhone導入により、全体保有台数は750台に。新アプリ導入用の規程を整備。HUAWEIのスマートウォッチと電子カルテの連携実証を実施。総務部人事システムをクラウドに移行完了。
- ⑤ MaaS：SpareのAIプラットフォームを使用して、定時＆オンデマンド相乗り送迎サービスの「楽のり君」と和光苑とエレガテナぎの浦での協働送迎を開始した。
- ⑥ 地域包括ケアセンターを新設し、ケアマネ、訪問看護、訪問リハ、ヘルパー、福祉用具レンタルの各ステーションが協働できるようにした。

総務部

■部長

松田 久良

■2025年度のトピックス



■事業報告

- ① 新卒採用は早期に対応を心掛け、修学資金制度を充実させるなど、人材確保の強化、採用時期の早期化に対する対策が奏功し、昨年度実績を超える実績の新卒を採用することができた。
- ② 育児・介護にかかわる制度改正があり、それに対応するだけでなく、董仙会として現場の実情に適合するように就業規則を改正を行った。また、その改正ポイントをTQM大会で発表して職員に対して周知徹底を図った。
- ③ 人事システムをクラウド化して新システムを導入し、職員の人事労務に関する多くの申請を電子化し、職員の利便を図ると同時に総務事務のペーパーレス化、生産性向上を実現した。
- ④ 健康経営対策も積極的に行い、健康経営優良法人2026の取得につながった。また、福利厚生制度も充実させ、福利厚生推進法人ハタラクエール2026を取得した。
- ⑤ 新たに導入したE-learning研修受講システム「Waculba」の運用を充実させ、職員へ新たなコンテンツを提供し、4Qに分けて必須講座を指定、受講勧奨を組織的に行った結果、通期の必須講座の受講率が95.4%の高水準となった。

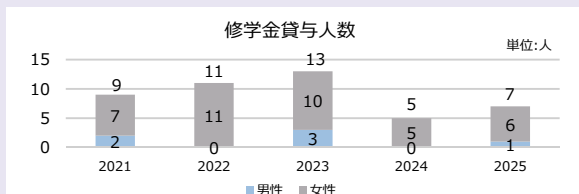
総務部 総務課

■課長

中川 豪、小間 剛

■2025年度のトピックス

新卒採用を強化すべく修学資金貸与者について2025年度から対象を全職種への貸与に拡大した。



■事業報告

- ① 震災で休止していた「楽のり君」を2025年7月28日より再開した。時刻表による定時運行とAIを活用したオンデマンド運行で利便性を図った。
- ② 震災被害による施設の修繕は、細かな修繕はあるものの、大規模な修繕は2025年度末で完了した。

総務部 秘書課

■課長

一谷 真澄

■2025年度のトピックス

2025年6月28日付で神野理事長が全日本病院協会会長に就任したことに伴い、秘書課の業務範囲が拡大した。

業務	件数
理事長宛メールの管理 秘書課管理メール件数	8,799件/年（4月～3月）
来客応対件数	89件/年（4月～3月）
名刺管理システムの導入 名刺取り込み件数	2,219件（7月～3月）

※名刺管理システム導入により、スマートフォンでの名刺閲覧が可能となった。

■事業報告

- ① 月・火曜日の対面打合せに加え、金曜日にオンライン打合せを新設。週前半の協議内容について翌週まで待たずに確認・調整が行えるようになり、理事長業務への対応の即時性が向上した。
- ② 秘書業務の言語化・見える化を推進し、秘書課業務に関するマニュアル（108ページ）を新たに作成した。

財務部

■部長

安井 智美

■2025年度のトピックス

能登半島地震の復旧工事が終了し、災害復旧費国庫補助金の実地調査が行われた。調査当日以降の膨大な質問事項への対応と、次の施設の資料準備を並行して行う必要があり、厳しい日程であった。補助金の査定額が決定し、交付申請並びに事業実績報告の提出終了をもって、一連の補助金関連業務に区切りがついた。

施設名	実地調査日程
鳩ヶ丘	9月11日～9月12日
田鶴浜診療所	10月7日～10月8日
鶴友苑	10月7日～10月8日
恵寿総合病院	11月11日～11月13日
和光苑	11月20日 ※1日目で終了

■事業報告

① 証票の電子化

国税関係書類（請求書・領収書等）の電子化を進め、過去2年分も含めて100%を達成した。これにより保管スペースの圧縮や検索など各種処理時間の短縮も実現した。また、月初に集中する資財課の請求書処理業務の内、スキャナ保存業務を経理課とタスクシェアする事で、業務の分散化を図った。

② 財務部の動線見直し

本部の修繕改修に伴う一時的な引越しを利用し、5Sの実施と業務フローの見直しを行った。経理課と資財課が各々で管理していた、資料や物品を共有する事により省スペース化や業務の効率化を実現した。また、資財課物品供給室の場所を移動した事に伴い、納品から保管までの動線の短縮と事務スペースのサテライト化による伝票処理時間の短縮も図った。

③ 本院3病棟3階の修理と改修

震災時に非常食や各種資機材の保管スペースとして利用していたが、工事開始にあたり移動が必要であった。保管場所の確保は勿論、重量物や電子機器が大量にあり対応に苦慮した。

財務部 経理課

■課長

河合 隆志

■2025年度のトピックス

スキャナ保存元年 過去2年分の証憑の電子化100%



■事業報告

- ① スキャナ保存元年：これまで物理的な管理が必須であった国税関係書類（領収書・請求書等）の電子化を開始した。省スペース化及び外部監査における証憑提示のスピードアップを実現させた。
- ② BCP：従来の紙媒体による管理には災害時における消失リスクが存在しているため、そのリスク低減に向けた確かな一歩を踏み出した。

財務部 資財課

■課長

延田 宗久

■2025年度のトピックス

患者用非常食に引き続き、法人全体の職員用非常食整備を実施した。同時に、全施設で災害食体験も実施した。

施設・地区	体験した防災食
本院	UAA食品 美味しい防災食 豚汁
金沢	本物ごはん カレー・チャーハン・五目御飯
和光苑	ひだまりパン プレーン
恵寿鳩ヶ丘	アルファ化米 山菜おこわ・野菜と果物が溶け込んだカレー
鳥屋地区	ひだまりパン プレーン

■事業報告

- ① 鳩ヶ丘・和光苑への見守り機器導入、既存見守り機器を含め一括して業務用iPhoneでの見守り体制構築。
- ② 介護施設のおむつ値上げ提示に対し、おむつ使用の実態調査と使用方法の見直しを行う事で値上げ分を吸収した。
- ③ アスクルの長期間供給停止（サイバー攻撃）に対応。
- ④ 物品供給室を移動し、サテライト業務体制を構築した。

企画部

■ 常務理事

神野 厚美

■ 部長

神野 彩

■ 2025年度のトピックス

- 「日本サービス大賞」を受賞し、当法人の震災時の対応が全国レベルで評価された。
- 董仙会BCMを大幅に改定し、事業継続力を強化した「Ver.5.0」として発刊した。
- 年間508件の制作物作成を可視化し、広報業務の規模を定量化。AI活用・DX推進・データ分析を通じて業務効率と品質を向上させ、ブランド強化を推進した。

項目	内容
日本サービス大賞	2017年総務大臣賞に引き続き、今回の地方創生大臣賞は2回目の大臣賞受賞となった。
董仙会BCM改訂	能登半島地震における経験知や教訓を全面的に盛り込み、内容を一新。各災害ごとの、非常時における法人のあるべき姿を明確にし、より実践的で充実した内容とした。

■ 事業報告

- AIを活用した画像・動画作成・エージェント・アプリ開発など新技術導入を積極的に推進し、制作・広報の内製化と品質向上を実現。
- 4月に「ぼっぼちゃん」デザインをリニューアル。また、シール・マグネット・カレンダー・不織布バッグ・ペン・うまい棒等、多数のオリジナルノベルティを新規制作した。
- 年間の制作依頼件数は、法人内30以上の部署・施設から合計278件にのぼった（初回制作119件／印刷87件／増刷・修正46件（HP修正を除く））。これに、企画部独自の制作活動230件を加えた総計508件の制作業務に対応。
- Microsoft Formsと連携した未完了タスクを自動変換するアプリをWeb公開。いずれも専用URLから利用できる環境を整え、属人的な業務を標準化し、生産性向上と進捗管理の見える化に努めた。
- デジタルコンテンツ拡充：Monthly Medical Report、メディア掲載ページ、アプリ実装（オプション検査ナビゲーター）等のHPコンテンツを新設。MEO施策によりGoogleクチコミ点数2.8→3.4へ向上。LINE公式も運用継続。

情報部 情報管理課

■ 部長

小澤 竹夫

■ 2025年度のトピックス

導入・更新 システム一覧	情報システムインフラ基盤更改
	HUAWEIのウェアラブルデバイス実証実験
	電子サインシステム導入
	AI画像補助診断システム導入
	マンモレポートシステム導入
	施設間接続ネットワーク更改
	鳩ヶ丘無線ネットワーク構築
	遠隔読影システム更改

■ 事業報告

- 仮想システムをはじめとする董仙会の情報システム基盤を更改し、仮想マシンはWindows11で構築した。システム更改により、従来よりも仮想システムのパフォーマンスが上がった。
- 電子サインシステムを導入し、電子カルテシステムのペーパーレス化を促進した。
- HUAWEIのウェアラブル端末の実証実験が終了し、今年度に本格導入を予定している。

事務管理統括部門 董仙会本部 委員会・プロジェクト

給食戦略委員会

- 委員長
神野 厚美
- 副委員長
進藤 浩美

■2025年度のトピックス

サテライトキッチンの厨房職員確保の困難さから、盛り付け業務をセントラルキッチンに集約していく方向を検討し、穴水地区で実現した。

また、セントラルキッチンの有効性を生かし、給食体制の維持を主眼として業務改善を行っている。

→①完全調理品の検討

■事業報告

- ① 株式会社日本通商と未来型給食提供検討、ポイントは製造済副食の冷凍、ディスプレイにて人手不足対策
- ② 91周年創立記念日（井フェス）実施
- ③ 本院産科病棟夜食提供方法の変更（菓子等より軽食に変更）、加熱は各自好みの時間帯で電子レンジ使用、デイルームに電子レンジ設置
- ④ 鶴友苑厨房機器撤去、和光苑西サテライト5S実施

クリーン&5S委員会

- 委員長
神野 厚美
- 副委員長
進藤 浩美

■2025年度のトピックス

4月	鶴友苑・田鶴浜診療所・ローレルクリニック 閉鎖後5S
5月	地域包括ケアセンター開設準備、ケアマネ・訪問看護・訪問リハ引越しと5S
6月	阿良町倉庫のカルテ、検体を新規購入つじが浜倉庫に移動 復興支援隊に一本杉カルテをつじが浜倉庫へ移動依頼
7月	復興支援隊に図書室・こばと倉庫等の5Sと草刈りを依頼
8月	本院5病棟ポータブルトイレ棚の5S
10月	瓜生倉庫の5S
12月	鳩ヶ丘フィルム倉庫・プレハブ倉庫の5S
2月	本部 3病棟3階への引越しと5S
3月	本部 3病棟1階への引越しと5S、病院事務部 3病棟3階への引越しと5S 3病棟地下資材課出し倉庫の引越し、職員ロッカー集約・引越し

■事業報告

- ① オリックス委託での今年度トピックスは、病棟床下コンセント収納部、救急センター・手術センターの天井と床、職員更衣室のロッカー上のメンテナンスである。
- ② 天井のカビ対策として、5年間持続のカビ防止塗装を救急センターで試し、ER自動ドア反応調整も実施した。
- ③ コンセント、アダプターの焦げ交換多数あり、全部署モニターでトラッキング現象についての理解力アップを図った。

広報委員会

- 委員長
神野 彩
- 常務理事
神野 厚美

■ 2025年度のトピックス

広報委員会での報告内容を基に、プレスリリースの発信およびHP上のコンテンツ拡充を行った。また、今年度も複数の受賞実績を獲得し、組織ブランドの強化につなげた。

活動	
受賞数	9タイトル
プレスリリース発信	プレスリリース（北陸）：36回 プレスリリース（全国）：2回

■ 事業報告

受賞順:病院広報アワード2025 優秀賞（経営者部門）／Success of the Year Award by GHC／介護職員の働きやすい職場環境づくり厚生労働大臣表彰 奨励賞（和光苑、ローレル）／日本サービス大賞 地方創生大臣賞／日本経営財団賞／WORLD'S BEST HOSPITAL2026（恵寿金沢）／READYFORインパクトアワード2026「審査員賞」／日本のサービスイノベーション2025

TQM・EK活動委員会

- 委員長
森下 毅
- 副委員長
安井 智美

■ 2025年度のトピックス

今年度のテーマは「MOTTO」。優秀賞は以下のとおり。

前期	活動テーマ
セッション1	呼吸機能検査、MOTTO分かりやすくMOTTO効率的に
セッション2	外来改革！フレキシブル運用による生産性の最大化
セッション3	看護師・介護福祉士との協働による褥瘡・スキンケア予防：専門性連携による個別ケアの深化
後期	活動テーマ
セッション1	MOTTO満足 MOTTOオプションもっとMOTTO増収
セッション2	地域PFMの構築 ～無限に繋がる支援の輪：インフィニティリング～
セッション3	地域包括ケア病棟から安心を届ける～在宅と直入院の連携～

■ 事業報告

- 2025年度のTQM活動は、28件の活動報告があった。前期の発表大会を2025年9月27日（土）に、後期の発表大会を2026年2月28日（土）に開催した。タスクシェア・シフトを目的とした内容が目立った。
- EK活動報告件数は941件となり、前年度554件から大きく増加した。KAIZEN文化の浸透が顕著になってきている。

個人情報管理委員会

- 委員長
進藤 浩美

■ 2025年度のトピックス

iPhoneに新たに導入したアプリケーション

導入アプリ	目的	導入先
Copilot	業務効率化	全職員
Waculba	人財育成	全職員
THANKS GIFT	コミュニケーション活性化	全職員
HOKUTO	医師臨床支援	医師
眠りSCAN	介護の見守り支援	和光苑・鳩ヶ丘
ネオスクエア	介護の見守り支援	介護施設
トイレDIARY	介護の見守り支援	和光苑

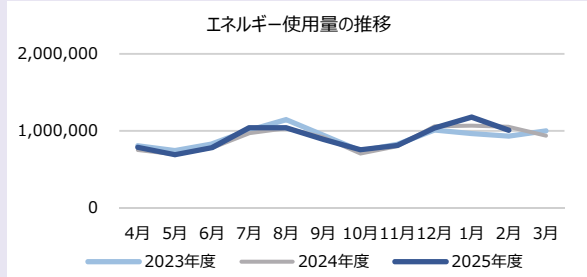
■ 事業報告

- 董仙会個人情報マネジメントシステムを変更した。
- iPhone運用管理規程を改定した。
- プライバシーポリシーにおいて、改正個人情報保護法の政令第10条（1）に該当する「保有個人データの安全管理のために講じた措置」が曖昧だったため、新たに、「10.安全管理のために講じた措置について」の項目を追加した。

EM（Energy Management）委員会

- エネルギー管理企画推進者
森下 毅

■ 2025年度のトピックス



■ 事業報告

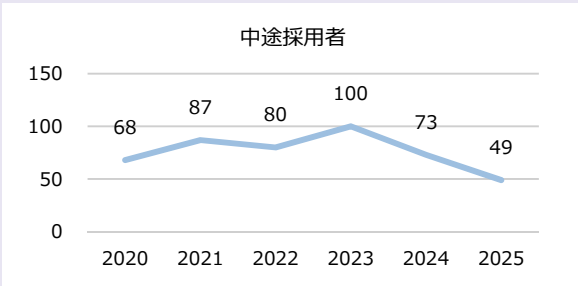
- 光熱費モニターを活用し、月ごとのエネルギー使用量をモニター監視を行った。
- 昨年度から、エネルギー効率の悪い旧式ボイラーなどを交換・廃止している。また、古い照明機器のLED化も順次進めている。
- 電気使用量は前年対比で2.5%と微増した。節電についての啓発を行っていく。

リクルート委員会

■委員長

松田 久良

■ 2025年度のトピックス



■ 事業報告

- ① 能登半島地震後の人口減少などの要因により、人材不足が深刻化した。被災者雇用維持の観点から、地元企業からの出向やアルバイト、震災復興応援ナースなどを積極的に受け入れたが、中途採用者は低調な結果となった。
- ② 医療の質向上のため、経験豊富な救急科、放射線科、泌尿器科の医師を各科1名ずつ採用した。

福利厚生委員会

■委員長

松田 久良

■ 2025年度のトピックス

福利厚生推進法人ハタラクエール2026を取得した。



■ 事業報告

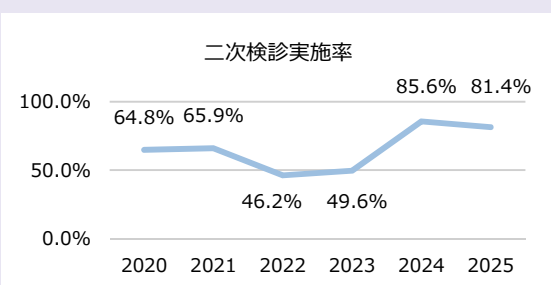
- ① こども参観日：恵寿総合病院だけでなく、和光苑、鳩ヶ丘にも拡大して開催した。
- ② 七尾港まつり：震災後再開の港まつりに200名参加。
- ③ サンクスギフト：職員同士で感謝を伝えるアプリ「THANKS GIFT」を導入した。
- ④ 日本病院会倶楽部：日本病院会のサービスの利用を開始した。

健康経営対策委員会

■委員長

松田 久良

■ 2025年度のトピックス



■ 事業報告

- ① 健康診断・特定健診定期健康診断：計画どおり実施し、未受診者への個別対応を徹底した。
- ② 特定保健指導・二次検診特定保健指導：早期介入を重視し、受診率の維持・向上に努めた。二次検診は昇級制度との連動や上司を含めた働きかけにより、受診の定着を促進した（81.4%）。
- ③ 外部評価：健康経営優良法人2026を取得した。

人事評価プロジェクト

■リーダー

神野 正隆

■副リーダー

神野 厚美、進藤 浩美、松田 久良

■ 2025年度のトピックス

見直した評価基準：成果評価、総合評価割合、昇級基準

	成果評価 5段階	%
S	目標を大幅に上回る結果	150% < 達成度
A	目標を上回る結果	100% < 達成度 ≤ 150%
B	目標をほぼ達成した結果	90% < 達成度 ≤ 100%
C	目標を下回る結果	60% < 達成度 ≤ 90%
D	目標を大幅に下回る結果	達成度 ≤ 60%

■ 事業報告

- ① 初めてnavigatorシステムを使用し、2024年度成果評価、行動評価、2025年度成果目標提出を実施した。
- ② Navigatorの成果評価結果を活用してヒアリングを実施した。
- ③ 2024年度結果をまとめ、人事委員会で検討。分析結果から評価基準を見直し、周知のE-learningを作成し、ブラッシュアップを行った。

キャリアデザインプロジェクト

■リーダー ■副リーダー
神野 厚美 進藤 浩美

■ 2025年度のトピックス

今年度、見直し更新したE-learningコンテンツ

コンテンツ名
基本理念とMission、中期計画、今期計画、董仙会の概要、倫理綱領、採用時オリエンテーション1・2、就業規則、人事評価規程1・2、服装規程、著作権
コンテンツ名（健康経営）
喫煙と禁煙、あなたの体重をデザインする、介護保険制度入門、睡眠、更年期障害

■ 事業報告

- ① 年間24の研修会を実施。今年度は6班編成でプログラムを企画。Waculbaゼミを利用したグループワーク実施を目指し、ファシリテーターは恵寿MBA修了生が担当。
- ② E-learning必須講座履修は、2026年3月末全体受講率は95.4%と昨年の89.8%をさらに上回った。
- ③ ブルーブック『キャリアデザインプロジェクト2026 Ver.7』を発刊した。

iPhone導入プロジェクト

■リーダー ■副リーダー
進藤 浩美 小澤 竹夫

■ 2025年度のトピックス

けいじゅヘルスケアシステムiPhone導入台数

導入年	董仙会	徳充会	合計
2023.4	本院周囲・予備519	ローレル1	520
2024.10	和光苑28、鳩ヶ丘27 鶴友苑21、ほのぼの11 本院11	ローレル11、エレなぎ21	130
2025.10	金沢病院・予備80		80
2025.12	本院予備21	エレなぎ3、もみの木6	30
合計	718	42	760

■ 事業報告

- ① 2025年度は、金沢病院にiPhoneを80台導入した。固定電話の削減は67台から29台までにとどまり、今後仕組みを変え、さらにPBXの軽量化を図る。不通場所があり、アクセスポイントを5台追加した。
- ② 鳩ヶ丘で、院内ネットワークの構築を実施した。未構築の介護施設のiPhoneのセキュリティ対策として、BONXアプリ導入の場合、Outlookアプリを削除した。

復興補助金タスクフォース

■リーダー ■副リーダー
進藤 浩美 安井 智美

■ 2025年度のトピックス

災害復興補助金申請 申請必要書類
●協議書（全ての工事内容・見積金額・工事時期を記載） ●個表（見積の内容、数量・単価・金額を記載） ●見積、図面・損傷写真（見積ごと） ●損傷証明書（機械類） ●見積1社理由（見積ごと） ●隣接する施設の費用按分と根拠書類（例 鶴友苑と診療所の間の工事は、診療所、エレなぎ、もみの木が隣接、費用按分と根拠資料）
査定 → 査定額確定
●印刷（厚労省分、財務局分、上記書類全て） ●見積項目ごと査定（例：病院の場合、アスファルト舗装は配管工事面積以外は査定）
報告書提出 → 交付決定通知、交付確定通知
●注文書・請書・請求書・完成後図面・完成写真・工事完了報告書（見積ごと） 精算交付申請書
●申請書 ●収入支出決算書抄本 ●口座振込依頼 ●請求書

■ 事業報告

- ① 恵寿総合病院、鳩ヶ丘、和光苑、鶴友苑、田鶴浜診療所の5施設について地震復興補助金を申請した。
- ② 地震による介護施設の損傷した備品、設備の災害復興補助金は、鳩ヶ丘、和光苑、鶴友苑、ケアマネステーションの4施設分を申請した。
- ③ 病床機能再編支援給付金、病床機能転換補助金を申請した。

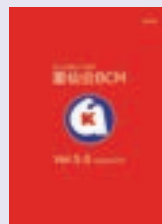
BCMタスクフォース

■部門代表者
神野 厚美、神野 彩

■ 2025年度のトピックス

BCM Ver.5.0 表紙

参考資料（職員証明書）



■ 事業報告

- ① 2024年能登半島地震において、功を奏したBCM4.0に震災時の対応を付記し、大幅に改訂した。非常時における危機管理統括本部設営から各班の役割まで詳細をリスクごとに再定義を行った。連絡体制も各班ごとに明記し、職員が行動を起こしやすいようにした。
- ② 参考資料として、切り取って使える資料を掲載し、早急な対策も可視化した。

医療事業統括部門 恵寿総合病院

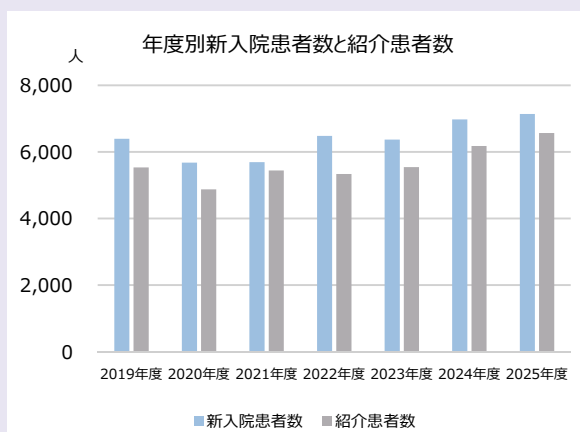
恵寿総合病院

■病院長

鎌田 徹

■2025年度のトピックス

地域住民や他医療機関からの信頼度を示す重要指標である新入院患者数と紹介患者数は、新型コロナや能登半島地震の影響を受けた2020年度と2023年度は低下したが、その後は回復し、2025年度はいずれも過去最高を記録した。



■事業報告

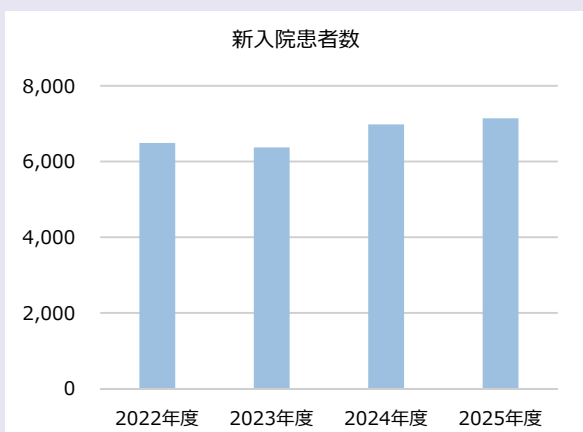
- ① 病院指標等について（↑:前年比上昇、↓:同低下）
病床稼働率、平均在院日数、急性期の医療・看護必要度Ⅱは、83.6%↑、11.0日↓、①21.5%↑②31.9%↑だった。救急車受入台数、新入院患者数、全身麻酔件数は1,862台↑、7,138人↑、863件↓、紹介・逆紹介数は6,568件↑、7,978件↑だった。
- ② 新たな取組・イベント・受賞などについて
4月新リニアック稼働。6月HUAWEI製スマートウォッチを用いた世界初の入院患者向け実証試験開始。7月rTMS（反復経頭蓋磁気刺激）導入、七尾港まつり総踊り200名参加。9月けいじゅフェスティバル開催、急性期入院基本料1を2に変更、CSIRT（サイバーセキュリティ対応チーム）発足。12月日本サービス大賞（地方創生大臣賞）受賞。1月JMIP認証。2月市民公開講座（認知症）開催、けいじゅ救急搬送サービス受付対応時間延長。
- ③ 今後に向けて
医療安全を基本とし、職員満足度を高めながら、医療・看護・介護の質と利用者へのサービス向上に努める必要がある。DXやユマニチュード等の取組をさらに推進し、当院の課題である外来患者満足度を高める。

診療部

- 診療部長 ■診療副部長
能登 正浩 金田 朋也

■2025年度のトピックス

昨年度に引き続き新入院患者数の増加を第1目標とした。年間累計では、前年度を2.3%増加し過去最高を更新した。電子カルテシステムにも生成AIが搭載され、退院サマリーの作成等の作業効率が格段に向上した。



■事業報告

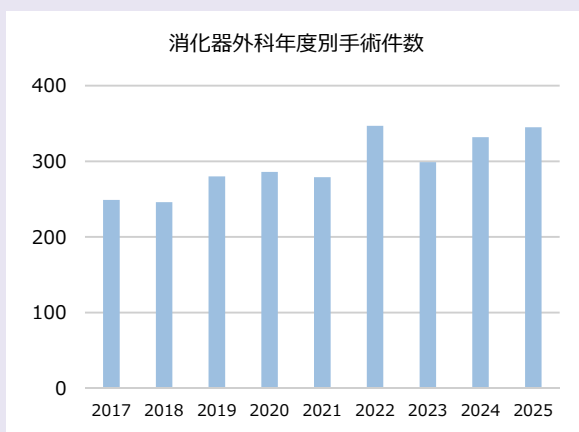
- ① 新入院患者数の目標を570人/月とした。年度平均で595人/月となり目標を達成となった。
- ② 手術件数は、前年度比101.4%と増加した。全身麻酔件数は、前年度比で10.5%減少したものの、過去で2番目の件数であった。
- ③ 恵寿ローレルクリニックが閉院となり、クリニックのかかりつけ患者を本院外来の各診療科で継続して診療することとなった。結果、外来患者数は4.5%の増加となった。
- ④ 生成AIを活用推進を継続した。電子カルテシステムにも生成AI機能を搭載し、退院サマリー作成等の作業効率は向上し、記載率アップにも寄与している。AIによる胸部単純X線画像診断支援の実運用に加え、頭部CTや頭部MRIにおいても実証実験を行った。
- ⑤ 医師一人当たりの平均残業時間は、前年度比で9%減少した。
- ⑥ 9月に開催したけいじゅフェスティバルにも、多くの医師が参加し、体験ブースでのレクチャーやミニコンサートで会場を盛り上げた。

消化器外科

- 所属医師
能登 正浩、荒木 崇博、梅村 太一

■2025年度のトピックス

2025年度は手術件数が345件であった。2024年度より13件増加し、過去9年では2番目に多い件数であった。



■事業報告

- ① 消化器外科の昨年度の手術件数は345件であり、過去9年間では2022年度に次ぐ2番目に多い件数だった。全麻件数は280件であり、2022年度から大幅に増加した後、震災のあった2023年度を除くとほぼ同等の件数で推移している。
- ② 手術時間・在院日数についての検討でも、2022年以前と比較し2022年以降は大幅に改善を認め、その状態を維持している。
- ③ 今後、能登地域の人口減少に伴い手術件数の減少が懸念されるが、その対策として特別なアクションで何とかしようとするのではなく、目の前の患者に対して満足度の高い診療を提供していくことが、紹介を含む外来患者数、手術件数の安定につながると考えている。今まで通り、地域に即した満足度の高い医療の提供を目指して診療を継続したいと考えている。

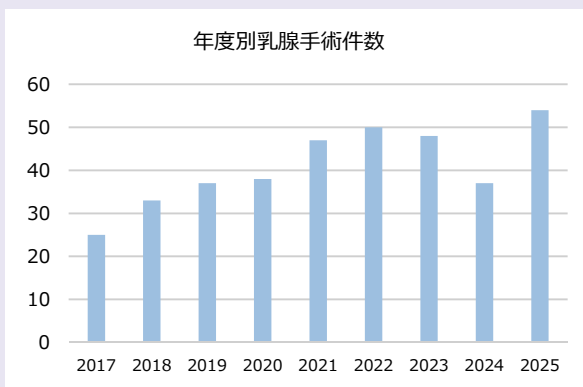
乳腺外科

■所属医師

鎌田 徹、高井 優輝

■2025年度のトピックス

2024年度は震災の影響を受け、業績が一時的に落ち込んでいたが、2025年度においては概ね年間を通じて業績が大きく回復し、月々の売り上げも順調に推移した。特に、乳腺手術の症例数が過去最高の54例に達し、その成果が業績向上に大きく貢献したものと考えられた。



■事業報告

- ① 今年度において乳癌患者の集患という意味では、乳腺外科への紹介件数の減少や、当院ドック乳癌検診受診者数の減少（婦人科医師の減少により女性の受診者数が減少する曜日があった）など、乳腺科の業績向上には不利な要素も認められたが、結果として乳癌手術症例数は過去最高件数であった。要因として、これまで紹介のなかった病院からの紹介があったり、インターネットを通じて当院を選んでいただいたりしたケースなどの経験を踏まえると、徐々に能登地域における恵寿総合病院乳腺外科の知名度や評判が高まっているのではないかとと思われる。
- ② 今年度は、保険適応となっている吸引式乳腺組織生検（VAB）を導入し、コア針生検（CNB）では診断が難しい石灰化病変や不明瞭なしこりなどのケースで使用した。一度に複数の組織を採取することが可能なため、何度も針の出し入れをする必要がなく、診断精度の高い検査となる。また、放射線技師1名が日本乳がん検診精度管理中央機構の乳房超音波試験に合格した。今後も多職種協働で乳癌診療の精度向上に努めていきたい。

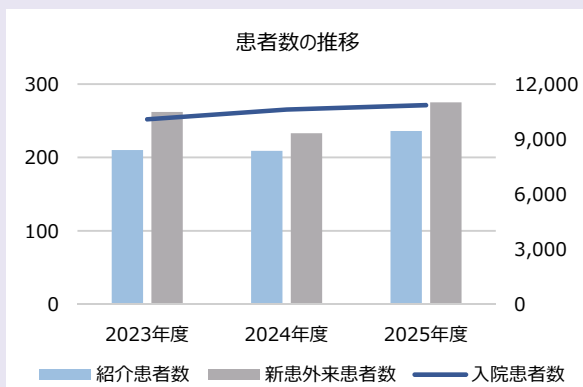
血液内科

■所属医師

山崎 雅英、中川 紀温

■2025年度のトピックス

金沢大学血液内科、恵寿金沢病院とも連携し、最先端で患者に最も適した医療を行った。「血液がん地域連携セミナー in 能登」「穴水総合病院血液疾患勉強会」などを通じて能登唯一の血液内科専門医・指導医常勤施設として、能登地区の血液疾患診療を支えた。



■事業報告

- ① 金沢大学血液内科、恵寿金沢病院と連携し、CAR-T療法、造血幹細胞移植など、最先端で患者に最適な医療を提供した。
- ② 自院で非ホジキンリンパ腫や多発性骨髄腫に対し、二重特異性抗体療法など、新規治療を導入した。
- ③ 能登唯一の血液内科専門医・指導医常勤施設として、「血液がん地域連携セミナー in 能登」「穴水総合病院血液疾患勉強会」などを通じて能登地区の血液疾患診療連携を推進した。
- ④ その結果、紹介患者数（210名（2023年度）→209名（2024年度）→236名（2025年度））、逆紹介患者数（281名→219名→345名）、新患外来患者数（262名→233名→275名）、入院患者数（10,080名→10,609名→10,849名）と能登半島地震にもかかわらず順調に増加している。
- ⑤ 学術活動も積極的に行った。（論文1報、学会発表9件、講師・座長15件）

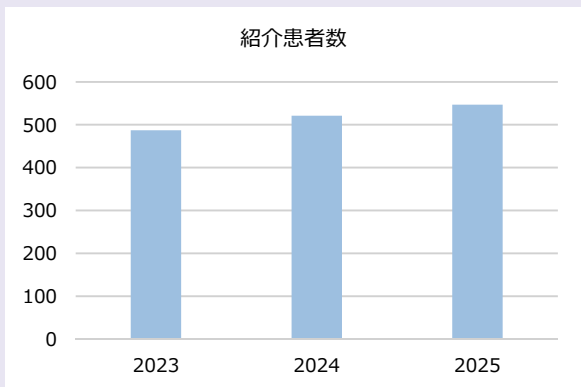
呼吸器内科

■所属医師

松岡 寛樹、中井 知帆香、掛下 和幸

■2025年度のトピックス

- ① 日本呼吸器学会専門医（1名）、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医（2名）、日本肺癌学会暫定指導医（1名）が新たに誕生、肺癌教育認定施設に承認された。
- ② 紹介患者数はここ3年で最多となった。



■事業報告

- ① 地域連携（紹介・逆紹介）を推進した。
- ② 新規紹介患者は徐々に増加傾向であり、今年度も専門的な医療の質の向上を目指し、さらなる増加を狙う。
- ③ 肺癌教育認定施設に承認されたため、新たに新設された日本肺癌学会専門医の取得を目指し、能登地区の肺癌診療においてより中心的な役割を担う。
- ④ 間質性肺炎患者の早期発見・治療のため、簡易なパンフレットを作成し、能登地区の医療機関に配布し、紹介しやすい環境づくりを行う。
- ⑤ 2026年に金沢大学附属病院に呼吸器先端医療センターが開設、当院へ新たに金沢大学附属病院から呼吸器外科医師の非常勤勤務が決定したこともあり、同病院との連携の強化および患者情報共有を緊密に行い、患者にとって最適な治療をスムーズに行う。
- ⑥ 今後は呼吸器内科の増員を要望するとともに、限られた人材での効率的な業務遂行を目指していきたい。

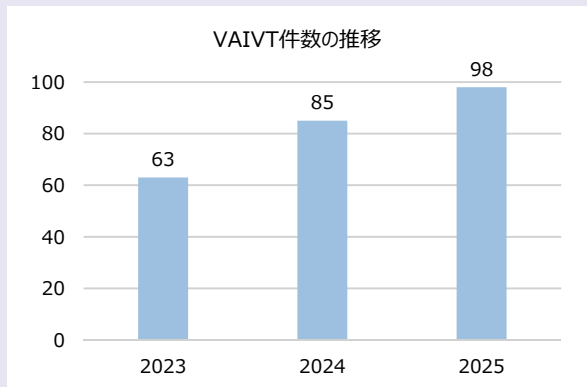
腎臓内科

■所属医師

岡田 圭一郎、矢部 友久、山口 貴之

■2025年度のトピックス

シャント血管内治療（VAIVT）件数の増加や長時間透析の拡大により、血管アクセス管理および透析の質向上を推進し、専門性の高い診療体制の強化が図られている。



■事業報告

- ① 腎臓内科では、新入院患者数は346件（前年比0.3%減）と横ばいで推移し、安定した入院受け入れ体制を維持した。
- ② 紹介件数は200件（前年比13.4%減）、初診患者数は266人（前年比8.6%減）と減少し、新規患者の流入は低下傾向であった。
- ③ シャントトラブルに対する血管内治療（VAIVT）は2024年度85件、2025年度98件（前年比15.3%増）と増加した。また、2025年度より奥能登地域からの受け入れを開始し、3件の実績を得た。
- ④ 血液浄化センターでは、4時間以上5時間未満の透析件数は12,596件（前年比77.9%増）と増加した。5時間以上の透析件数も890件（前年比70.2%増）と増加し、長時間透析の実施体制の強化と質的向上が認められた。これらにより、血管アクセス管理および透析医療の質向上が推進されている。
- ⑤ 今後は地域連携の強化による新規患者確保が課題である。

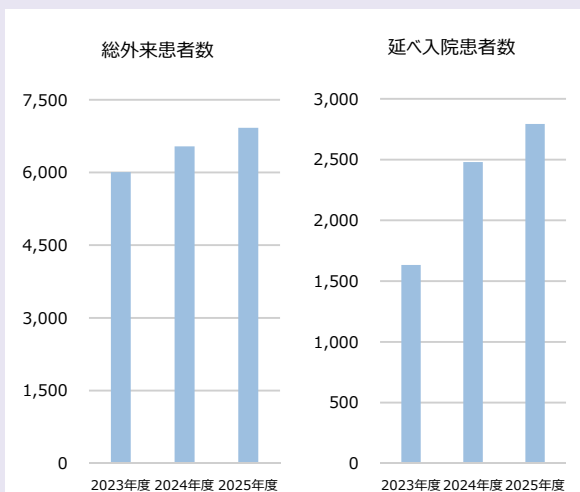
代謝内分泌内科

■所属医師

宮本 正治、塩谷 昌大

■2025年度のトピックス

常勤専門医の確保が困難な中、地域枠の専攻医派遣を得て、診療機能を維持できた。

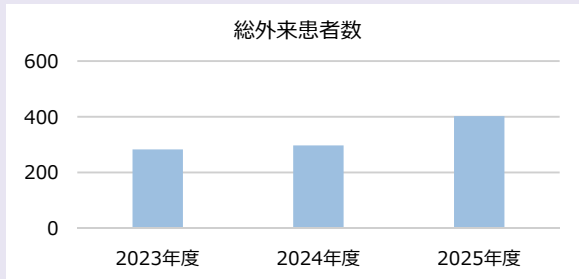


■事業報告

- ① 常勤医の退職が迫る中、病院等の努力で金沢大学代謝内分泌内科より地域枠の医師派遣を得られ、診療機能を維持できた。短期間で医師交代する中、スタッフ、患者の負担があったと思うが、事故なく診療継続できた。
- ② 糖尿病入院患者のケースカンファレンスを継続開催し、病棟看護師はじめ糖尿病チームで疾患のみでなく、患者背景を視野に入れた問題点を共有し、治療にあたる体制を維持・強化した。
- ③ 安全かつ効率的に糖尿病診療が行えるよう、糖尿病委員会の活動を継続した。
- ④ 総外来患者数、延べ入院患者数、逆紹介患者数は微増したが、紹介患者数、新患者数は減少した。かかりつけ医とのつながりを深める努力が求められる。
- ⑤ 糖尿病以外の内分泌疾患としてバセドウ病や甲状腺機能低下などの甲状腺疾患が増加しつつある。
- ⑥ 以前は当院耳鼻咽喉科に紹介して手術した症例はほぼなかったが、甲状腺腫瘍・バセドウ病の手術症例が少しずつ増えてきている。今後、力を入れていきたい分野である。

膠原病内科

■2025年度のトピックス



■事業報告

- ① 非常勤医師による診療体制となっており、日本リウマチ学会 リウマチ専門医により、専門的な自己免疫疾患（関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、血管炎症候群など）の診療を行った。
- ② 外来総患者数は、前年度比で35.4%増加した。当院内科医師（血液内科等）とも連携して対応をしている。

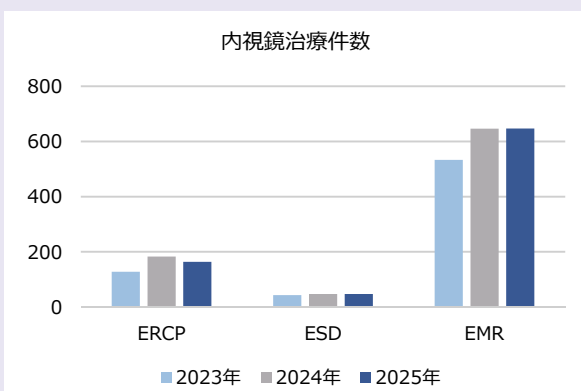
消化器内科

■所属医師

神野 正隆、藤原 秀、吉尾 隆利、上野 和音

■2025年度のトピックス

内視鏡総件数・内視鏡治療件数（以下）は共に前年と比較し横ばいであった。「膵がんMRI検診」からの早期膵がんの拾い上げにも積極的に取り組み、精査（EUS/EUS-FNA/SPACE）件数も増加した。



■事業報告

- ① 健診・外来における内視鏡検査のニーズに応え、直近5年は右肩上がりのトレンドだが前年比ではやや減少した。当日内視鏡も件数制限を設けず対応しており、総件数は9,382件（前年9,576件）。
- ② 24時間365日受入体制で、能登北部・中部医療圏からの紹介を中心に即対応し、速やかに治療を行っている。ERCP164件（前年183件）、ESD47件（前年47件）、EMR647件（前年646件）といずれも前年同等。内視鏡処置完遂率も95%以上を維持している。
- ③ 早期膵癌の拾い上げ・精査にも注力し、EUS/EUS-FNA:31/17件（前年25/11件）、連続膵液細胞診（SPACE）も16件といずれも増加した。
- ④ 紹介886件（前年796件）、逆紹介1,357件（前年1,257件）共に経時的に増加。能登最後の砦として断らない医療を継続しつつ、かかりつけ医との連携強化のため、積極的な逆紹介に引き続き注力している。
- ⑤ パス利用率は年間を通じほぼ100%で推移し、治療の標準化や医師・看護師・メディカルスタッフの業務負担軽減、生産性・効率性向上に寄与した。
- ⑥ データ分析（自病院・ベンチマーク分析等）結果を踏まえ、最適治療を心掛け、指標の改善を行った。

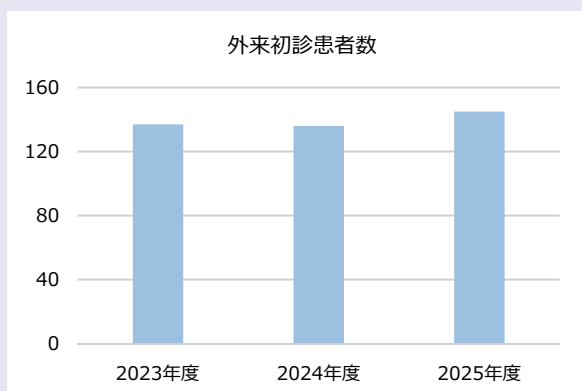
心臓血管外科

■所属医師

西澤 永晃

■2025年度のトピックス

外来初診患者数が増加した。診療体制の縮小があり、心臓大血管手術は現在金沢医科大学病院と連携して行っている。末梢動脈手術、下肢静脈瘤手術は継続している。表在静脈瘤は切除に加え、一部レーザー焼灼による手術に切り替えて行っている。



■事業報告

- ① 患者数実績
外来初診患者数：145人（前年比106.6%）
外来総患者数：2,528人（前年比97.3%）
新入院患者数：151人（前年比92.6%）
総入院患者数：1,892人（前年比66.7%）
外来初診患者数は増加。短期入院患者割合が増加したため、総入院患者数は減少となった。
- ② 手術実績
手術件数は158件（前年比101%）
下肢静脈瘤手術が大半を占める。続いて、透析関係（シャント増設等）が多い。動脈手術は金沢医科大学病院や、金沢医科大学氷見市民病院との連携で対応している。
- ③ 昨年度に引き続き、能登半島地震の影響による、深部静脈血栓症予防の啓発や、これまでの臨床結果をもとに、関連する学会や研修会において発表・報告を行った。第1回DVT検査技師育成研修会を開催した。

循環器内科

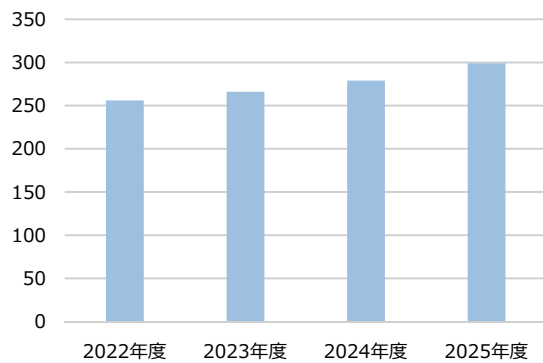
■所属医師

金田 朋也、真弓 卓也、道谷 直樹

■2025年度のトピックス

- ① 初診外来患者数が299人、紹介件数が588件と、直近4年間でともに最多だった。
- ② 日本心臓リハビリテーション学会指導士が誕生した。

初診外来患者数



■事業報告

- ① 患者数は増加傾向を示した。
総外来患者数：8,602人（前年比108%）
初診外来患者数：299人（前年比107%）
延べ入院患者数：8,510人（前年比98%）
新入院患者数：583人（前年比103%）
- ② 手術件数は、207件（前年比105%）で微増した。
経皮的冠動脈形成術 129件（前年比91%）
ペースメーカ植込み術 28件（前年比116%）
リードスペースメーカ植え込み術を導入し、低侵襲となったことで件数の増加に寄与した。
四肢血管治療 30件（前年比300%）
2023年度の件数が少なかった反動か、2024年度は著増した。
- ③ 珠洲総合病院の出張外来を継続している。能登北部の地域医療に今後も貢献していく。

脳神経外科

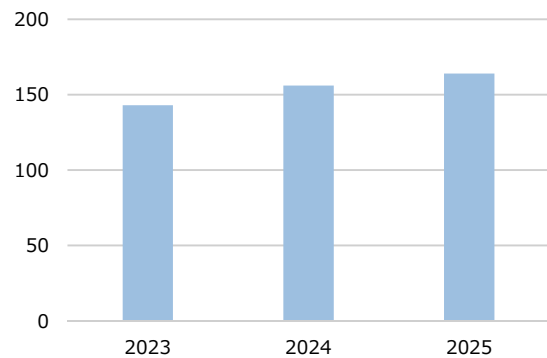
■所属医師

岡田 由恵、東 壮太郎

■2025年度のトピックス

東 壮太郎医師が頭痛学会専門医を取得した。

紹介患者数

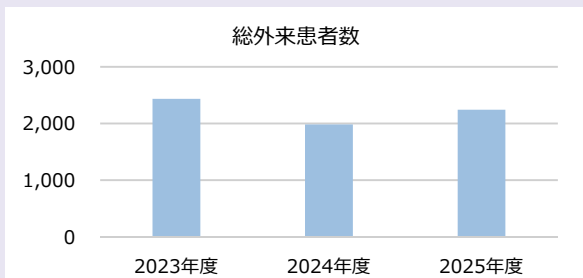


■事業報告

- ① 新入院患者数：141人
手術件数：6件（慢性硬膜下血腫6例）
tPA症例：6例
- ② 平均在院患者数は24人。
- ③ 能登総合病院をはじめとして、金沢大学病院、県立中央病院、金沢医科大学病院の脳神経外科で、超急性期治療終了後症例の転院受け入れ依頼に対し、回復期リハビリ病棟と調整して受け入れている。
- ④ 血栓回収術を含む緊急手術が必要な症例に関しては、能登総合病院、金沢大学病院、県立中央病院、等と連携し、迅速に対応できる体制をとっている。
- ⑤ 脳腫瘍、未破裂脳動脈瘤等で、高度な治療が必要な症例に関しては金沢大学脳神経外科と連携して、対応している。
- ⑥ 術後の受け入れについては、当院からの紹介のみでなく、能登総合病院からの紹介症例も受け入れている。
- ⑦ 金沢大学脳神経外科から専門医を外来応援に派遣していただき、症例のコンサルテーションを行っている。

脳神経内科

■ 2025年度のトピックス



■ 事業報告

- ① 非常勤医師による診療体制となっている。診療日は水曜日および金曜日（いずれも午前中）となっている。
- ② 初診患者数、総外来患者数ともに、前年度実績を上回った。画像などの検査件数も増加した。
- ③ 市民公開講座として、金沢大学脳神経内科の小野賢二郎教授に認知症をテーマに講演を行っていただいた。

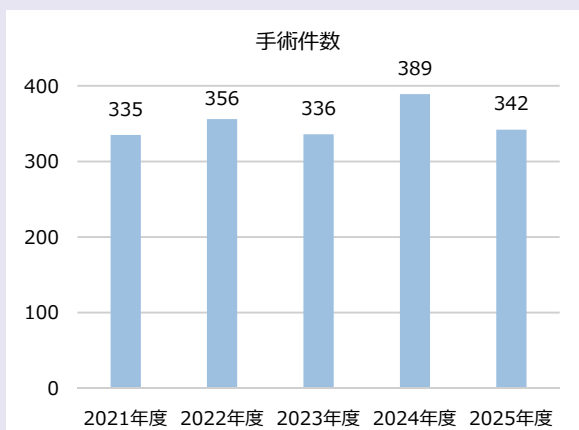
整形外科

■ 所属医師

森永 敏生、稲谷 弘幸、浅井 一希、岸田 晟利、
上出 貴洋

■ 2025年度のトピックス

手術は、昨年同様、変形性膝関節症に対する人工関節置換術、骨切り術、関節鏡視下手術に力を入れた。また大腿骨近位部骨折に対し、可及的早期に手術を行うように努力した。

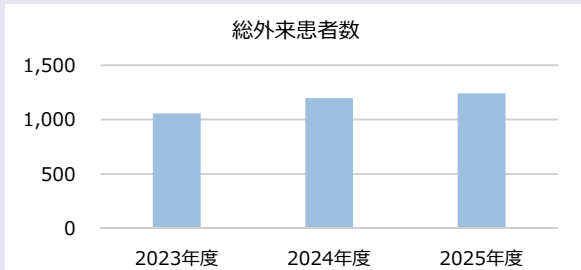


■ 事業報告

- ① 4月から稲谷医師と上出医師が着任し、4人体制に戻った。3月で退職した浅井医師が留学を経て11月から再就職となった。それに伴い、岸田医師が10月で退職となった。
- ② 初診患者数は877人で前年878人とほぼ同数であった。
- ③ 新入院患者数は617人で、前年614人とほぼ同数であった。
- ④ 紹介件数は439件（前年423件）、逆紹介件数は486件（前年484件）と、前年と比較してともに少し増加した。
- ⑤ 珠洲、輪島、宇出津、穴水、富来の5病院からの紹介患者数は30人（前年34人）であった。
- ⑥ 手術件数は342件（前年比12%減）であった。前年度多かった震災関連の外傷症例が減少したことが要因と考えられる。
- ⑦ 今年度も定期的にカンファレンスを実施し、看護師のみならず薬剤師、理学・作業療法士、放射線技師、MSW等のスタッフとの連携を重視して診療した。
- ⑧ 今年度も骨粗鬆症リエゾンチームの活動として、2次性骨折予防活動を展開した。全職員に対する研修を実施した。

呼吸器外科

■ 2025年度のトピックス



■ 事業報告

- ① 非常勤医師による診療体制（毎週火曜の午後）
- ② 総外来患者数は1,242人で、前年実績より3.7%増加した。
- ③ 手術症例については、主に金沢医科大学病院と連携して行った。

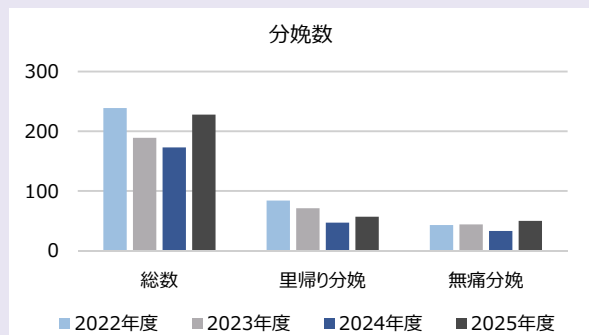
産婦人科

■ 所属医師

新井 隆成、安田 豊

■ 2025年度のトピックス

- ① 減少傾向にあった分娩数は、能登地域の分娩取扱施設が二つのみとなった影響により増加した。
- ② 震災の影響で減少した里帰り分娩の割合は回復しておらず、復興途上であることを示す一つの指標と言える。
- ③ 分娩管理における全国的ニーズである無痛分娩数が増加している。

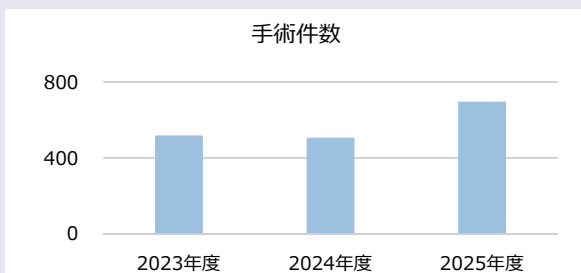


■ 事業報告

- ① 能登全地域の分娩取り扱い施設は、当院と能登総合病院の2施設となった。
- ② 能登北部からのお産を安全に守る対策である「避難入院」「産後ケア」「出産サポート119」の受け入れ対応を行っている。
- ③ 全国的にニーズが高まっている無痛分娩件数は過去最高の件数となった。麻酔科との連携によるオンデマンドの無痛分娩体制は、能登の妊産婦が安心してお産に臨める重要な要素となっている。
- ④ 安全なお産を守るために強化しているrisk based managementによって、分娩管理の問題を原因とした新生児搬送がほぼ“ゼロ”状態に維持されており、「能登のお産は安全」という結果が能登復興の一助になることを願いたい。
- ⑤ 患者安全を第一に対策を継続しておこなっている婦人科手術は、若手の育成を強化することによって実績を上げている。

形成外科・美容外科

■ 2025年度のトピックス



■ 事業報告

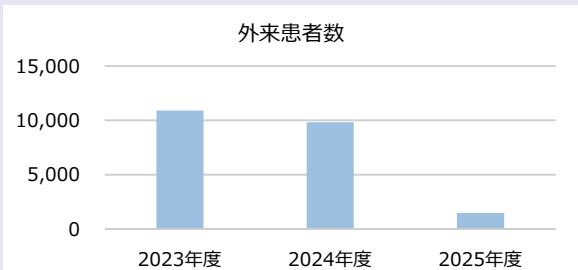
- ① 手術件数（外来手術を含む）690件で、前年度比35%と大きく増加した。入院症例については、昨年に引き続き皮膚科とも連携を密にした。
- ② 初診外来患者数は622人となり、前年度比では46%の増加。紹介患者数も倍増となった。

総合診療科（家庭医療）

■所属医師

吉岡 哲也

■ 2025年度のトピックス



■ 事業報告

- ① ローレルクリニックの閉院により、恵寿総合病院においての診療に変更し、非常勤での対応となった。したがって、外来患者数は減少したが、ローレルクリニックに通院していた患者のほとんどは、恵寿総合病院の他の診療科もしくは鳥屋診療所で継続してフォローアップをしている。
- ② 臨床研修医の教育の場としての機能を果たした。

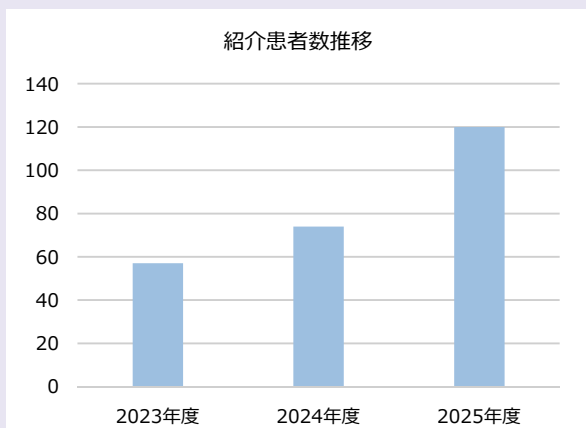
小児科

■所属医師

柳瀬 卓也、中谷 茂和、清水 一秀

■ 2025年度のトピックス

- ① 日本小児科学会専門医2名
- ② 紹介患者数が前年に比して増加した。
- ③ 専門外来患者数が前年に比して増加した。



■ 事業報告

- ① 例年に比して地域のクリニックと綿密に連携した結果として紹介患者の大幅な増加を実現した。
- ② 全体の外来受診者数は減少傾向にあるが金沢大学、金沢医科大学より専門医を派遣していただいている各専門外来（アレルギー、神経、内分泌）および当科常勤医の心臓外来は増加傾向にある。特にアレルギー外来受診者はアレルギー外来の存在が認知されてきた影響か患者数が増加している。
- ③ 金沢大学、金沢医科大学など高次医療機関と密に連携し、スムーズに紹介できている。
- ④ 能登総合病院と連携して能登中部の夜間救急を実施して地域医療に貢献している。
- ⑤ 七尾市・中能登町の乳児検診に医師を派遣し、七尾市・中能登町の乳幼児の健康増進に寄与している。
- ⑥ 小児科医による常時の拘束体制を敷いており、緊急帝王切開や出産後の新生児の異常に対応し新生児医療に貢献している。
- ⑦ 能登中部の小児科医と緊密に連携し、休診日の小児休日診療を各クリニックと分担して担うことで、能登中部の小児科診療に貢献している。

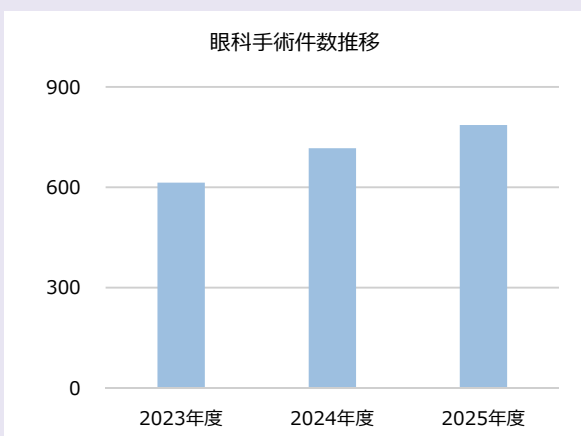
眼科

■所属医師

馬渡 嘉郎、杉山 和久

■2025年度のトピックス

2025年度の手術件数は786件で、昨年を上回る件数となった。他医療機関との円滑な連携を軸に、最新設備の活用を通じて、質の高い外来・入院診療体制の継続・維持に努めた。



■事業報告

- ① 本年度は眼科診療体制の拡充として、最新の光干渉断層計「Glauvas」に加え、超広角走査レーザー検眼鏡「Optos California」を導入した。これにより、網膜の詳細な解析から眼底周辺部の広範なスクリーニングまで、より多角的かつ高精度な診断が可能となった。
- ② 地域医療連携を軸に、患者ニーズに寄り添い、最新の知見に基づいた眼科医療を提供できるよう努力した。
- ③ 手術では白内障手術を中心に、眼瞼下垂症手術、眼瞼内反症手術、緑内障手術、硝子体手術等に力を入れ、低侵襲で最新の手技を心掛けている。
- ④ 外来診療では特に緑内障の薬物治療の方法論にこだわり、患者負担の少ない投薬、通院の仕方を提供できるよう心掛けている。
- ⑤ 緑内障治療においては、低侵襲の緑内障手術を実施している。通院や点眼の負担を軽減するため、患者個々のライフスタイルに合わせた加療と手術の組み合わせを積極的に提案している。

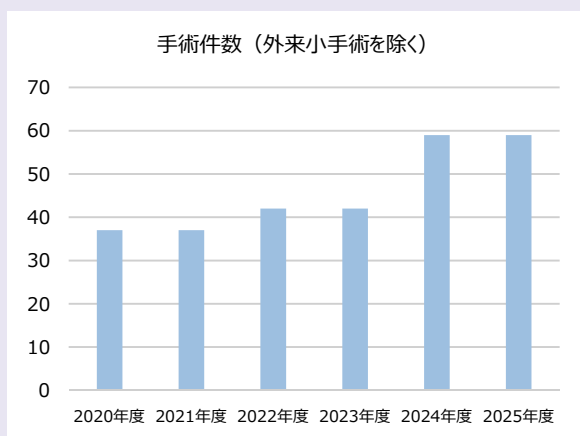
耳鼻咽喉科

■所属医師

山田 和宏

■2025年度のトピックス

手術件数（外来小手術を除く）は昨年度と同数であった。特に甲状腺腫瘍の手術件数は徐々に増えてきている。

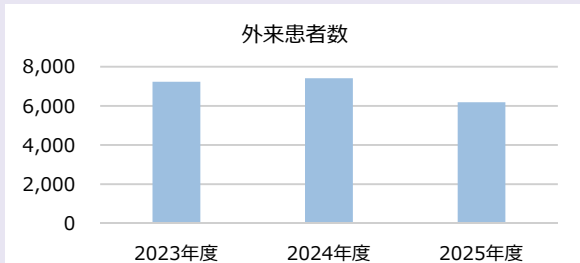


■事業報告

- ① 2025年度患者数・手術件数
外来患者数：6,232人
初診患者数：403人
紹介件数：256件
新入院患者数：119人
手術件数（外来小手術を含む）：172件
- ② 新入院患者数が増加した。
86人（2023年度）→113人（2024年度）→119人（2025年度）
- ③ アレルギー性鼻炎の患者に対し、内服薬や点鼻薬といった保存的治療以外に、外来日帰り手術の下甲介粘膜焼灼術（アルゴンプラズマ凝固）も提案し、治療の選択の幅を広げている。
- ④ わかりづらい耳鼻咽喉科の疾患について、患者に十分に理解していただけるよう、耳・鼻・咽喉頭の解剖図や模型を用いるなど、丁寧な説明を心がけている。
- ⑤ 引き続き、院内他科や各部署、金沢大学附属病院耳鼻咽喉科などの高次医療機関と連携をはかり、安全で適切な医療を提供するよう努めたい。

泌尿器科

■ 2025年度のトピックス



■ 事業報告

- ① 非常勤医師による診療体制となり、外来のみの診療となった。手術適応症例等は金沢医科大学病院と連携して対応した。外来患者数は前年度と比べて減少した。
- ② 2026年度より常勤医師が着任するため、外来診療のみならず、入院治療や手術にも積極的に対応し、能登の泌尿器科診療の質を上げていく。

麻酔科

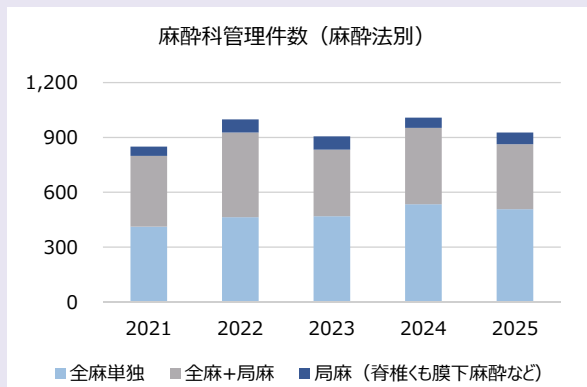
■ 所属医師

長谷川 公一、櫛田 康彦、神野 彩

■ 2025年度のトピックス

麻酔科管理件数は減少した。奥能登地区からの紹介、緊急手術が増加している。

- ① 麻酔科管理手術件数 927件（前年度1,008件）
- ② 無痛分娩施行数 49件（前年度33件）
- ③ 緩和ケア対診件数 48件（前年度41件）



■ 事業報告

- ① 麻酔科管理件数
前年度比減少した。奥能登地区からの紹介、緊急手術が増加している。
- ② 麻酔時間
件数減少により総時間数は減少したが、内視鏡手術など高度で長時間の手術も増え、1件あたりの麻酔時間数は増加している。
- ③ 緊急手術割合
35%と高い割合を維持している。3名の麻酔科医を有効に配置し、滞りなく緊急手術に対応した。また、夜間休日の拘束体制を維持した。
- ④ 無痛分娩取扱数
前年度比増加し、全分娩数の21%を取り扱った。紹介や遠方よりの受診も見受けられるようになった。当院分娩数は増加しており、能登地区における周産期医療への貢献のため、今後も母体管理体制を整え安全性と質を高め、ニーズに応えていけるよう努力したい。
- ⑤ 緩和ケアチーム対応患者数
前年度より増加した。多職種や在宅医療と協力しながら患者・ご家族が少しでも満足できるよう質の高い対応をしていきたい。

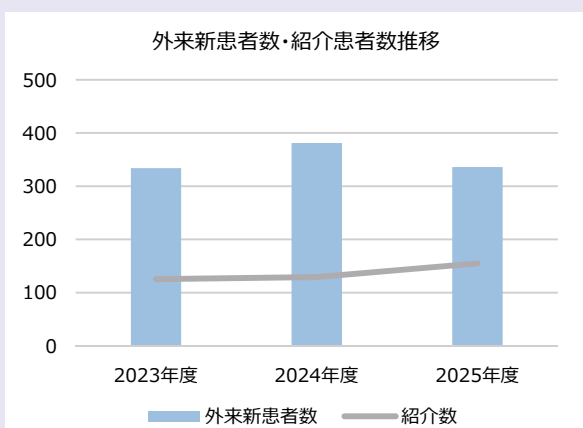
皮膚科

■所属医師

内山 恵理

■2025年度のトピックス

外来新患者数336人、紹介患者数155人で新患者数は減少したが紹介数は昨年より増加した。



■事業報告

- ① 新患者数は昨年度より減少した。
(334→381→336)
- ② 紹介患者数は2023年度から2025年度にかけて順調に増加した。(125→129→155)
- ③ 乾癬に対する分子標的薬については、維持投与は継続し、新規導入や薬剤変更が必要な場合は関連施設と連携し、速やかな製剤導入・変更を行っている。
- ④ iPhoneを用いた写真撮影で、入院患者の褥瘡の状態や皮膚障害の状態を共有することで迅速な検査・診断・治療を開始できた。これにより業務の効率化と医療の質向上が図られた。
- ⑤ 褥瘡委員会と褥瘡回診を通じて、院内スタッフの褥瘡に対するアセスメントが向上した。多職種と協力し、質の高い対応をしていく。

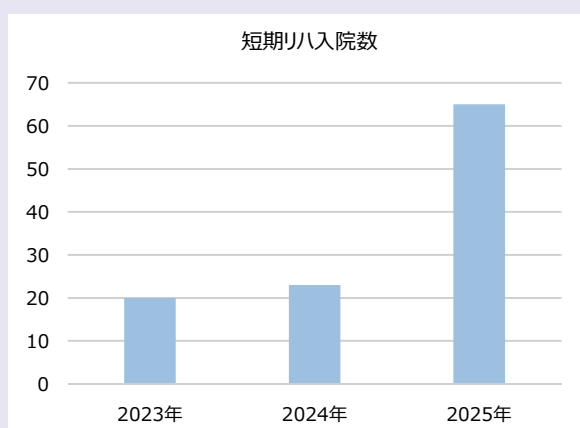
リハビリテーション科

■所属医師

川北 慎一郎、平井 文彦、小竹 源紀、和田 洸也

■2025年度のトピックス

7月にrTMS（反復経頭蓋磁気刺激）を導入し、3月までに50例施行。ボツリヌス治療を含めた短期リハ入院は70例と増加した。アミロイドPETを11例行い、そのうち8例に抗アミロイドβ抗体薬投与を新たに開始し、継続している。

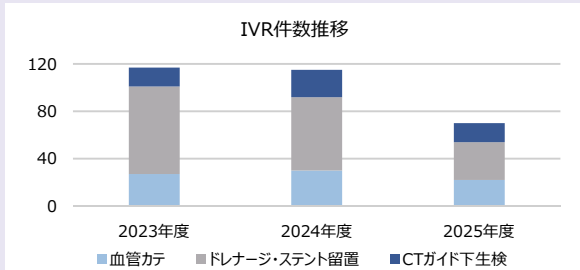


■事業報告

- ① 年間のリハビリテーション処方数は3,850例であり、年々増加している。リハ科入院数は188例と過去最高で、回復期リハビリ病棟転院は昨年より6例増え、112例であった。
- ② rTMSは7月導入で50例施行、富山や金沢からの入院治療が13例みられた。ボツリヌス治療は97例とやや増加し、25例入院した。
- ③ 早期AD治療外来紹介は23例でアミロイドPETを11例実施、抗体薬投与を8例に行った。うち5例はドナネマブであった。認知症ケア回診はのべ100例を超え、抑制減少にも貢献した。
- ④ 能登脳卒中連携協議会活動として脳卒中講演会、データ報告、ケアマネ勉強会、摂食・嚥下・栄養勉強会、症例検討会などを実施した。また、市民公開講座をrTMSやMCIをテーマにして5回開催した。

放射線科

■ 2025年度のトピックス



■ 事業報告

- ① 血管カテーテル検査・治療件数：22件 前年比73%
- ② ドレナージ・ステント留置等件数：62件 前年比52%
- ③ CTガイド下生検：16件 前年比70%
- ④ CT件数：15,463件 前年比97%
- ⑤ MRI件数：4,386件 前年比98%
- ⑥ マンモグラフィー検査件数：3,063件 前年比96%
- ⑦ 骨密度検査件数：1,493件 前年比106%
- ⑧ 検診胃透視件数：655件 前年比101%
- ⑨ 2026年度より常勤医師が着任するため、画像読影及びIVR治療の件数及び質の向上、また放射線技師のスタッフ教育も充実していく。

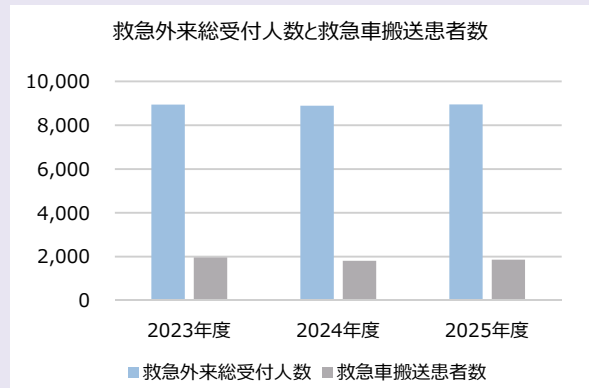
救急科

■ 所属医師

吉本 昭、米田 高宏

■ 2025年度のトピックス

救急搬送患者数は昨年度（1,809人）に比して1,862人と微減にとどまった。地域に根付く総合病院として、年間救急車受入不能件数の6件（前年度5件）は地域医療に非常に貢献している証といえる。またけいじゅ救急搬送サービスも少しずつ増加傾向にある。



■ 事業報告

- ① 救急搬送患者数は1,862人（前年度1,810人）
- ② 救急外来受診数は8,951人（同8,990人）
- ③ 救急搬入患者の年間入院は1,062人（入院率としては58%）だった。（同53%）
- ④ けいじゅ救急搬送サービス利用患者数は220件、入院率は68%と確実に増えており、軽症救急患者の搬送に貢献できている。
- ⑤ 救急医学会専門医、麻酔科学会専門医、集中治療専門医、感染症指導医を維持・更新できている。
- ⑥ 救急車受け入れ不能件数は年間6件と前年5件と横ばいであった。
- ⑦ CT・MRIの読影レポート結果確認率100%であり、さらに必要に応じて患者に報告し受診を促したり、入院・外来主治医に直接届くような仕組みを継続できている。
- ⑧ 研修医のER研修を2025年12月より固定している。
- ⑨ 救急科への紹介患者数は219件と、前年103件から倍増している。
- ⑩ 逆紹介件数は222件だった。（同182件）
- ⑪ 昨年度は学会発表ができていなかったが、来年度は救急医学会で発表予定であり、研修医や救命士にも積極的に発表を勧めていく。

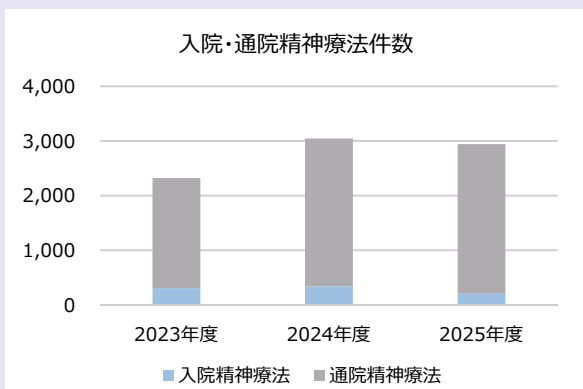
心療内科（精神科）

■所属医師

丸山 晃弘

■2025年度のトピックス

今年度より常勤医師が2名から1名体制となったが、入院・通院精神療法件数は概ね昨年度並みを維持した。また、外来患者数は昨年度比で約2割増加した。公認心理師（4名）と連携し、入院患者への対応にも注力している。



■事業報告

- ① 医師数の減員に加え、外来診療日も昨年度より1日少なかったが、外来患者数は月平均264人から320人へと大きく増加した。
- ② 2025年度の初診患者における主な傷病は以下のとおりである。（※重複あり）
 - ・気分・感情障害（うつ病、双極性障害等）：43名
 - ・神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害（パニック障害、不安障害、適応障害等）：40名
 - ・睡眠障害：34名
 - ・認知症疾患（アルツハイマー型認知症含む）：10名もの忘れ外来の休止により認知症関連の受診は減少した一方で、気分・感情障害（うつ病、双極性障害等）は昨年度の2倍超となった。
- ③ 臨床心理課（公認心理師4名）と密に連携し、必要に応じて心療内科における心理カウンセリングや心理検査を受けられる体制を整備している。加えて、がん患者への心理的支援にも積極的に取り組んでいる。
- ④ 総合病院としての強みを活かし、他診療科、看護師、リハビリテーションスタッフ等の多職種と連携し、患者の治療にあたっている。

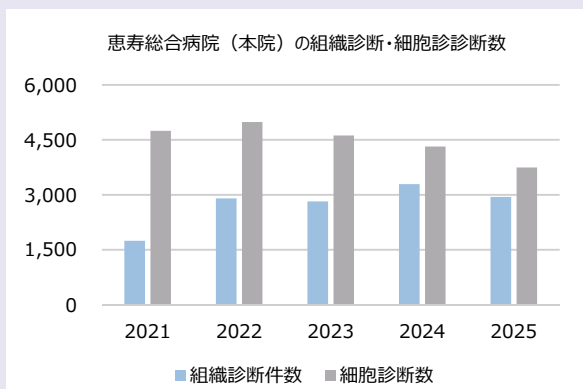
病理診断科

■所属医師

上田 善道

■2025年度のトピックス

病理医2名（常勤、非常勤各1名）、技師4名、うち細胞診スクリーナー3名（本年度1名が新たに資格を取得）体制となった。恵寿総合病院本院の病理診断、術中迅速、細胞診に加え、アルプ病理との連携で、恵寿金沢病院ならびに能登地区連携病院の病理診断を行った。



■事業報告

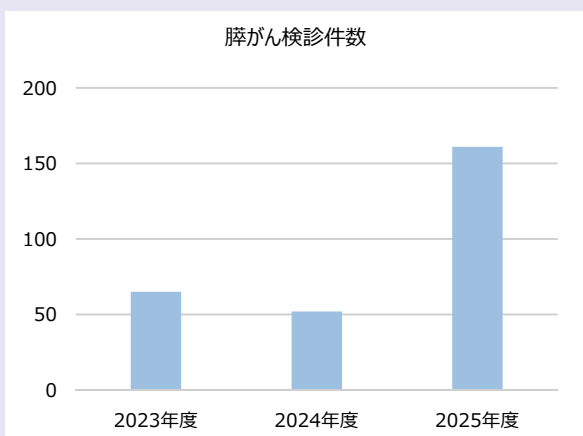
- ① 病理組織2,940件（▽353）、術中迅速44件（△14）、細胞診3,744件（▽574）、病理解剖2件の診断を行った（図は最近5年間の病理・細胞診診断数の推移を示す）。
- ② 免疫染色623件（2,561抗体）、特殊染色372件、*in situ hybridization* 25件、T、B細胞性リンパ腫のPCR法による遺伝子解析 8件を実施し、病理組織診断の精度を高めた。
- ③ 重症例に対する標本採取から24時間での病理確定診断報告システムを構築・実践した。
- ④ 研修医C.P.C.を2回開催し、発表とレポート作製を指導した。
- ⑤ グループ施設である恵寿金沢病院の病理組織296件（△34）、細胞診946件の診断を行った。
- ⑥ アルプ病理からの受託診断（病理組織診断5,073例；細胞診診断286例）を行い、北陸3県、特に能登地区の地域連携に貢献した。
- ⑦ 本院の病理組織診断症例を英文医学雑誌に報告し、学術的な貢献を行った。

健康管理部

■ センター長
桐山 正人

■ 2025年度のトピックス

地域住民の健康増進を目的として、早期発見が困難な膵がん検診の受診を積極的に推奨したところ、検診件数が飛躍的に増加した。結果として膵がんの早期発見・治療に繋げることができた。



■ 事業報告

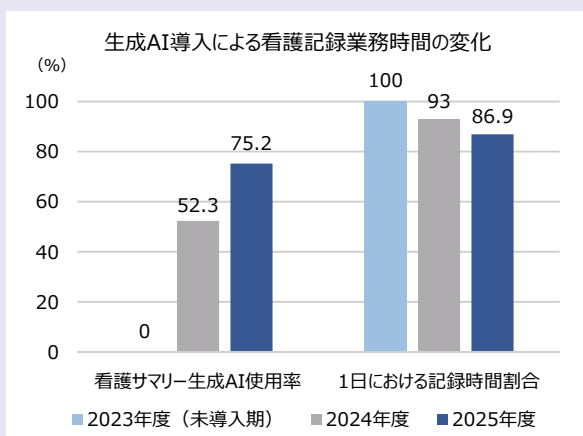
- ① 2025年度受診者数実績
 - ・ 総受診者数：10,994名
 - ・ 1日当たりの受診者数：46名
 - ・ 一泊二日人間ドック受診者数：528名
 - ・ 日帰り人間ドック受診者数：1,472名
- ① がんプレミアム検診
日本人のがん死亡者数の上位6疾患（肺・胃・大腸・肝臓・胆道（胆管・胆のう）・膵臓）をカバーする、がんに特化したプレミアムな検診の提供を開始した。
- ③ 膵がん検診
膵がん診断に必要な画像を熟知した専門放射線技師による高品質の画像撮影と、膵画像診断のスペシャリスト（医師）による読影により、膵がんの早期発見、膵がんリスク病変の早期診断を可能にした。また、厚生労働省の薬事承認を受けた「膵がんmRNA検査（パンレグザ®）を導入し、膵がんの早期発見に努めた。
- ⑤ Web問診
受付窓口でWeb問診を入力できる体制を整え、紙の問診票を廃止した。受診者の約8割の方が事前にWeb問診を入力している。

看護部

■ 看護部長
阪口 智恵

■ 2025年度のトピックス

当院看護部では2024年度より生成AIを活用した看護サマリー作成を導入した。2025年度の生成AI使用率は75%となり、看護記録業務時間は2023年度と比較して約13%削減し、看護記録業務の効率化につながった。



■ 事業報告

- ① 本館6階東病棟において、HUAWEI D2ウォッチを活用した患者モニタリングを導入した。血圧や脈拍などのバイタルサインを継続的に測定し、電子カルテの経過表へ自動反映する世界初の取り組みとして、患者状態の継続的把握と早期対応につなげている。
- ② NEWS（早期警戒スコア）を導入し、患者のバイタルサインの変化を早期に把握できる体制を整備した。患者状態の変化を客観的に評価し、急変の早期発見と迅速な対応につなげている。
- ③ 患者の尊厳を守るケアの実践として身体拘束削減に取り組んだ。病棟レクリエーションの充実や多職種によるセル看護方式を推進した結果、年間の身体拘束率は平均2.36%となった。
- ④ 勤務管理システム「セルヴィス」の自動作成機能を活用し、公平で安全な勤務配置を実現し、勤務表作成業務の効率化と管理業務の負担軽減につながった。
- ⑤ 業務量調査の結果、時間外勤務は前年度より減少傾向となり、看護記録もタイムリーに行える体制が整っている。

介護部

■部長

内田 かおり

■2025年度のトピックス

年間通してぽっぽちゃんと介護部×他部署でコラボ企画を実施。ティッシュを配布したりイベントに参加した。7部署と協働で地域の方々へそれぞれの日にちなんで啓蒙活動を実施。

月日	何の日	部署
5月12日	看護の日	看護部
5月16日	ブチナース	看護部
6月7日	緑内障	眼科外来
7月17日	理学療法の日	理学療法課
7月19日	七尾港まつり	本部
9月1日	言語療法の日	言語療法課
9月11日	創立記念日	本部
9月25日	作業療法の日	作業療法課
10月20日	ピンクリボンデー	看護部
11月11日	介護の日	介護部
11月10日～14日	糖尿病予防デー	看護部

■事業報告

- ① K-Fitマイスター1名、ノーリフトマイスター1名、Foot活マイスター2名、実務者研修3名、介護福祉士2名、喀痰吸引等研修4名、スマート介護士2名が新たに資格を取得した。ユマニチュード4日間研修に2名が参加した。
- ② 身体拘束解除に向けた取り組みである「KDS（講堂に集合）」は介護職員が減少し、対応が困難となっていた。確実に実施できるよう対策を考えていく。
- ③ インカムの運用範囲を拡大した。入浴エリアと病棟・本館、5病棟間での連携を円滑化、タイムロスを解消。また、転入・転出の際の連絡ツールとしても活用している。
- ④ 病院出前講座に登録。2か所からの申し込みに対し、講座を実施。Foot活出前講座に計49名が参加した。
- ⑤ ケアプランの作成に向けて、現場ではけいじゅセルケアチームにより、多職種と連携し、患者の生活支援を実施。また、介護職員の記録テンプレートを作成した。
- ⑥ 入院業務の見直しを行い、全病棟統一できるよう実施。入院受け入れ10項目を介護職員が実施可能となった。
- ⑦ 夜間の人員配置の充実と安定を図った。

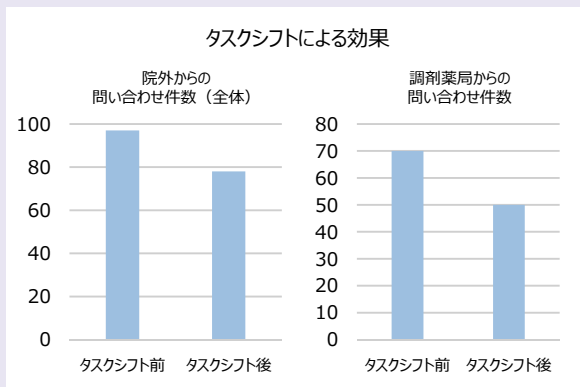
事務部

■部長

森下 毅

■2025年度のトピックス

データに基づく経営戦略会議の実施と、生成AI・RPAの活用による業務効率化を両輪として推進した。各診療科との対話を通じた収益改善の取り組みに加え、タスクシェアの拡大や業務の可視化により、持続可能な事務部業務負担の平準化に向けた基盤整備を進めた。



■事業報告

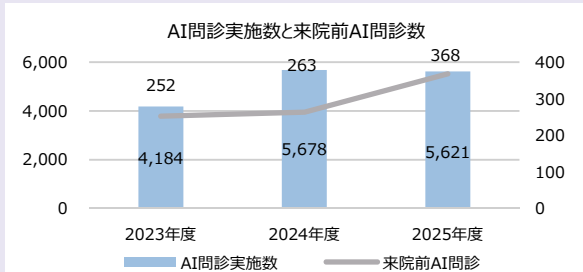
- ① 各診療科別に実施された経営戦略会議にコアメンバーとして参画し、診療実績データをもとに収益向上に向けた対策提案およびディスカッションに主体的に関与した。
- ② 生成AIおよびRPAの活用推進。電子カルテ内蔵生成AIの機能拡張により、書類作成代行業務における生成AIの活用範囲が広がった。生成AIとRPAの連携により、一部非定型的であった業務における自動化検討を開始した。
- ③ タスクシェア体制を拡大。業務量調査により各課の業務量を可視化した結果、部門横断的な業務分散が課題となり、移管先も含めたシフト・シェア候補を整理。年度内の実績は5件となり、一部の部署において時間外勤務の抑制が確認されるとともに、次年度への展開に向けた課題が明確化された。
- ④ 施設基準管理システムの内製化に取り組み始めた。施設基準管理データを共有することにより、担当者の属人化の解消を図った。
- ⑤ 学会発表数は4題、雑誌投稿4編、講師件数9件。前年度、全日本病院協会雑誌に推薦寄稿した論文が優秀論文に選出され、表彰を受けた。

けいじゅサービスセンター サービス課

■部門代表者

金子 幸代

■2025年度のトピックス



■事業報告

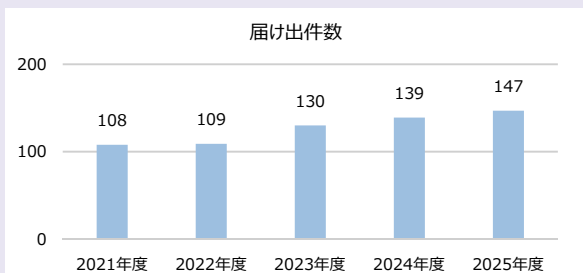
- ① 来院前AI問診の普及に取り組んだ。目標300件以上、達成率122%。院内の待ち時間短縮につなげた。
- ② 医療費あと払いbyとどくすりの広報活動、高齢者に対するサービス向上に取り組んだ。
- ③ 今後、楽のり君（乗合送迎サービス）の利用者の増加に向けた取り組みを検討中である。

医療情報事務センター 管理課

■部門代表者

松木 尊紀法

■2025年度のトピックス



■事業報告

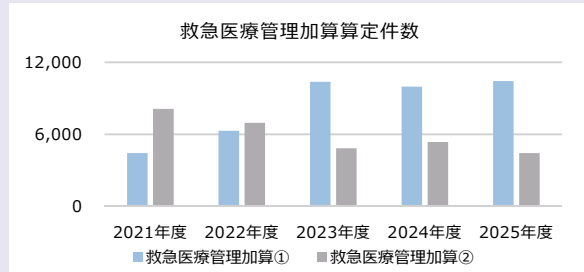
「施設基準管理の共有化」をテーマにTQM活動を行った。属人化の解消が課題であったため、関係部署ともタスクシェアすることを目的にデータベースを構築した。届出済施設基準の現況を把握しやすくなり、人事異動、退職などで人員要件を満たさない施設基準があればRPAでメールが届く仕組みとなり管理精度が向上した。

医療情報事務センター 医事課

■部門代表者

大嶋 悠一

■2025年度のトピックス



■事業報告

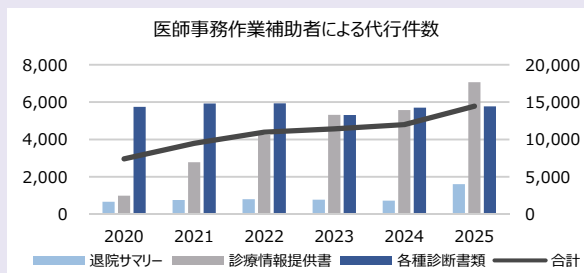
- ① 特に救急医療管理加算の算定に力を入れ、医師とのコミュニケーションを図り連携を強化した結果、2025年度は加算1算定件数10,000件超であり、過去最高値。
- ② マイナ保険証の利用促進をサービスセンターと協力して確認件数の強化に努めた。2026年1月よりマイナ保険証義務化の影響もあり、2026年3月時点での利用率は80%程度となった（前年比+30%）

医療情報事務センター 医療秘書課

■部門代表者

三浦 有紀

■2025年度のトピックス



■事業報告

- ① 医師事務作業補助者による代行件数が14,452件となった。退院サマリーについては、新たに産婦人科・消化器内科・リハビリテーション科の代行を開始、前年度比223%を達成した。
- ② 様式のデジタル化と生成AI活用で業務効率化を図った。
- ③ 診療情報管理士認定試験に1名が合格した。

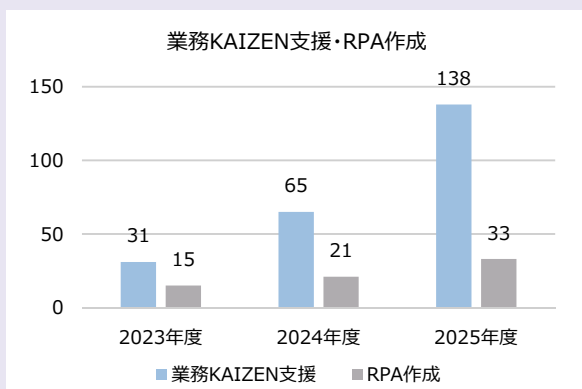
データセンター

■部門代表者

神野 正隆、川腰 晃弘

■2025年度のトピックス

業務改善支援の拡大を目標に掲げ、支援件数の大幅な増加を実現した。「経営戦略室」を新設し、当センターの担う3大ミッションであるデータのInput、Output、AnalysisのうちAnalysis（分析）機能の強化を図り、より戦略的なデータ活用を推進した。



■事業報告

- ① 診療情報管理室、DATA LAB、経営戦略室で構成。
- ② 診療情報管理室：診療情報管理の側面から医療の質向上に寄与することを目標とし、NCD（369件）、がん登録（481件）等の症例登録のほか、外部調査・院内からのデータ依頼（48件）に対応し情報提供を行った。
- ③ DATA LAB：主な実績は以下。
 1. 加算または請求管理モニター作成により業務効率化・収益増に貢献（26件 目標比200%超え）。
 2. 主にOfficeソフトを用いて現場のニーズに応じたモニター作成やKAIZEN活動を実施し、業務可視化・改善を推進（138件 目標比153%）。
 3. RPA・AI活用によるデータ抽出・議事録作成の効率化を図るとともに、RPAソフト内のSQL、GAS、Power Platformの活用に取り組んだ。
- ④ 経営戦略室：「診療科経営戦略会議（※）」を企画・運営し、初年度として17診療科に対し、診療科ごとにデータ分析に基づく経営改善提案を実施した。
※科長を含む各診療科医師、経営戦略室長、理事長補佐、事務部長、診療情報管理課長が参画する会議

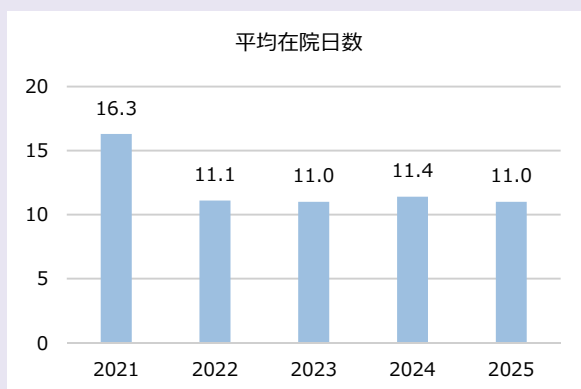
入退院管理センター

■部門代表者

神野 正隆、宮田 琴江、櫻 さおり

■2025年度のトピックス

入院前から退院後まで生活支援が途切れないよう診療を一括管理するPFM体制を維持しつつ、今年度は地域包括ケアセンター設立に伴い連携し、療養と生活を切れ目なく支える「インフィニティリング」実現に向け取り組んだ。



■事業報告

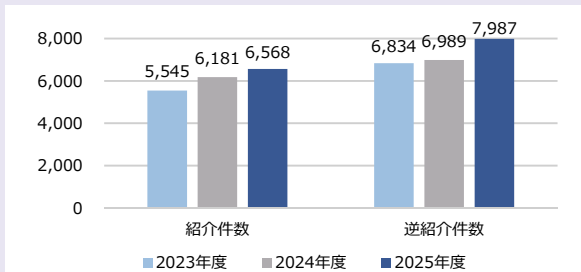
- ① 入退院指標の可視化とPFM推進を通じて、多職種OneTeamでの連携を強化し、円滑な入退院支援体制を確立した。
- ② リアルタイムで指標を把握できる内製モニターの改良を継続し、明確な基準に基づくベッドコントロールを実施するとともに、患者の状態やDPC期間を踏まえ、適切な退院および転棟の促進に取り組んだ。
- ③ 多職種および地域の関係機関が継続的につながりながら患者・利用者を支える「無限につながる支援の輪（インフィニティリング）」を実現した。
- ④ 連携医療機関との関係強化（挨拶訪問、情報交換会等）を継続実施し、集患や退院支援の入口・出口戦略を強化した。その結果、患者一人ひとりに適した円滑な入退院支援体制を実現した。
- ⑤ これらの取り組みにより、平均在院日数は11日台で安定し、新規入院および紹介入院の増加を実現し、医療の質と収益の向上につながった。

入退院管理センター 地域連携課

■部門代表者

川腰 晃弘

■2025年度のトピックス



■事業報告

- ① 蓄積したデータを活用し、効果的な訪問計画の立案及び診療科長を伴う訪問活動を実施した。返書の早期作成に向けたタスクシフトを実現するとともに、CRMシステム構築による連携強化の土台作りをした。
- ② 出前講座の周知を強化し、件数増及び定期開催につなげた。認知症の市民公開講座を開催し、市民の健康増進と当院の認知度向上を図った。

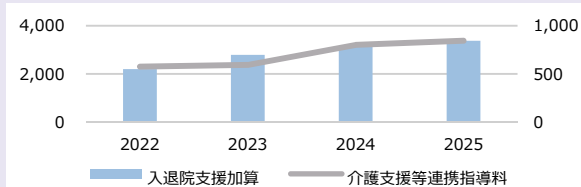
入退院管理センター 医療福祉相談課

■部門代表者

中川 一美

■2025年度のトピックス

PFMの運用拡充により、年間3,372名の入退院支援につながった。（昨年度比：107%）



■事業報告

- ① 交流会を開催、新たに障害相談支援事業所を交え、23施設44名参加。日々の業務連携について情報交換し、医療・介護・障害福祉の相互理解が深まった。ケアマネジャー等との連携は年間844件実施。（昨年度比：105%）
- ② 地域の介護保険施設との平時連携が定着し、緊急時の迅速な情報連携と円滑な退院調整を実現している。

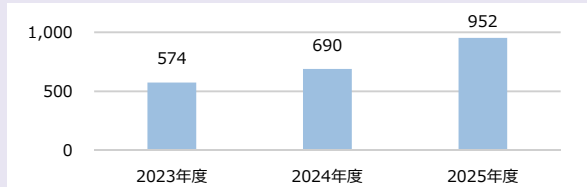
入退院管理センター 入退院支援課

■部門代表者

西村 美津枝

■2025年度のトピックス

入院時支援を強化したことにより入院時支援加算件数が952件に増加した。（前年度比：127%）



■事業報告

- ① 外来と連携し入院前面談を予約制とした。
- ② 予約入院患者・緊急入院患者の看護基礎情報聴取を、3,126件/年でき、病棟看護師スタッフの業務削減を行うことができた。
- ③ 早期自宅退院と再入院防止に向けた取り組みを、「Homecare Softlanding Support（HSS）」と称し活動した。

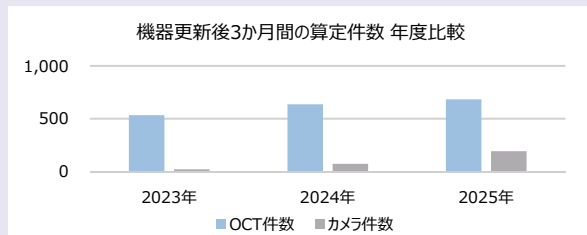
視能訓練課

■部門代表者

諸屋 真太郎

■2025年度のトピックス

機器更新を行った結果、算定件数が増加した。



■事業報告

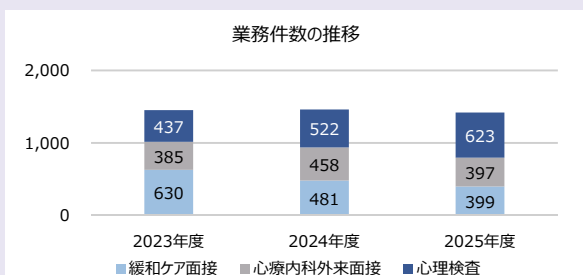
- ① 新型OCTと広角眼底カメラを導入し、より正確で鮮明で広範囲な画像撮影が可能になった。
- ② 検査にかかる時間も短縮されたため検査可能枠が増加し、導入後12月から2月の間は前年度比でOCTは47件増加した。眼底カメラ撮影は119件増加した。
- ③ 機器に慣れてから検査枠を拡大したため、本稼働となる今年度はさらなる増加が見込める。

臨床心理課

■部門代表者

佐原 周子

■2025年度のトピックス



■事業報告

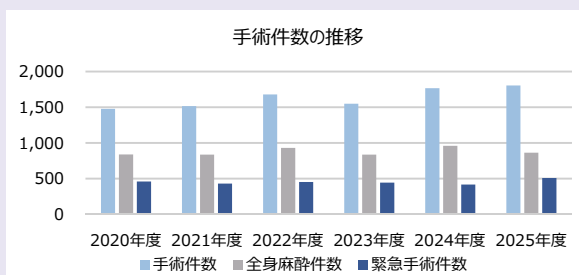
- ① 心理検査実施延べ件数が623件と、前年度より19%増加した。増加の要因としては、2024年秋より抗アミロイドβ抗体薬の専門外来が開設されたことにより、認知機能の評価の機会が増えたことが挙げられる。
- ② 心療内科外来は児童期の患者の人数が増加し、公認心理師の対応児童実人数が前年度+20%となった。

手術センター

■部門代表者

長谷川 公一、中田 淳也

■2025年度のトピックス



■事業報告

- ① 手術件数は1,805件、前年度比+39件と増加し、月平均150件だった。
- ② 全身麻酔件数は863件で、前年度比-100件だった。
- ③ 総合入院体制加算3の要件を満たすことができている。
- ④ 緊急手術件数は511件、前年度比+44件だった。

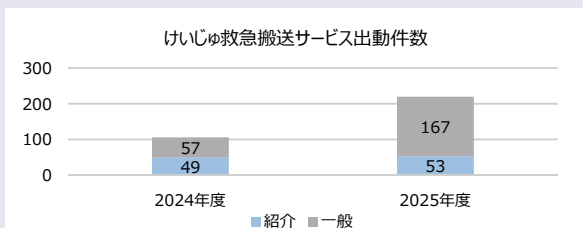
救急救命課

■部門代表者

吉本 昭、八井 聖子

■2025年度のトピックス

けいじゅ救急出動件数が、昨年度の106件から220件へ。



■事業報告

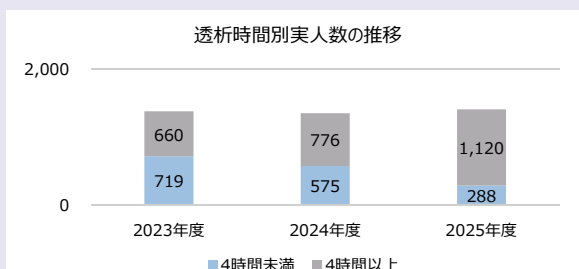
- ① 遅番勤務の導入や夜間対応シミュレーション、資機材整備を進め、受付時間を17時まで延長した。
- ② 地域への周知継続に加え、民生委員やケアマネ向け説明会を通じて関係機関との連携を深め、利用促進を図った。
- ③ 機関員を2名増員し、計6名体制とすることで出動体制の強化につなげた。

血液浄化センター

■部門代表者

岡田 圭一郎、守田 尚美

■2025年度のトピックス



■事業報告

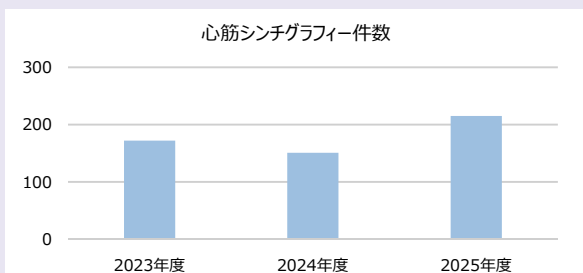
- ① 透析時間延長：透析時間延長の有効性に関するエビデンスを基に、業務改善と多職種連携を進め、安全に実施できる体制の構築、透析効率の向上と予後改善を目指した。
- ② 活動：9月に石川県透析連絡協議会主催の災害訓練に参加。

PET・CTリニアックセンター

■部門代表者

森永 敏生、坂下 純司

■2025年度のトピックス



■事業報告

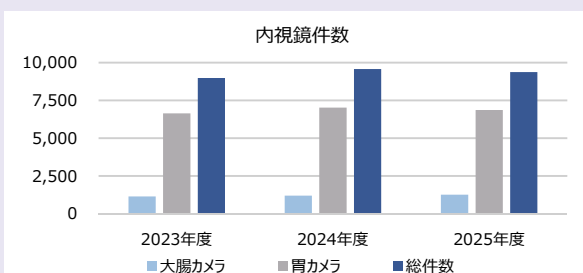
- ① PET-CT件数は、765件（前年度比98%）だった。
- ② 核医学検査件数は、349件（前年度比124%）であり、心筋シンチグラフィ件数が伸びている。
- ③ 放射線治療照射回数は1,140回（前年度比210%）だった。装置を4月に更新し、高性能マルチリーフコリメータと画像誘導放射線治療(IGRT)の導入で、副作用を抑えつつ、病変のみへの高線量照射が可能になった。

内視鏡センター 内視鏡課

■部門代表者

神野 正隆、水口 賢

■2025年度のトピックス



■事業報告

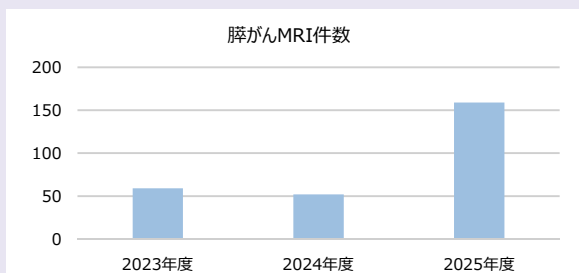
- ① 内視鏡総件数は9,371件（前年度比 97.9%）とほぼ横ばいだった。
- ② 全大腸内視鏡検査は1,262件（前年度比 105%）に増加した。
- ③ 大腸ポリープ切除術は647件（前年度比100.0%）、ポリープ切除率は51.4%（昨年度53.7%）とほぼ横ばいだった。

放射線センター 放射線課

■部門代表者

森永 敏生、坂下 純司

■2025年度のトピックス



■事業報告

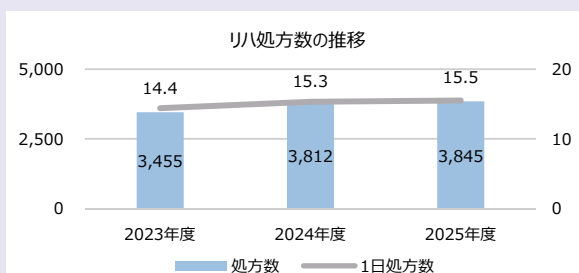
- ① 金沢大学附属病院と連携、膵癌の早期発見に努め、膵がんドックは159件に大幅増加。（前年比305.8%）
- ② 超音波分野に当課初となる超音波検査士（消化器領域）に1名、乳がん検診超音波検査実施技師に2名が認定された。
- ③ 超音波検査に2名、内視鏡検査に4名派遣とタスクシェアを実践した。

リハビリテーションセンター 理学療法課

■部門代表者

川北 慎一郎、田中 秀明

■2025年度のトピックス



■事業報告

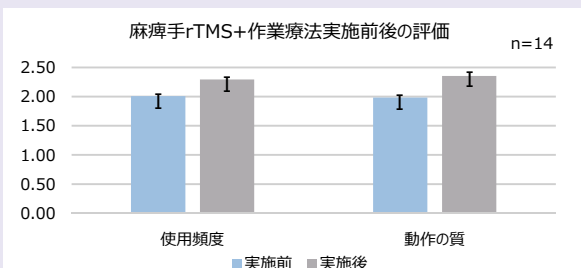
- ① rTMS（反復経頭蓋磁気刺激）の下肢実施件数は23件であった。
- ② 回復期リハ病棟の脳血管リハ算定数は8.3単位だった。
- ③ 消化器術前、腰痛予防動画を制作し、業務効率化を図った。
- ④ 腎臓リハビリテーションデータベースを作成し、適応患者の検索が可能となった。

リハビリテーションセンター 作業療法課

■部門代表者

川北 慎一郎、川上 直子

■2025年度のトピックス



■事業報告

- ① rTMS（反復経頭蓋磁気刺激）：作業療法と組み合わせ約2週間入院での上肢麻痺へアプローチ開始
- ② より早期からのADL介入：急性期病棟への早番介入（7時半から排泄、整容が中心）
- ③ ユマニチュード推進：好事例報告38件、実践者育成4日間研修2名受講
- ④ 学術活動：学会発表10題

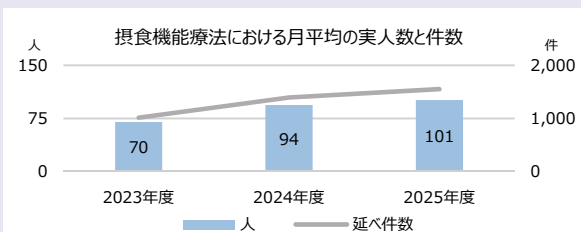
リハビリテーションセンター 言語療法課

■部門代表者

川北 慎一郎、諏訪 美幸

■2025年度のトピックス

RPAを活用し摂食機能療法算定件数が増加した。



■事業報告

- ① DXを活用し、看護部と連携やWチェックしたことで、摂食機能療法の延べ件数がさらに増加した（一昨年比11%増）。
- ② 学会・研究会では3演題発表、講師を10件担当した。
- ③ 新規資格では、ヒアリングフレイルサポーター、認定言語聴覚士（失語・高次脳機能障害領域）、日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士を各1名取得した。

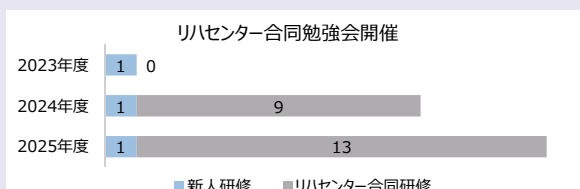
リハビリテーションセンター リハビリテーション教育研修センター

■部門代表者

川北 慎一郎、久保 佳子

■2025年度のトピックス

合同研修の開催件数を大幅に増加し、リハビリの質向上につなげた。



■事業報告

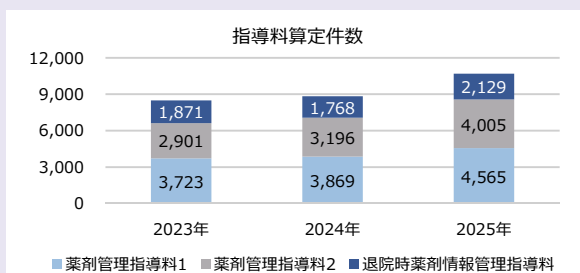
- ① 新人指導者の集いを開催、指導の悩み、進捗状況を共有した。（2回）
- ② インスタグラム発信
- ③ 医療介護連携に強い人材育成のために中堅以上スタッフハアンケート実施。さらに次年度以降の研修内容へフィードバック予定。
- ④ 新人研修にハラスメント、褥瘡予防研修を新たに追加。

薬剤管理センター 薬剤課

■部門代表者

中川 紀温、室宮 智彦

■2025年度のトピックス



■事業報告

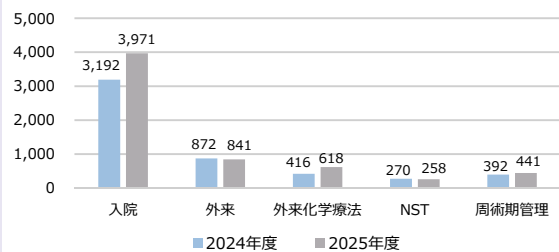
- ① 薬剤管理指導料1は前年度比118%、指導料2は125%に増加した。
- ② 退院時薬剤情報管理指導は前年度比120%に増加した。
- ③ 薬剤総合評価調整加算は前年度比約2倍に増加した。
- ④ バイオ後続品使用体制加算は380件/年だった。
- ⑤ 後発医薬品使用率は90%以上を維持した。

栄養管理センター 臨床栄養課

■部門代表者

高井 優輝、前田 美穂

■2025年度のトピックス



■事業報告

- ① 実績は前年度と比較し、やや減少したものもあるが、全体として増加した。特に入院栄養指導件数、外来がん化学療法の栄養指導件数が増加した。
- ② 病棟ではセル単位で管理栄養士の配置を継続し、48時間以内の栄養スクリーニング、GLIM基準による栄養アセスメントを実施する体制を定着させた。

臨床工学センター 臨床工学課

■部門代表者名

長谷川 公一、栃原 康則

■2025年度のトピックス

リードスペースメーカーの次世代製品導入により、房室同期機能の向上と電池寿命の延長が実現し、患者のQOL向上に寄与した。



■事業報告

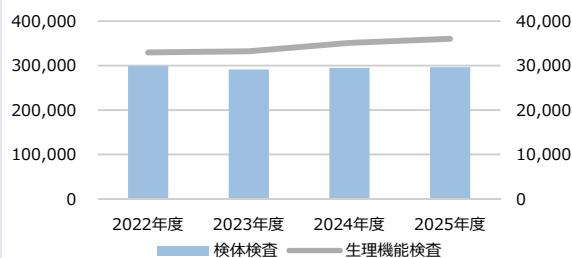
- ① リードスペースメーカー植込術が再開され、臨床工学技士として術中術後のデバイス管理、患者指導を一貫して担当し、安全かつ円滑な治療に貢献した。
- ② 今年度、腎代替療法専門指導士の資格を取得した。今後も臨床工学技士としての役割をさらに広げ、腎不全患者に対する専門的かつ包括的な医療支援体制の強化に貢献していきたい。

検査管理センター 臨床検査課

■部門代表者

上田 善道、尾田 真一

■2025年度のトピックス



■事業報告

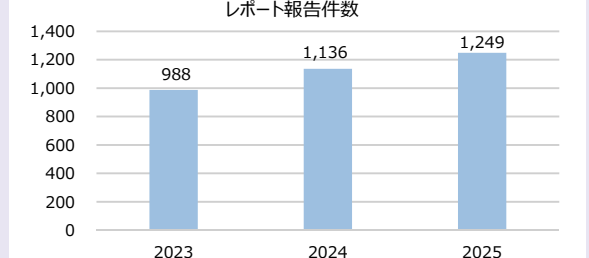
- ① 検体検査総件数 296,522件 前年比 +0.5%
生体検査総件数 35,997件 前年比 +2.5%
- ② 検査室の自動分析機器およびシステムの更新
HbA1C・血糖測定機器、尿分析機器、分注・搬送装置、採血管準備装置、採血システム、細菌システム
- ③ 内視鏡課へのタスクシフト（2名）

医療安全管理センター 医療安全管理課

■部門代表者

岡田 由恵、小谷 薫

■2025年度のトピックス



■事業報告

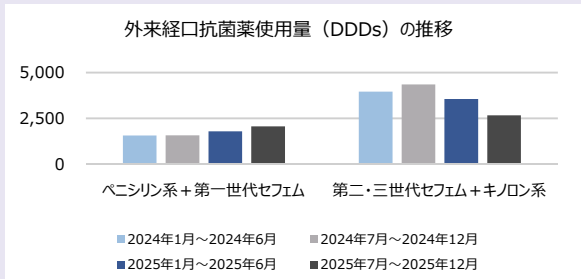
- ① インシデント・アクシデントレポート報告数増加に向けて働きかけたことにより、報告数の増加がみられた。
- ② 2025年度の重点目標を『患者誤認をなくそう！』と決め、7月に「患者確認標語募集」し、全職員から137件の標語が寄せられ、最優秀賞、優秀賞、奨励賞を選定した。さらに、9月患者向けに「世界患者安全の日」をPRした。

感染制御センター 感染制御課

■部門代表者

山崎 雅英、谷田部 美千代

■2025年度のトピックス



■事業報告

- ① AST活動の推進で、外来での広域抗菌薬の使用量が減少し、狭域抗菌薬の使用量が増加した。
- ② N95マスクフィットテスターの購入により、定量テストでN95マスクフィッティングができるようになった。
- ③ 部門連携により、職員ワクチンプログラムが推進した。
未獲得者への実施率：水痘76%（19人/25人）
ムンプス59%（92人/155人）

臨床研修センター

■部門代表者

新井 隆成

■2025年度のトピックス

リクルート活動実績は以下の通りである。

日付	イベント名	ブース訪問者数
2025年4月13日	レジナビ仙台	18名
2025年5月18日	レジナビ福岡	22名
2025年5月31日	マイナビ金沢	20名
2025年6月29日	レジナビ東京	24名
2025年7月26日	レジナビ大阪	30名
2026年1月25日	レジナビ金沢	35名
2026年3月15日	レジナビ東京	35名

■事業報告

- ① 2025年4月採用の研修医は基幹型4名、協力型2名の6名であった。1年次6名、2年次4名、合計10名であった。
- ② 研修医獲得のため、リクルート活動の強化を図った。全国の大学から見学があり、見学受け入れ実績は32名だった。マッチング応募者も増え、基幹型3名、協力型3名、合計6名が2026年度採用予定となった。

第2章 法人方針・事業報告（恵寿総合病院）

看護師特定行為研修センター

■部門代表者

鎌田 徹

■2025年度のトピックス

2026年4月1日現在、院内の特定看護師は35名になった。（11区分21行為）

	開講期間	受講人数
第7期生	2022年10月～2023年10月	7名
第8期生	2023年10月～2025年1月	4名
第9期生	2024年10月～2025年10月	7名
第10期生	2025年10月～2026年10月	3名

■事業報告

- ① 令和7年度特定行為研修の組織定着化支援事業（厚生労働省）に参加した。ワークショップに2回、シンポジウムに1回参加した。
- ② 研修修了者に対して、フォローアップ研修会、実践報告会を開催した。

北陸緑内障センター

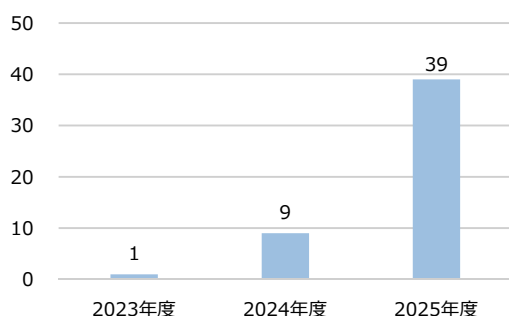
■センター長

杉山 和久

■ 2025年度のトピックス

2024年4月1日に恵寿総合病院に北陸緑内障センターが開設され2年が経過した。緑内障患者を専門的に診察・治療することにより紹介患者が増加し、眼科外来の緑内障患者数、特に緑内障手術件数は飛躍的に増加した。

緑内障手術件数推移



■ 事業報告

- ① 緑内障専門外来での診察と手術を、緑内障の診療・研究・教育を金沢大学眼科・岐阜大学眼科で約40年間行ってきた杉山和久センター長（金沢大学名誉教授）が担当。
- ② 能登地区は勿論のこと、北陸地方の緑内障診療の拠点の一つになることを目指し、病診連携を通じて緑内障診療のネットワークを構築し、緑内障患者に寄り添った質の高い診療を提供している。
- ③ 当院眼科の馬渡医師とともに、開放隅角緑内障に対して房水流出を改善する低侵襲緑内障手術、閉塞隅角緑内障には水晶体再建術を実施し、眼科の手術件数は2023年度、2024年度に比較して飛躍的に増加した（眼科事業報告を参照）。
- ④ 今後は能登地区、北陸地区の大学病院、基幹病院、開業医との連携を拡大して、緑内障患者に高水準の医療を提供したい。

地域包括ケアセンター

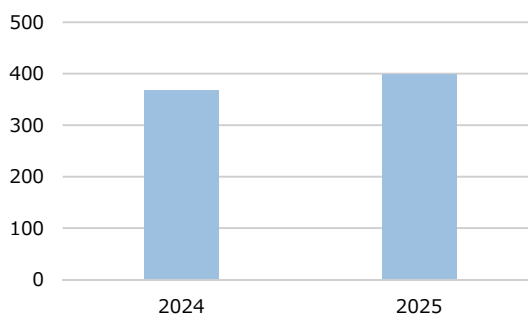
■部門代表者

神野 正隆、本橋 敏美

■ 2025年度のトピックス

在宅サービス事業所等を統合した地域包括ケアセンターと入退院管理センターでのPFM実績を基盤に、両センターの連携による「地域PFMシステム」を構築。これにより、病院からの新規利用者実人数が117人に増加。新規利用者総実人数の約29%を占める。

新規利用者実人数



■ 事業報告

- ① 6月に在宅サービス事業所等の5事業所がローレル棟1階のワンフロアに集結。顔の見える関係が構築された。
事業所：居宅介護支援、訪問看護、訪問リハビリ、福祉用具レンタル、訪問介護（徳会会）
- ② 早期自宅退院と再入院防止に向けた取り組みを「Homecare Softlanding Support（HSS）」と称し活動。
- ③ 生成AIの活用
 - ・ iPhoneのモバイルメモでの音声入力と生成AIにより、訪問記録の下書作成（訪問看護）
 - ・ Ubie生成AI
訪問看護：訪問看護記録 I・計画書・報告書作成
ケアマネ：ケアプラン・アセスメントの記録補助
- ④ KAIZEN活動
16件の活動を報告し、月間優秀賞を2つ獲得
 - ・ iPhoneを使用し、訪問先で文書管理保管完了
 - ・ 生成AIによる訪問看護計画書の作成
- ⑤ ペーパーレス化の取り組み
 - ・ 利用者ファイルのスリム化→ファイル内書類を限定し、他の必要書類は電子カルテの文書管理に登録
 - ・ インターネットFAX導入

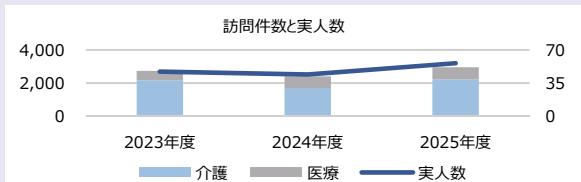
恵寿総合病院訪問看護ステーション

■部門代表者

久能 恵美

■2025年度のトピックス

入退院管理センターとの連携強化、地域PFMの構築などから、昨年度より実人数12人、訪問件数549件増加した。



■事業報告

- ① 「Homecare Softlanding Support（HSS）」と称した早期自宅退院の取り組みを行った。HSS介入件数：17件/10か月
- ② iPhoneの活用として、訪問先からバイタルサイン入力、看護記録入力を実施。モバイルメモを使い音声入力後、AI活用し看護記録を作成、業務効率化につながった。

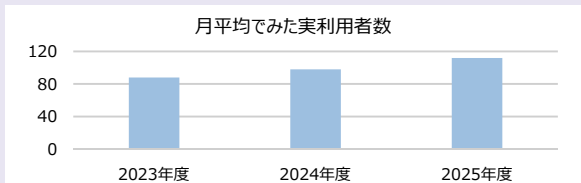
訪問リハビリステーション恵寿

■部門代表者名

永井 亜希子

■2025年度のトピックス

ケアマネや院内スタッフとの連携により実利用者数は年々増加傾向にあり。



事業報告

- ① 新規や解約者数に大きな変化はないが、難病疾患で、長期的に介入が必要な患者の増加、軽度者で隔週介入の増加により、実利用者数は年々増加している。
- ② 「AIシステム（ZEST）」を活用し、計画的なスケジュール管理を行い、訪問リハのスケジュール管理と質が向上した。

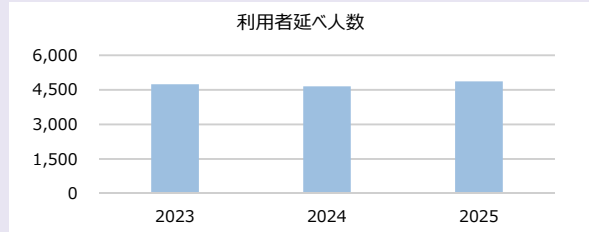
ケアマネステーション恵寿

■部門代表者

清水 光代

■2025年度のトピックス

年間利用者数 4,864人（前年比：104.5%）



■事業報告

- ① 地域包括ケアセンターを設立し、訪問看護・介護・リハ・福祉用具レンタル・ケアマネが一体化し、在宅系サービスが強化。事務所移転、5S、ペーパーレス化を進める。
- ② 事務作業のタスクシフト（20項目）を行い、ケアマネ本来業務に注力できるよう業務KAIZENに取り組んだ。
- ③ 事例検討会：年間5回開催。ケアマネジャーの資質向上、スキルアップを図る。

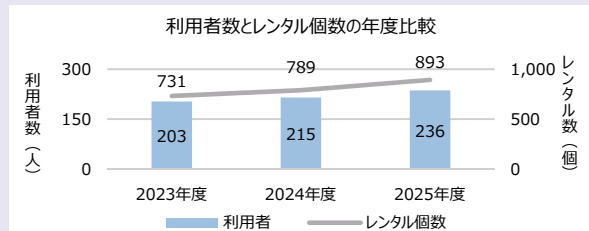
福祉用具レンタルステーション恵寿 医療福祉ショップめぐみ

■部門代表者名

永井 亜希子

■2025年度のトピックス

前年比、利用者数は105%、レンタル個数は113%



■事業報告

- ① 特定福祉用具販売促進：前年度比で136%となった。レンタル事業の拡大が販売促進に繋がった。
- ② サンダル販売促進：イベント（けいじゅフェスティバル等）毎に、積極的にFoot活サンダルのアピールを行い、認知向上を図り前年度比で500%となった。
- ③ めぐみ全体の販売個数は昨年に比べ、111%となった。

医療事業統括部門 恵寿金沢病院

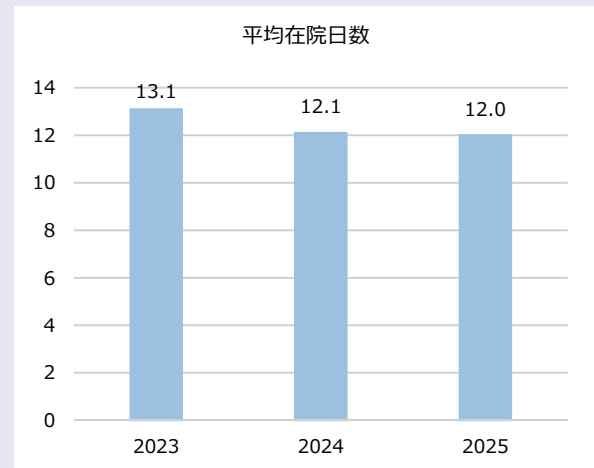
恵寿金沢病院

■病院長

大竹 茂樹

■2025年度のトピックス

在院日数は12日となり昨年とほぼ同日数となった。過去3年間徐々に短期間となっていたが、昨年からほぼ毎月の在院日数も変化は小さくなっている。



■事業報告

- ① 院内にiPhoneを導入し、患者サービス向上、職員業務効率化を図った。患者情報共有や職員間トークを実施することでスムーズな情報交換が可能となった。
- ② 常勤整形外科医が配置され、昨年来・入院患者が前年に比較した結果、常勤医が配置されていた状況に近づき増加傾向にある。
- ③ THANKS GIFTを実施することにより「THANKS文化（感謝の文化）」の醸成を図り、職員間のコミュニケーション、感謝の気持ち、改善への称賛、日常の賞賛へ気持ちの醸成に貢献した。
- ④ 人間ドックでは新たなオプション検査（Dダイマー、認知機能検査、APOA2検査）を導入し、計913件の検査を実施した。年間を通じたオプション検査数は、昨年の件数を上回る4,681件となった。
- ⑤ 国際的ニュース雑誌で発表された「世界で優れた病院ランキング」に2年連続掲載され、昨年度188位/7,000病院から今年度147位と上位に掲載された。石川県では当院を含め昨年同様3病院が掲載されている。
- ⑥ 長年地域医療に貢献した人に贈られる「医療功労賞」を理学療法課の諏訪課長が石川県で唯一受賞した。

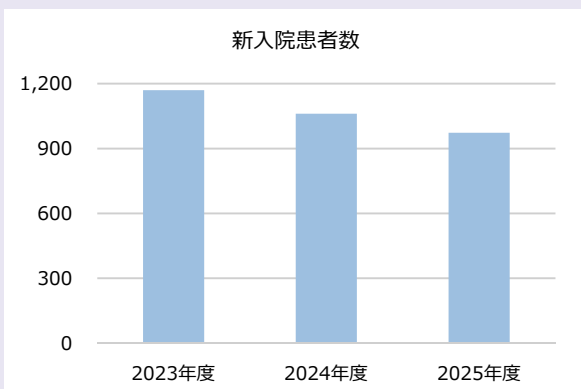
内科、血液疾患・骨髄腫センター

■所属医師

村田 了一、齋藤 千鶴、高橋 稚奈、萩原 剛志

■2025年度のトピックス

新入院患者数の増加を目標としたが前年度より減少傾向となった。金沢、加賀の医療圏での血液内科常勤医の均てん化が原因と考えられた。DPCへの移行や平均在院日数の最適化、血栓・止血・血管病センターの立ち上げによる集患などで収益を確保した。



■事業報告

- ① 金沢大学附属病院、石川県立中央病院をはじめ、血液内科外勤医が派遣されている大学関連施設との診療連携を図り集患に努めている。
入院患者数 11,856名（対前年比 84%）
外来患者数 9,262名（対前年比 84%）
- ② 入院患者数の減少から化学療案件数、無菌室稼働率も伸び悩んだ。
無菌室稼働率 42.4%（対前年比 77%）
病棟化学療法 1,818件
外来化学療法 453件
- ③ 血液内科として高度な専門性を維持するため、新規分子標的療法剤や二重特異性抗体療法導入を進めた。二重特異性抗体について、免疫療法特有の副反応を生じうるため、これに対応可能な診療体制の構築を試みた。
- ④ 当院の強みである自家末梢血幹細胞移植の適応症例集患に努めている。
- ⑤ 一般内科としても、サブアキュート、ポストアキュート症例の受け入れや緩和ケア症例の引き受けを積極的に進めた。

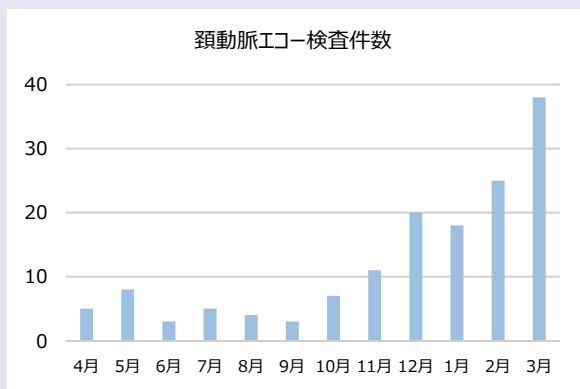
血栓・止血・血管病センター

■所属医師

朝倉 英策

■2025年度のトピックス

金沢大学附属病院、金沢医科大学病院、近隣の医療機関などから血栓・止血・血管病に関連した外来患者紹介をいただいた。脳梗塞、心筋梗塞などの動脈血栓症につながりやすい生活習慣病の診療に注力した。



■事業報告

- ① 当センターは2025年4月に発足したばかりであるが、金沢大学附属病院、金沢医科大学病院からは、抗リン脂質抗体症候群などの後天性血栓性素因、先天性アンチトロンビン欠乏症などの先天性性血栓性素因の患者紹介を受けた。
- ② 近隣の医療機関からは、深部静脈血栓症疑いの患者の紹介を受けた。
- ③ 脳梗塞、心筋梗塞などの動脈血栓症につながりやすい生活習慣病を有する患者の診療に注力した。特に、的確に動脈硬化の評価を行うことができる頸動脈エコー検査を精力的に行い、早期診断、早期治療に繋げることができた。
- ④ 頸動脈エコー検査は極めて重要な検査であるが、患者にとって知名度の低い検査であったため、今後ポスターなどで検査の重要性をアピールしていく予定である。
- ⑤ 日本血栓止血学会の認定施設申請が承認された（2026年1月通知）。認定証は、2026年4月発行となる。

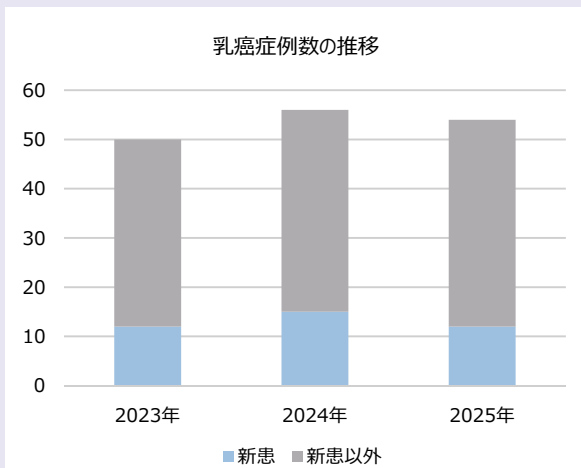
外科

■所属医師

道輪 良男

■2025年度のトピックス

乳癌（疑いを含む）症例は54例、新患は12例（22%）で、2023年からは軽度増加したが、2024年からは大きく変化なかった。（前年比：96%）



■事業報告

- ① 入院患者数は減少し、外来患者数は微増した。
入院患者数：1,183人（前年比：87%）
外来患者数：1,735人（前年比：102%）
- ② 手術件数は30件で減少した（前年比：46%）。
- ③ 全大腸内視鏡検査数は148件で、増加した（前年比：117%）。
- ④ エンド・オブ・ライフケア目的の入院は10例で、減少した（前年比67%）。
- ⑤ 日本乳癌学会学術総会で、骨転移に対して薬物療法中にFanconi症候群を認め、脳梗塞を発症した症例について発表した。

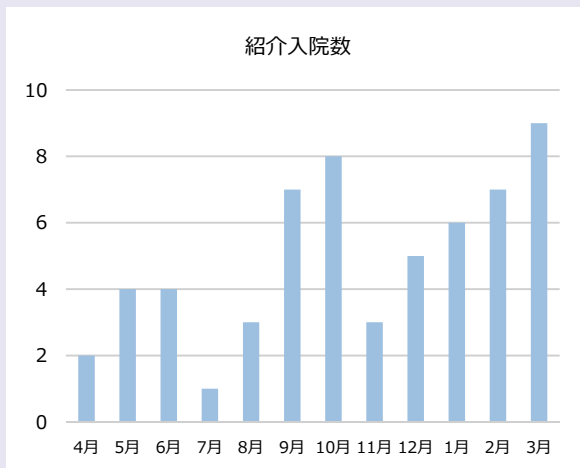
整形外科

■所属医師

安竹 秀俊

■2025年度のトピックス

2025年4月から連携病院中心に整形外科のポストア、サブアキュート、手術後の患者受入れを再開し、入院患者拡大に努めた。



■事業報告

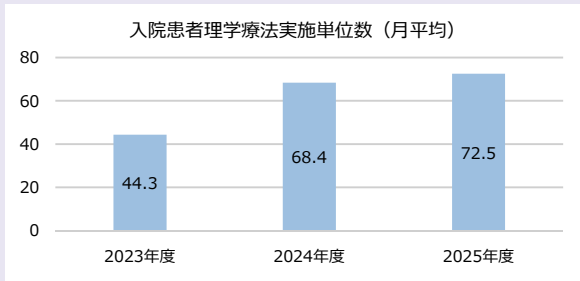
- ① 2024年度は常勤医師不在のため入院患者受入れを行わなかったが、2025年度は常勤医師を配置し、特に石川県立病院整形外科との連携により術後のリハビリを中心に入院患者を受け入れた。
入院患者数：2,713人（前年入院受入なし）
- ② 2024年度は非常勤医師のみであったが2025年度から常勤医師となり外来患者が増加した。
外来患者数：4,723人（対前年103%）
- ③ 2024年度常勤医師不在のため二次救急についても対応できない状況が続いたが、常勤医師配置で二次救急を受入れることができた。
- ④ 休日当番医については下期より担当し、地域医療に貢献できた。
- ⑤ 手術は積極的に実施していないが緊急性のある手術は実施している。

理学療法課

■部門代表者

諏訪 勝志

■2025年度のトピックス



■事情報告

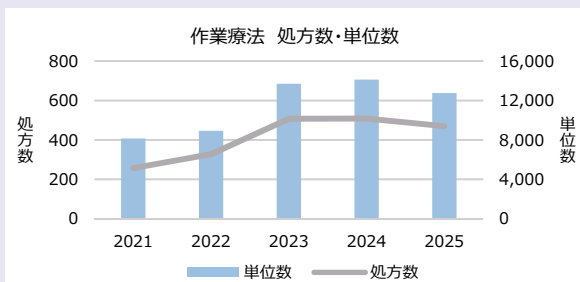
- ① 入院患者理学療法実施率は平均72.5%、入院後平均1.6日と早期からリハビリを開始、入院中の身体機能低下の予防・改善が図られ、スムーズな退院につながった。
- ② 登録理学療法士取得1名、日本糖尿病療養指導士更新1名、3学会合同呼吸療法認定士更新1名を輩出するなど、理学療法の質向上につながった。

作業療法課

■部門代表者

東川 哲朗

■2025年度のトピックス



■事業報告

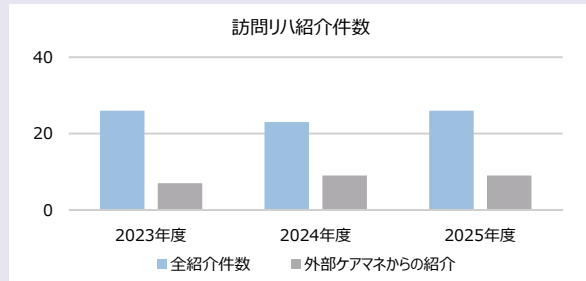
- ① 365日リハの継続。
- ② OT処方数・単位数とも微減。
- ③ 男性職員の育児休業取得があった。
- ④ 処方の74.3%（前年87.2%）ががんリハ。残りが運動器であり、整形外科領域が増加。加算機会が増加。

訪問リハビリテーション事業所「けいじゅ金沢」

■部門代表者

諏訪 勝志、東川 哲朗

■2025年度のトピックス



■事業報告

- ① 院内リハスタッフからの紹介17件、外部ケアマネからの紹介9件あった。出前講座（フレイル予防、体操教室）でケアマネへの広報をしたことで、外部ケアマネからの紹介が増えてきている。
- ② 今年度からiPhoneを導入したことで、院外でのカルテ閲覧や記載など業務効率化が図れている。

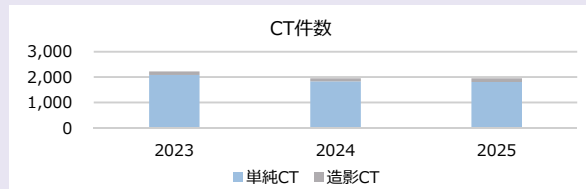
放射線課

■部門代表者

武村 真弓

■2025年度のトピックス

薬剤課と協働で「MOTTO」安全に造影検査を行うためにヨード造影検査時の問診表の改訂を行った。



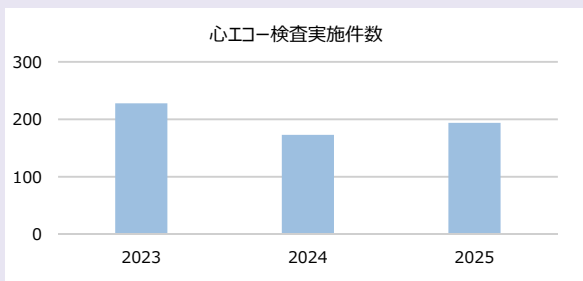
■事業報告

- ① CT件数：1,954件/前年度比100%
（うち造影検査数148件/前年度比122%）
- ② マンモグラフィ件数：968件/前年度比99%
- ③ トモシンセシス件数：266件/前年度比91%
- ④ 骨密度件数：1,287件/前年度比113%
- ⑤ 超音波検査：2,934件/前年度比102%
- ⑥ 検診マンモグラフィ撮影認定技師（更新）3名

臨床検査課

■部門代表者
長面 佳央理

■ 2025年度のトピックス



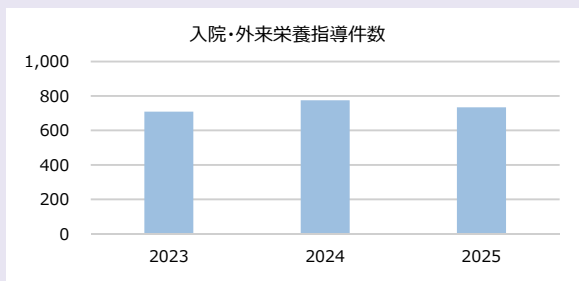
■ 事業報告

- ① 循環器内科医と協働し、心エコー検査を194件実施した。
- ② 放射線課と協働し、頸動脈エコー検査を147件、下肢静脈エコー検査を91件実施した。
- ③ 血液疾患患者の骨髓像カウント業務を76件実施した。

臨床栄養課

■部門代表者
羽根 由子

■ 2025年度のトピックス



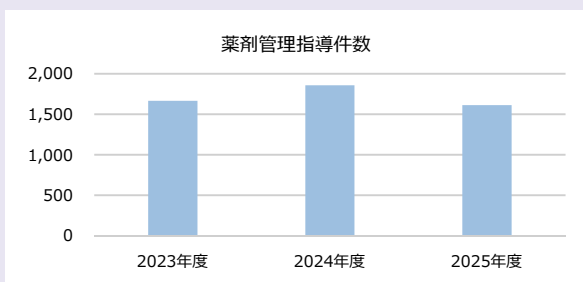
■ 事業報告

- ① 2024年度より外来栄養指導も積極的に実施。入院・外来合わせ2025年度も700件以上の栄養指導を実施し、栄養指導件数の大幅な減少なく推移した。
- ② オレンジカフェで低栄養予防をテーマに講師をした。

薬剤課

■部門代表者
宮森 久志

■ 2025年度のトピックス



■ 事業報告

- ① 2025年度薬剤管理指導件数で前年度 86.8%
- ② 入院中患者に対する医療用麻薬の自己管理体制を確立した。
- ③ 抗癌剤プロトコルシステムによる化学療法実施手順を現状の運用に沿って明文化しマニュアルを整備した。

人間ドックセンター

■所属医師

大竹 茂樹、朝倉 英策、上田 幹夫、土田 達

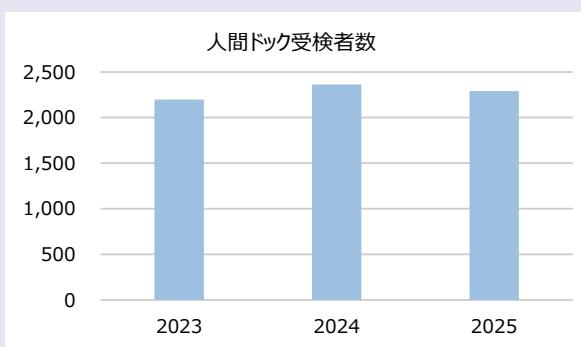
■2025年度のトピックス

人間ドック受検者数 2,290人（前年度 2,363人）

コース比率 2日 65% 1日 27% 半日 8%

男女比率 男性 58.2% 女性 41.8%

＜新オプション＞ ①D-ダイマー検査 455件
②マーカーAPOA2検査 317件
③認知機能検査 141件



■事業報告

- ① 2025年度ドック受検者数は2,290人で前年度より約3%減少した。NTT（株）のドック制度の変更に伴い、全国どこの病院でもドックを受検できるようになった点が影響したと思われる。代わって一般健康診断を292人受け入れた。
- ② 新たに協会けんぽの特定保健指導業務を開始した。2026年度より協会けんぽ人間ドック健診実施機関となるよう手続きを進め、健康診断受診者数の増加を図った。
- ③ ドックオプション検査として、D-ダイマー検査、膵癌腫瘍マーカーAPOA2検査、および認知機能検査を新たに導入し、計913件の申し込みがあり、オプション全体の約2割を占める結果となった。
- ④ 申し込みの多かったオプション検査は、胃カメラ、遺伝子検査、大腸カメラ、腫瘍マーカーCA19-9、子宮超音波検査などであり、昨年度を上回る4,681件（前年比103.8%）を実施した。これには、フローチャートの活用、QRコードの導入等が寄与したと考えられる。

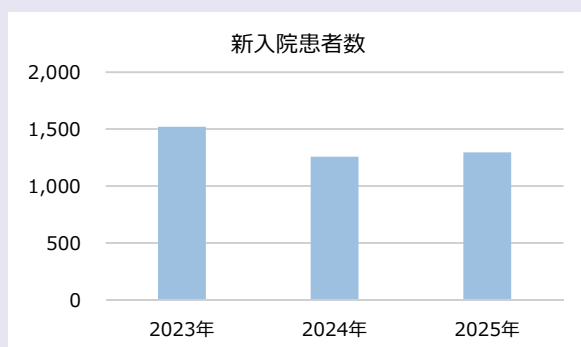
看護部

■部門代表者

前大道 綾子

■2025年度のトピックス

2024年度一病棟化となり、2年目を迎えた。整形外科医の常勤復活、稼働病床数53床の常態化、新入院患者数120名を目標とし、一年を通し全職員へベッドの稼働状況を周知した。



■事業報告

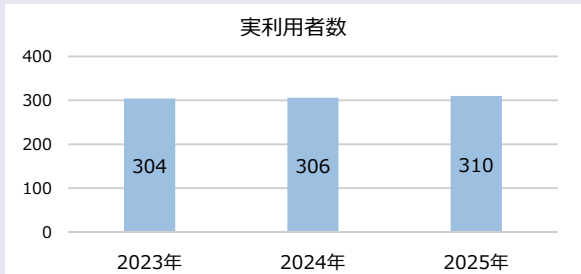
- ① 認知症看護認定看護師を中心に院内デイケアを開始した。作業療法士や看護補助者と協働し、毎週木曜日の開催が定着した。毎回企画を変え季節の話題をおりこみながら取り組んでいる。
- ② 特定行為看護師が1名誕生した。医師の協力により監視下での実践を規定数行い、自立しての特定行為が始まった。
- ③ 外来では、最近増加した外国人患者に対応するため、発熱や下痢・嘔吐などの感染症状のある患者の説明ツール、手順の作成に取り組み、活用を開始した。
- ④ 訪問看護ステーションが中心となり、出前講座を開始した。テーマに応じて感染管理認定看護師、認知症看護認定看護師が講師となり、地域の方々と交流した。
- ⑤ セル看護提供方式®2年目を迎え、「セルBOSS」を中心としたセルのあり方を検討し、患者のそばにいたことは定着してきた。今後は、多職種で患者をサポートする患寿セルケアチームを検討していきたい。
- ⑥ iPhoneが導入となり、トークを活用することで特に医師への報告に関し、業務効率が上がった。
- ⑦ AIを活用した議事録作成を、看護補助者も含め実践できるように取り組んだ。

けいじゅ金沢訪問看護ステーション

■部門代表者

数内 照美

■2025年度のトピックス



■事業報告

- ① 実利用者数はほぼ横ばいだった。
- ② 当院や訪問看護を知ってもらうために、病院から地域住民に向けて、当院から初めて出前講座を行った。目標として10回の講座開催を掲げたが、営業などの周知活動で12回行うことができた。地域住民約120名に当院や訪問看護について知ってもらうことができた。来年度以降も継続するためには、多職種の協力なくしては続かない。

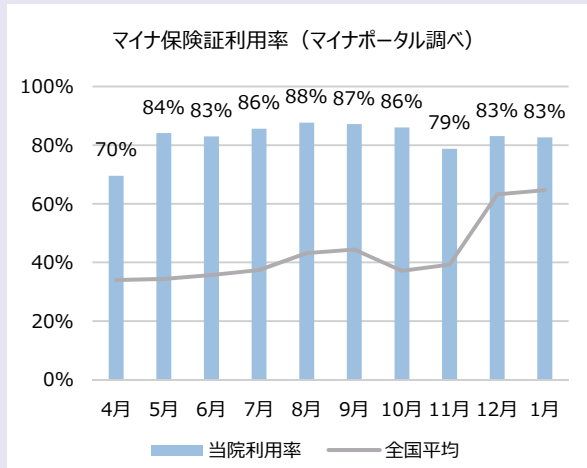
事務部

■部門代表者

森田 均

■2025年度のトピックス

2024年度からマイナンバー利用率向上に向け一人ひとりに声掛けを実施し、利用率は全国平均を大きく上回る高水準利用率を維持している。



■事業報告

- ① 2025年6月機能評価を受診し（一般病院1）12月認定となり、今回で前病院と通算し5回目の認定を取得した。
- ② 診療報酬における施設基準及び各種加算の管理業務を特定の職員から職種・部署を超えたチーム会を結成し、病院全体で管理・考える仕組みを構築することにより、新たな加算取得に繋がった。また、共有フォルダーを利用することにより誰でも施設基準を確認できる仕組みとした。
- ③ 今年度から年間一回の大規模大雨災害に備えた訓練を実施した。職員33名が参加するとともに本部設置、各班員の報告、避難における手順、防災物品の準備、土嚢の準備など、細かな手順を確認した。加えて職員安否確認も併せて実施した。
- ④ 地域の病院、開業医、ケアマネジャー、介護施設等との連携を目的に、9月10日地域連携のつどいを開催したところ50名の参加を得、今後の連携の在り方について対面で意見交換を実施した。
- ⑤ 当院の特徴等について書かれた恵寿まるわかりブックを前年に引き続き発行し、診療や紹介先として参考になる情報を提供した。（100部発行）

医療事業統括部門 クリニック

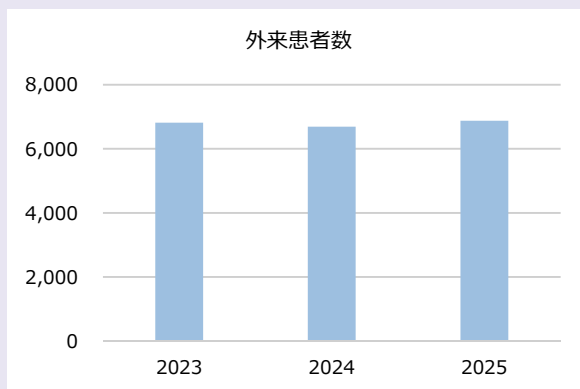
鳥屋診療所

■所属医師

廣正 修一、中谷 茂和

■2025年度のトピックス

所長が交代し、新所長として廣正医師が着任した。田鶴浜診療所の閉鎖に伴い、鳥屋診療所での診療に変更となった患者数が増えたため、総外来患者数は増加となった。これまで休診としていた火曜日も、心療内科の診療日として診療拡大した。



■事業報告

① 鳥屋診療所

診療日は、月曜、水曜、金曜が内科・循環器内科・小児科、火曜日が心療内科が担当した。患者数は、成人がプラス27%と大きく増加したが、一方で小児がマイナス19%の減少となった。合計では2.7%の増加となった。ワクチン接種件数は、成人447件・小児1,106件合計1,553件で、前年度対比で0.4%増加した。心療内科受診者数は、432人となり前年度対比で82.4%増加した。

② 通所リハビリテーションいきいき

今年度も、受け入れ制限をかけることなく通年でサービス提供することができた。延べ利用者数は、3,054人で1.11%増加した。

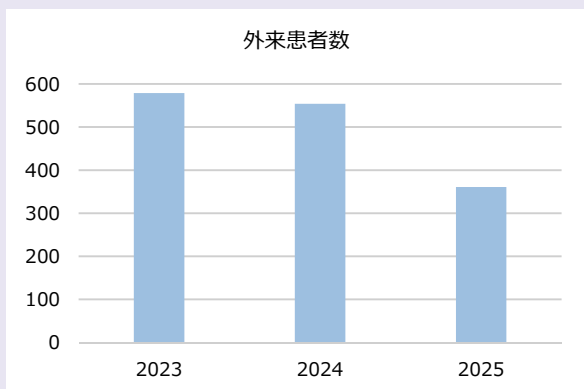
恵寿鳩ヶ丘クリニック

■所属医師

渡邊 博之

■ 2025年度のトピックス

震災後、過疎化が加速しており、スタッフ確保もより困難となっている。しかし、主に恵寿鳩ヶ丘入所者と穴水ライフサポートセンター利用者のレントゲン一般・CT撮影や、予防接種等を通じて、医療・予防の提供を継続、安心安全の確保に努めている。



■事業報告

- ① 外来患者数は年間361人（昨年554人）。
- ② 2024年1月の震災後スタッフの確保も難しい中、介護医療院併設の医療機関として、主に鳩ヶ丘入所者と穴水ライフサポートセンターのレントゲン一般・CT撮影、予防接種事業（インフルエンザ・新型コロナウイルス等）を行い、病気の早期発見・治療・予防に努めた。診療科目は、内科、胃腸科、リハビリテーション科。

介護事業統括部門

■部門長

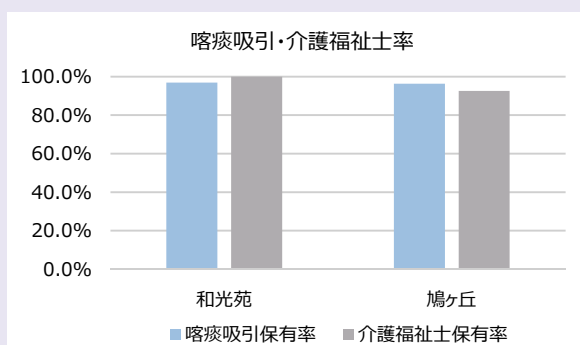
内田 かおり

■副部門長

古木 恵実子、田辺 航也

■2025年度のトピックス

- ① 鶴友苑（入所50人強化型&デイ25人）の開所に伴い、グループ内施設で利用者の受け入れを再分配し、地域のニーズに合わせた形で運営を継続した。
- ② 喀痰吸引等研修の未修了者7名全員が研修を修了した。和光苑・恵寿鳩ヶ丘の喀痰吸引等の資格保有率はほぼ100%となった。



■事業報告

① 人財育成活動

喀痰吸引18名、K-Fitマイスター12名、ノーリフトマイスター10名、Foot活マイスター10名、実務者研修5名、スマート介護士16名が新たに資格を取得した。

② 地域貢献

けいじゅフェスティバルでFoot活マイスターが約100名の歩行能力を測定した。ケアフェスタin鳩ヶ丘を開催、約100名が来場し大盛況となった。

③ ロボットの活用・介護DXの推進

新規導入：眠りSCAN（鳩ヶ丘・和光苑）、トイレDIARY（和光苑）、眠りSCAN eye（鳩ヶ丘）、ライラックプラス（ほのぼの）、BONX骨伝導ヘッドセット。第1回介護DX成果発表会を開催し、各施設の見守りロボット、移乗ロボット、インカム等の導入による業務改善、内容を共有した。

④ ペーパーレス化の達成

和光苑・鳩ヶ丘・ほのぼので計86項目を実施。

⑤ 介護の質向上（スマート介護士の活躍）

全施設、大王製紙（株）と共同で排泄調査を実施し、おむつ使用方法を変更し、使用枚数を削減した。

⑥ 社会情勢に合わせ、食費の値上げを実施。

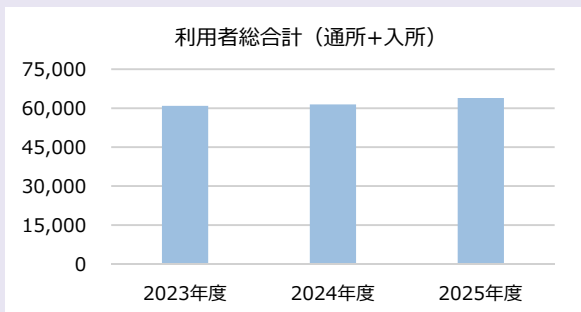
介護老人保健施設 和光苑

■施設長

伊達岡 要

■2025年度のトピックス

「適正人数で責任のある最高のケアを」を標語として定め、各部署全体で取り組んだ。①可能な限り苑内での治療完遂・送迎回数の低減②介護DXの取り組み・学会発表③事務手続のデジタル化、Teams活用への移行④認知症ケア関連の人材・加算取得体制の充実に取り組んだ。「令和7年度介護職員の働きやすい職場環境づくり」厚生労働大臣表彰奨励賞を受賞。



■事業報告

① 今期目標と達成度

入所稼働率 98.9%（前年比 +1.6%）

通所稼働率 95.2%（前年比 +7.2%）

稼働率向上のために苑内での診療対応を拡充し、病院への入院を前年度約1/3まで減らした。1年を通してコンスタントな入退所を行うと共に、ベッドの回転率を在宅復帰やショートステイの利用頻度上昇で対応した。通所はキャンセル時の空き利用の取り組みや実人数を確保する取り組みで、1年を通して昨年度より稼働率は大きく増えた。

② 教育研修

全国老人保健施設大会にて2演題を発表

1. 移乗アシストロボットの有効活用に向けて

2. 老健における嚥下機能低下と低栄養への栄養サポート

③ 今後の課題

利用者と職員双方が心から満足できる環境を整えるために、適正な人員配置やIT機器を活用することで、職員間の連携強化を行った。今後も効率的な運営と質の高いケアを両立していき、地域から選ばれ続ける施設作りを進めていく。

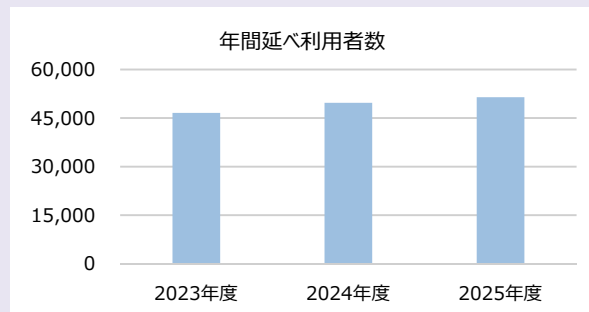
介護医療院 恵寿鳩ヶ丘

■院長

渡邊 博之

■2025年度のトピックス

年間延べ利用者数は、51,472人（前年比103.5%）。震災以降、奥能登地域全体が過疎化、働き手の不足が深刻化する中、TQMテーマ「がんばろう鳩ヶ丘～地域に向けてのアピール戦略～」として、地域の重要な社会資源として貢献し続けられるよう、事業報告に記載する4項目を中心に取り組んだ。



■事業報告

① ケアフェスタ in 鳩ヶ丘の開催

院長による講演、体験コーナー（音楽レクリエーション、リハビリ作品作り、骨密度・肌年齢・各種測定）、専門職による健康相談会、福祉用具展示販売、院内見学ツアー、ガラポン抽選会等。前回は上回る100名の参加。11月15日開催。

② SNS等の広報活動

Instagramフォロワー数175→500 約3倍に増加。

③ 見守り支援機器の導入

石川県の「介護現場の生産性向上に関する伴奏支援・モデル事業所」の指定を受け、見守り支援機器「眠りSCAN」57台・カメラ付きタイプ「眠りSCAN eye」4台を設置活用し、利用者の安心・安全と職員の負担軽減を図った。

④ 地域へのアウトリーチ支援

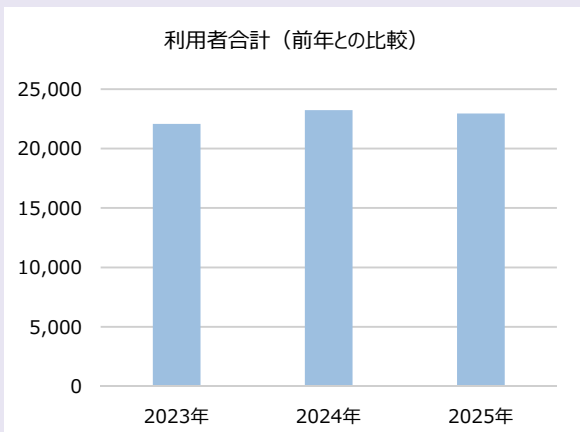
ケアマネステーションのサテライト拠点として地域支援 奥能登復興リハビリテーション支援活動延べ80回以上

在宅複合施設 ほのぼの

■部門代表者
古木 恵実子

■2025年度のトピックス

人口減少や施設入所の加速といった厳しい状況下であるが、併設の通所リハビリいきいきと協働してケアマネ事業所への定期訪問を実施。顔の見える関係を築くことで信頼を深め、紹介促進に注力した。



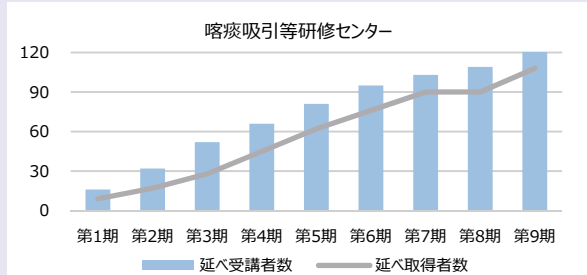
■事業報告

- ① 今期の目標と達成度
稼働率目標値：通所介護91%/短期入所95.0%
通所介護稼働率：88.3% 達成度97.0%
短期入所稼働率：91.3% 達成度96.1%
医療連携体制加算 70件
生産性向上推進体制加算Ⅱ 531件
栄養改善加算 12件
口腔・栄養スクリーニング加算151件
栄養アセスメント加算 1,725件
- ② 教育研修
認知症介護実践リーダー研修修了者1名、認定特定行為業務従事者研修2名、介護支援専門員1名、Foot活マイスター1名、K-Fitマイスター1名、ノーリフトマイスター2名、スマート介護士9名、県主催介護技能グランプリで技能賞「適切なコミュニケーション」を受賞。
- ③ 介護DX・ロボットの推進
移乗ロボットSASUKE、座位浴槽ライラックプラス導入。
- ④ 今後の課題
在宅複合の機能を最大に生かし、在宅生活を最後まで支える地域に不可欠な生活支援の拠点を目指していく。

喀痰吸引等研修センター

■部門代表者
内田 かおり

■2025年度のトピックス



■事業報告

- ① 実技が未実施で登録できていない職員が8名いたが、全員修了した。
- ② 2025年度受講生10名全員修了し登録。
- ③ 2017年の1期生から2025年の9期生までに130名の資格取得者を登録。
- ④ 和光苑は96.9%、鳩ヶ丘は96.3%の取得率である。

社会事業統括部門

社会事業統括部門

■部門代表者

神野 厚美、進藤 浩美

■2025年度のトピックス

【法人内施設間における手続きの簡便化】

入院・入所時のタオルや寝巻のセットは、入院から入所に移る際申し込みをやり直す仕組みとなっていた。利用者の利便性に鑑み、入院⇔入所の手続きを削減した。申し込み手続きを一度完了すると入院⇔入所が複数回ある場合でも引き続きサービスが提供されることとなった。

■事業報告

- ① 看護学校は、新入学生16名と目標を下回ったが、1・2年生の電子教科書使用が100%達成し、日本看護学校協議会より優秀賞を受賞した。
- ② 本院の入院セット、LAWSONの委託先を変更した。
- ③ 穴水地区の給食提供のために、デリカでの業務内容を変更した。

けいじゅデリカサプライセンター

■部門代表者

神野 厚美、進藤 浩美

■2025年度のトピックス

【デリカサプライセンターへの盛り付け業務移管】

穴水地区では、厨房業務に関わる人材採用が非常に厳しく、重仙会・徳充会3施設での給食提供が危機的状況であった。そのため現場での盛り付け業務をけいじゅデリカサプライセンターに移管し、再加熱カートを用いたクックチル提供方式とし、ワンオペ給食提供を実現した。

■事業報告

- ① 弁当業務ラインとして、徳充会ワークセンター、デイサービスもみの木苑の昼食、本院のスマートミール弁当対応。
(職員の食生活改善に向けた健康経営対策)
- ② 穴水地区の給食提供業務削減のために、調理・配膳工程の再編を実施した。スチコンを使用したパック炊飯・冷却業務、副菜のデイスボパック化・蓋掛け業務、穴水行き配送トラックへの積み込み業務が新たに増えた。

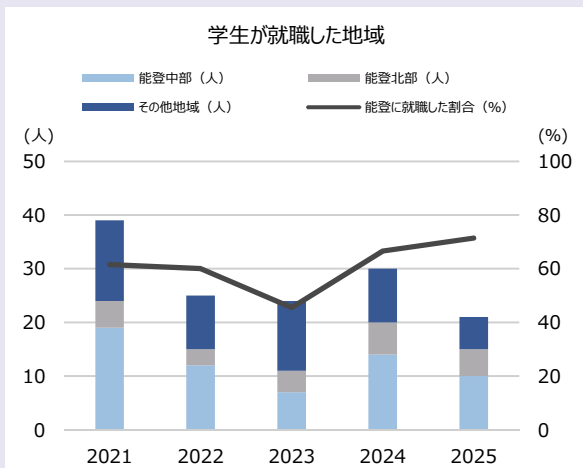
七尾看護専門学校

■事務長

平田 吉喜

■2025年度のトピックス

22名卒業し、21名が病院に就職。能登中部・能登北部の病院に15名（内 恵寿総合病院6名）が就職。能登地区の病院に就職した割合は71.4%であった。



■事業報告

- ① 2025年度の入学出願者数16名、受験者数16名、入学者数14名だった。入学者の出身別では、能登中部12名、能登北部1名、石川中央1名、県外0名であった。
- ② 第115回看護師国家試験に新卒者22名が受験し、21名が合格。合格率95.5%であり、全国平均88.3%（新卒者94.1%）を上回った。
- ③ 董仙会の修学資金を受けている学生は、1年生1人、2年生3人、3年生4人である。
- ④ 一般社団法人日本看護学校協議会主催の「私の学校自慢」で2年連続で優秀賞を受賞した。
テーマ：「デジタルツール活用による看護実践力向上と学生の成長を支えるDXの取り組み」

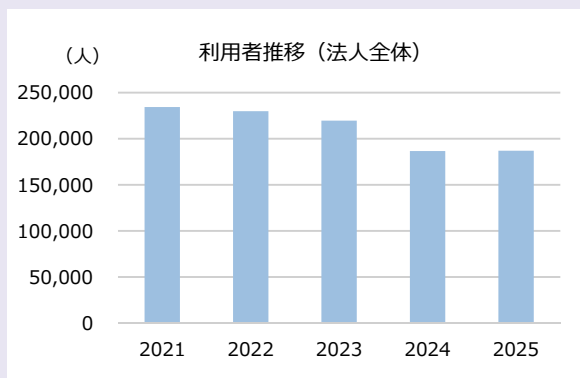
徳充会

■部門代表者

今寺 忠造

■2025年度のトピックス

「MOTTO」をテーマに各部署で積極的に取り組んだ。法人創立40周年（動画・記念植樹他）。復旧工事青山ライフ12月末完了、穴水ライフ現在進行中。石川県精育園：4月加賀から帰園。高齢者事業局：介護DXで業務改善。事務局：DX・AIの推進と震災の復旧対応に追われた。



■事業報告

- ① 各事業所が強みを生かした新しいサービスの創造・構築を目指した。法人40周年は各事業所で、独自のイベント等を開催した。
- ② 障害者事業局：入所は高齢化し、重度・医療的ケアのニーズが高く、入院が多い現状。通所系は震災前の数値に近づいた。身体系より知的・精神の利用ニーズが高くなっている。拠点コーディネーター等新しい時代のサービスに対応した。石川県精育園は新築移転が示された。
- ③ 高齢者事業局：各種マイスター（K-Fit・ノーリフト・Foot活）の資格習得等の人材育成や介護DXを推進した。強みを生かした選択プログラムや買い物訓練、整髪サービス、とくし丸等を活用し、意欲を引き出した。外出支援やイベント交流等を再開した。取得可能な加算は積極的に取り組んだ。
- ④ 事業局：40周年記念イベント。DX・AIの推進。カスタマーハラスメント対策強化。介護職員処遇改善加算による賃上げ。新たな休暇制度・副業規定。補助金・義援金の受入と申請。復旧対応・会議参加。
- ⑤ 地域貢献：徐々に地域交流イベントを開催し、できる範囲で福祉教育等の社会貢献活動を行った。

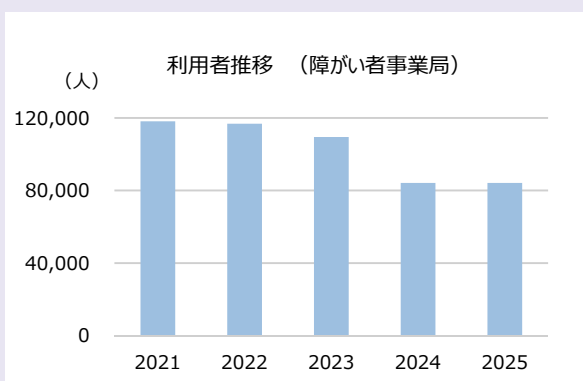
障がい者事業局

■部門代表者

今寺 忠造

■2025年度のトピックス

各事業所、「MOTTO」を意識し、置かれた立場で、創造的復旧・復興に取り組んだ。限られた環境で創意工夫をしながら、利用者サービスを提供した。地域交流やイベントも再開し、地域貢献も継続して行った。



■事業報告

- ① さいこうえんの障害者支援センター：地域活動支援センターは2026年3月末で閉所。地域生活支援拠点コーディネーターを配置。キララは継続して被災地支援。
- ② セエレナ青山：現状維持。ホームヘルプ利用4名。
- ③ 青山彩光苑リハビリテーションセンター：地域交流イベント再開。機能訓練・生活訓練は横ばい。
- ④ 青山彩光苑ライフサポートセンター：7月渡り廊下通行可、12月末工事完了。介護ソフト導入、浴室シャワーヘッドの交換で快適入浴推進。知的・精神の在宅利用者の入所受入推進。
- ⑤ ワークセンター田鶴浜：定員20名、施設外就労継続。総利用者増加。土耕・軽作業・洗濯仕事量、震災前に近づく。
- ⑥ 青山彩光苑穴水ライフサポートセンター：定員50名変更、地域連携会議の実施、テイクアウトの実施、夏祭り・障がい者週間（小学校福祉教育・アンサンブル・太鼓等の交流会）。
- ⑦ 石川県精育園：40名が現精育園で新生活開始。こども園・高校生・ボランティアとの交流再開、新築建替え移転が決定。避難利用者の殆どが帰園を希望。グループホームは仮設からの短期入所は積極的に受け入れた。

第2章 法人方針・事業報告（徳充会）

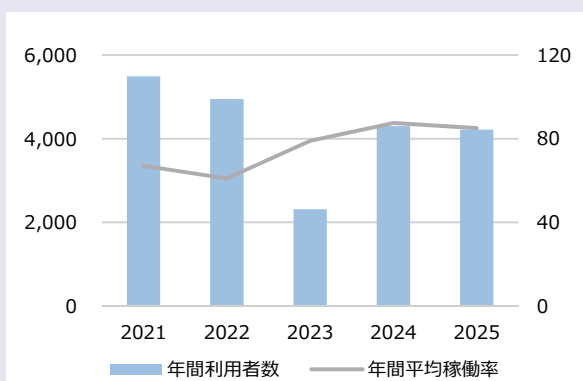
障がい者事業局 青山彩光苑 青山彩光苑リハビリテーションセンター

■部門代表者

久保 奈保

■2025年度のトピックス

長期にわたった震災復旧工事を終え、施設設備全体が活用できるようになったことを皮切りに、施設内を活用した地域との交流イベントなど開催することができた。各事業について、機能訓練については年間を通じて安定した利用率を算定できた。就業事業については、5名の就職者を輩出できた。



■事業報告

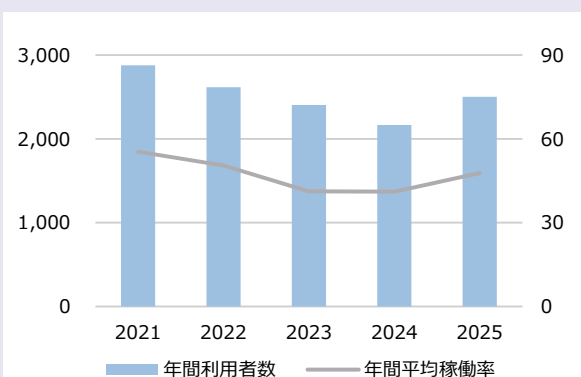
- ① 目標と達成度
機能訓練稼働率を100%以上とする
→94%であったため、達成度は94%
就労移行支援稼働率を100%以上とする
→80%であったため、達成度は80%
生活訓練（機能訓練）稼働率を100%以上とする
→73%であったため、達成度は73%
- ② 就労移行支援事業については、5名の利用者が就職した。6か月以上の職場定着者は3月時点で5名となった。2年間実績での評価のため、2026年度も報酬単価最高値となった。2025年度は前年度に比べて就労移行支援事業で就職者も多かったため安定した利用率を維持することが難しく、稼働率が低下した。就職実績と稼働率のバランスを改めて考える必要がある。2026年度は4月時点で定員を超えた受け入れを予定している。年間を通じた安定した利用を継続するため引き続き学校及び相談支援事業所へのアプローチを継続し新規獲得を目指していく。

障がい者事業局 青山彩光苑 さいこうえんの障害者生活支援センター

■部門代表者
前田 奈津子

■2025年度のトピックス

地域活動支援センターにおいては若干の稼働率の伸びはあったが、能登半島地震前の稼働率までには届かなかった。今後も定員数までの利用人数が見込めないことや人員配置が難しいことから、2025年度をもって閉鎖となった。



■事業報告

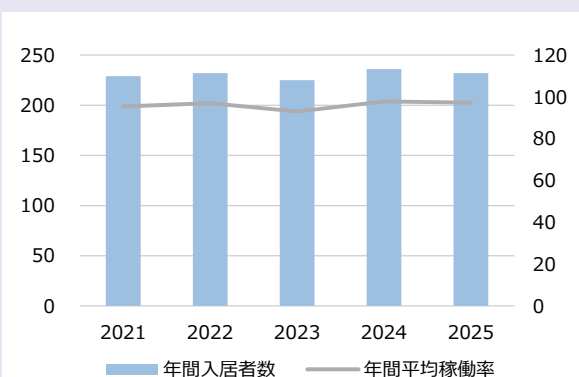
- ① 地域活動支援センターは七尾市・中能登町からの委託を受け、I型事業を実施した。高階地区コミュニティセンターとつながりを維持し、地域の一員として積極的な活動を実施していたが、諸般の事情により2025年度で閉所となった。
- ② 相談支援事業（指定特定・指定一般・指定障害児）は、障がいのある人の様々な相談に応じ必要な情報提供、障害福祉サービス利用等の支援を行った（年間相談件数4,809件）。今年度より地域生活支援拠点コーディネーターを配置し、地域の8050世帯やひきこもり等の支援において、中心的な役割を担っている。相談支援事業所キララでは各関係機関と連携し、復興支援を継続している。
- ③ 障害者就業・生活支援センター事業は障がい者・企業からの就職に係る相談・職場定着に係る相談、これらに伴う生活の相談を受け、その課題解決に向けて必要な情報提供、助言等の支援を実施した（年間相談件数2,412件、就職件数29件、職場実習研修32件）。

障がい者事業局 青山彩光苑 バリアフリーホーム セレーナ青山

■部門代表者
久保 奈保

■2025年度のトピックス

2025年4月は19床から開始し、2026年3月には20床の稼働となった。多少の入退居はみられたが、年間通じて定員20名に対し、19～20名で推移し、大きな変化はみられていない。



■事業報告

- ① 退居2名、新規入居者は3名であった。年間平均稼働率は前年度を維持できた。
- ② 入居者の法人内サービス利用の内訳
※重複利用を含む
【障がい者活動系】
リハビリテーションセンター：6名
ワークセンター田鶴浜：3名
障害者生活支援センター：4名
【生活支援系】
ローレイルハイツ恵寿（ホームヘルプ）：4名

障がい者事業局 青山彩光苑ライフサポートセンター

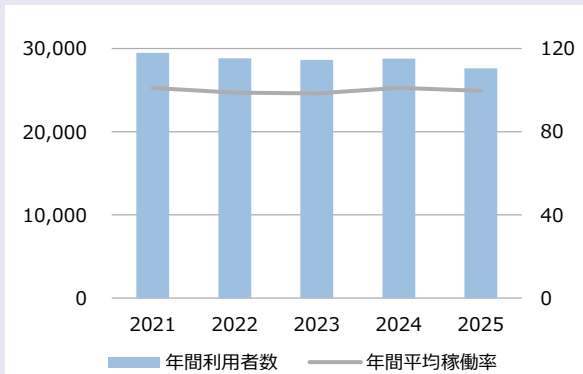
■部門代表者

瀧野 利徳

■2025年度のトピックス

7月に東西両館を結ぶ渡り廊下が使用できるようになり、利用者・職員の動線が平時の状態に戻った。また、年末には外構工事を含むすべての復旧工事が完了した。

介護ソフト導入による記録業務の省力化を目指したが、補助金活用が可能となり、年度内の導入にこぎつけられた。



■事業報告

- ① 生活介護事業は、目標稼働率122%に対し117.8%で達成率は96.5%であった。施設入所支援事業の実績は、目標稼働率102%に対し99.6%で達成率は97.6%、短期入所事業は70%の目標稼働率に対し63.6%となり、目標達成率は90.8%であった。
- ② 入所者の確保について、七尾市では介護保険の第2号被保険者で特定疾病の方は、介護保険優先が徹底されてきたため、新たに知的及び精神障がい者で在宅やグループホームでの生活が困難になってきた方をターゲットとし、今年度は2名が入所するに至った。
- ③ 利用者サービスでは、浴室のシャワーを高級な物へと交換し、より快適な入浴場面を演出した。また、前年同様に輪島市・穴水町の復旧状況を肌で感じてもらうため、現地を訪問して飲食や土産物を購入する機会を設けた。入所者31名、入所者家族2名の参加があった。

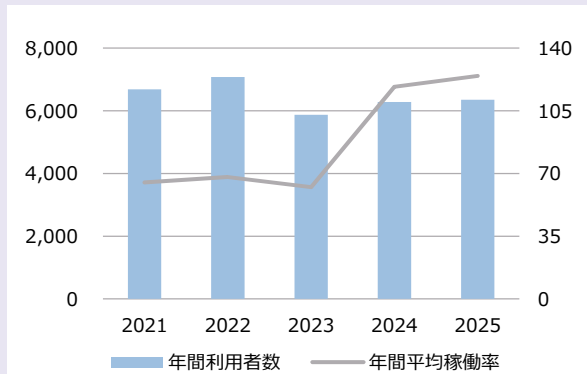
障がい者事業局 青山彩光苑ワークセンター田鶴浜

■部門代表者

細木 俊逸

■2025年度のトピックス

各事業において、震災前の仕事量に戻すために、新規の仕事を獲得する取り組みを行った。2025年10月には社会福祉法人読売光と愛の事業団様より、自走式草刈り機の助成を受けることができた。今後、この草刈り機を活用し、仮設住宅等の草刈りの仕事を獲得していきたいと考えている。



■事業報告

- ① 新規利用者は2名、退所者は2名であった。年間の総利用者数は6,351名であり、昨年度に比べ70名増加した。稼働率は124.5%であり、目標稼働率の達成率は99.6%であった。実利用者は31名～30名で推移していた。
- ② 2025年度の収益としては、2月末時点で、土耕事業は前年比約21%増、軽作業事業、リサイクル事業は前年度と同等、ランドリー（洗濯）事業は20%減少、商品販売は19%減少となった。ランドリー、商品の収益減少の要因は震災を受けて、納入先が減少したことによるものである。
- ③ 震災前の状況に戻す取り組みとして、土耕事業において、ハウスでのパプリカやトマトの栽培を行った。結果としては生育不良が起きるなどしたため、目標の売り上げには到達できなかったが、今回の課題を整理し、2026年度は売り上げ回復を目指して事業を進めていく。
- ④ 2025年度は石川県の震災復興事業である「能登復興推進隊」に参加し、被災地の除草作業や物品の運搬を行い利用者とともに震災からの復興に向けて地域の支援ができた。次年度も継続して取り組んでいく。

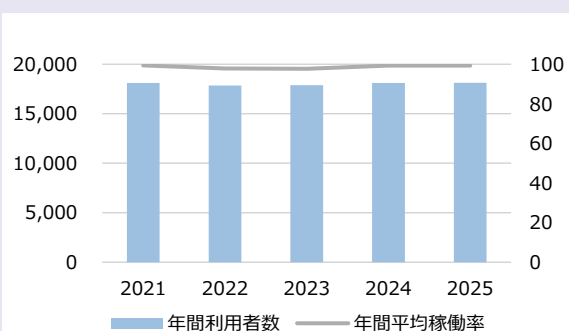
障がい者事業局 青山彩光苑穴水ライフサポートセンター

■部門代表者

大林 尚美

■2025年度のトピックス

震災から2年目を迎え、復旧工事のうち未実施であった法面工事を開始した。生活介護事業においては、利用者数は徐々に回復しているものの震災前の水準には至らず、6月より定員を50名に変更した。利用者支援については「MOTTO 楽しく」をテーマに、利用者主体による喫茶及びテイクアウト企画並びに家族参加型の苑内イベントを再開した。



■事業報告

- ① 施設入所支援事業は、目標稼働率102%に対し99.3%であり、入院者数は平均2名と、前年度と同様の結果であった。生活介護事業は、6月より定員を60名から50名へ変更した。目標稼働率115%に対し110.9%であった。短期入所事業は、目標稼働率70%に対し61.2%であり、定期利用者の入院及び入所への移行により、利用が伸び悩んだ。
- ② 6月に「地域連携推進会議」を実施。構成員は利用者代表、家族代表、地域代表等6名。当苑の取組及び地域課題について意見交換を行った。また、施設見学を実施し、施設や利用者に対する理解の促進を図った。
- ③ 9月に苑内イベント、12月に障害者週間に係る企画を実施し、家族や地域住民に対して参加を呼びかけた。来苑者は復旧の様子を確認でき、利用者にとっては家族との交流を通じて復興を実感する機会となった。
- ④ 「食」支援として、普通食を軟化させる機器「デリソフトター」を活用し、ミキサー食及びペースト食利用者への支援を実施した。見た目を変えず食事が楽しめたことにより、食事に対する意欲の向上及び摂取量の増加といった効果が認められた。

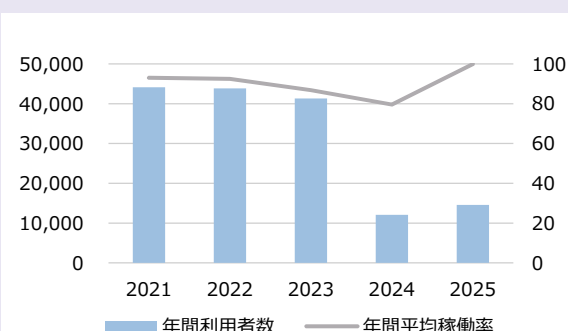
障がい者事業局 石川県精育園・自立ホームけいじゅ

■部門代表者

田中 こずえ

■2025年度のトピックス

精育園は、震災による建物・設備への甚大な被害に加え、液状化や地すべりの恐れといった地盤上の問題も確認されたため、9月に新施設への建替え・移転することが決定した。県に移転検討委員会が設置され、学識経験者や福祉関係者の知見を集めながら、新たな施設の整備方針が検討された。



■事業報告

- ① 精育園の生活介護事業は、稼働率114.4%（目標100%）だった。施設入所支援は、稼働率99.9%（目標97%/達成率103%）だった。グループホームは稼働率98.1%（目標99%）、グループホーム短期入所は稼働率68.8%（目標60%）だった。ヘルパーステーション銀河は延べ利用者数796名だった。
- ② 「移転検討委員会」により、精育園の新たな施設整備の方向性を示す報告書が3月末に取りまとめられた。
- ③ 地域移行支援では、新たに入所者2名の希望に基づき就労継続支援B型事業所へ平日通えるよう支援した。
- ④ 健康維持支援では、年4回の利用者向け健康セミナー、月1回の個別健康相談、歯科衛生士による月2回の口腔ケア等を実施した。
- ⑤ 風通しのよい職場づくりの取り組みの一つとして、平日夕方15分職員同士での振り返りミーティングを実施した。
- ⑥ 今年度より義務化された地域連携推進会議を精育園及び自立ホームけいじゅでそれぞれ開催した。
- ⑦ 平和こども園園児や穴水高校生との交流、穴水地区更生保護女性会や県外ボランティア団体との交流、障害者スポーツ大会への参加などを積極的に実施し、地域との関係づくりや利用者の生活の質向上に努めた。

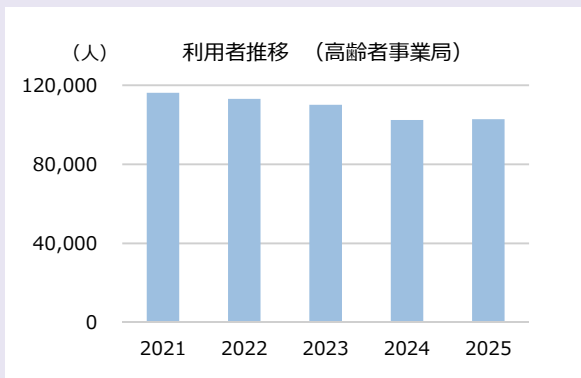
高齢者事業局

■部門代表者

内田 かおり

■2025年度のトピックス

- ① 全事業所、インカムの導入で業務の効率を上げた。介護DXで業務改善・業務負担軽減・人員削減等の成果が見られた。
- ② 取得可能な加算は積極的に取得に取り組んだ。
- ③ コロナ前からの喀痰吸引等の未修了者は全員修了。



■事業報告

- ① 人材育成活動：喀痰吸引等の研修済みで2022年から未実施であった人も含め合計6名資格取得。K-Fitマイスター、ノーリフトマイスター、Foot活マイスター、実務者研修、スマート介護士、認知症研修を実施した。
- ② 介護DX：iPhone・BONXインカムの増設で業務改善、負担軽減につなげた。また、介護DXの成果発表を開催し、各事業所と情報共有を行った。
- ③ ローレルハイツ恵寿：特定ケアハウス稼働率100%、サ高住104%と高稼働。訪問介護も件数増。クリニック閉院対応。
- ④ エレガントなぎの浦：入所稼働率93.3%で目標未達、短期入所93.1%で目標達成。通所88.8%で目標未達。ハッピープランとして個別支援を実施した。また、介護DXの取り組みとして、見守り機器やインカムを活用し、業務の効率化を推進した。
- ⑤ もみの木苑：年間稼働率83.6%で目標未達。冬季の稼働率低下が課題。地域資源活用や個別支援で利用者満足度向上と社会参加を促進。もみの木Caféや買い物訓練、整髪サービス、とくし丸の活用など、地域資源を取り入れた取り組みを実施した。

高齢者事業局

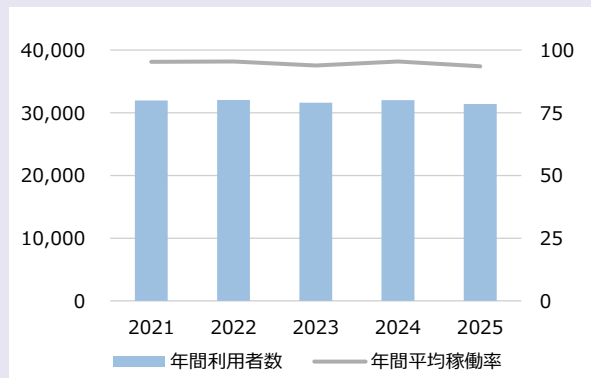
エレガントなぎの浦・アンジェリィなぎの浦

■部門代表者

江澤 恵太、藤澤 優子

■2025年度のトピックス

通所は年間稼働率88.8%で目標91%に届かなかったが概ね安定運営。利用調整や体調不良の影響が課題。入所は入院延べ人数増加により93.3%で目標未達。短期入所はクラスターで一時受入停止も空床活用により93.1%で目標達成。ケアハウスは100%を維持し満室状態が継続している。



■事業報告

- ① 通所事業は、利用者支援として、「体・脳・心らぼ」の取り組みやレクリエーション活動を通じて、利用者満足度の向上に継続的に努めた。さらに、ICTの活用や業務改善、研修の実施により職員のスキル向上と業務効率化を推進したほか、「歩こう会」や季節行事を企画し、外出機会の確保と楽しみづくりの充実を図った。
- ② 入所事業は、毎月季節行事を企画し、利用者の楽しみの充実を図るとともに、ハッピープランとして個別支援を実施した。また、介護DXの取り組みとして、見守り機器やインカムを活用し、業務の効率化を推進した。
- ③ 職員のモチベーション向上を図るため、「ATM広場」の継続と今年度は、輝きアワード2025を開催し、個人の部とグループの部で選出を実施した。
- ④ ケアハウスは、毎月の有料メニューの提供や近郊でのランチ企画を行った。また、移動スーパーのとくし丸の誘致を実施した。

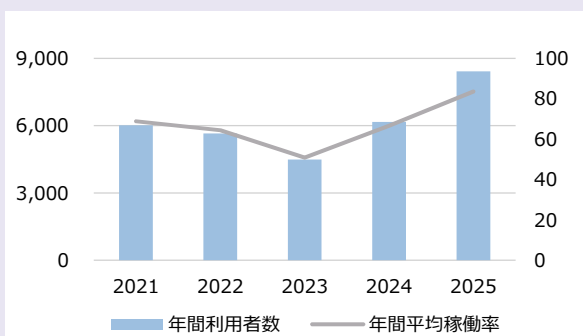
高齢者事業局 もみの木苑

■部門代表者

江澤 恵太

■2025年度のトピックス

年間稼働率は83.6%となり、目標の92%には届かなかったものの、夏季から秋季にかけては90%前後まで回復が見られた。一方で、冬季（1～3月）は稼働率の低下が顕著であり、体調不良や利用控えへの対策が今後の課題である。機能訓練や入浴、中重度ケア体制加算等は継続的に算定した。



■事業報告

- ① 「常に新しく」をテーマに、魅力ある事業所づくりを目指し、各種取り組みを推進した。利用者満足度の向上と地域に根差した事業所運営に繋げることができた。利用者支援においては、「まなぶ・つくる・うごく・はた楽」を柱とした活動を展開し、認知症予防や創作活動、社会参加訓練、役割支援を通じて、心身機能の維持向上と生きがいづくりに取り組んだ。また、買い物、屋外歩行などの実践的な日常生活動作訓練を取り入れ、在宅生活の継続を見据えた支援の充実を図った。
- ② もみの木Caféの運営やポイント制度の活用により、楽しみや達成感を感じられる環境づくりを行い、利用意欲の向上に繋がった。
- ③ 地域資源の活用としては、移動スーパーや整髪サービス、移動図書の導入により利便性を高めるとともに、認知症カフェへの送迎協力や地域行事への参加、環境美化活動などを通じて地域との関係性強化に努めた。
- ④ LINEやSNS、広報紙を活用した情報発信を行い、事業所の取り組みの見える化を推進した。
- ⑤ 職員においては、動線の見直し等による業務効率化を進めるとともに、研修や伝達講習の実施により専門性の向上を図った。

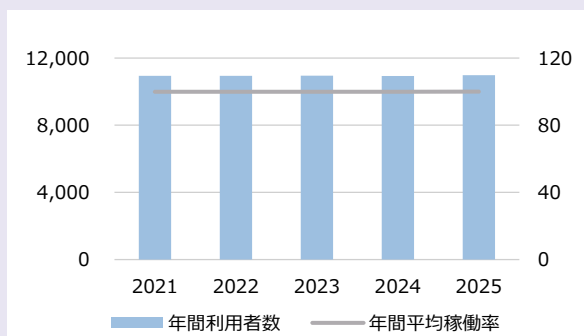
高齢者事業局 ローレルハイツ恵寿

■部門代表者

松井 智子

■2025年度のトピックス

特定ケアハウスの平均稼働率100%、一般ケアハウスは平均稼働率99.9%。サ高住は昨年度からの満室が続き、お試し利用も多く、平均稼働率は104%だった。訪問介護の平均訪問件数（月）は856件。今季は目標を大幅に上げて取り組んだ結果、目標値には届かなかったが昨年度よりもアップした。



■事業報告

- 今年度は「MOTTO 住みたくなる施設へ」をテーマに入居者の健康と安心をサポートし、満足した生活を送ることができる施設づくりに取り組んだ。また、業務改善やICT化にも取り組み、働きやすい職場づくりを目指した。
- ① 併設クリニックの閉院に伴い、個別の受診先や緊急時の対応を明確化。入居者の不安解消に努めた。健康サポートとして毎月「健康レク教室」を開催し、参加者も多くみられた。
 - ② 入居者の満足度向上を目指し、デザートビュッフェ等のお茶会、趣味活動やハッピーイベントを企画・実施した。また、訪問販売では「衣食」の品揃えを充実化し、多くの利用者に喜んでいただいた。特定ケアハウスで実施した家族と手紙交流では、「手紙が届き感動した」との感想があり、好評であった。お取り寄せグルメはニーズに応え、人気メニューの回数を増やし実施した。
 - ③ 業務改善では、コミュニケーションを目的とした終礼を実施し、情報や職員の良かった点を共有。また、会議・委員会の内容見直しにより専門職としての自覚を持つ機会になった。特定とヘルパーでは、AI活用や介護機器を導入し、事務負担と身体介護の負担軽減が図られた。

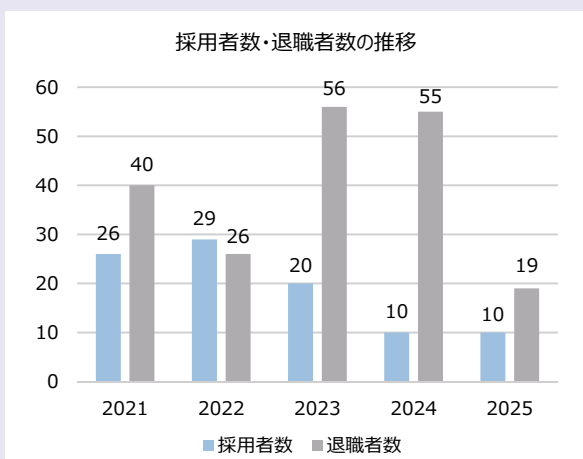
事務局

■部門代表者

山下 賢

■2025年度のトピックス

2025年度における採用者数は10名、また退職者数は19名で差し引き△9名であった。期首の職員総数は350名、期末の職員総数は341名。



■事業報告

① 災害復旧工事

青山彩光苑：2025年10月完了

穴水ライフサポートセンター陥没工事：

2026年6月完了予定

石川県精育園：本復旧について石川県と協議の結果、別地にて新築移転へと方針が決定

その他施設は2024年度中に完了

② 食事体制の高度化

食事サービスの質向上に向けた取り組みとして、穴水ライフサポートセンター及び石川県精育園に新システムを導入（再加熱カート導入）

③ リスクマネジメントの強化

ハラスメント対策の周知

内部通報制度の構築

④ 不動産の取得

七尾市田鶴浜町地内

宅地：2,196.72㎡ 建物：732.19㎡

⑤ 理事・監事・評議員改選

理事：再任6名

監事：再任2名

評議員：再任5名、新任2名

第2章 法人方針・事業報告（徳充会）

事務局 総務部

■部門代表者

芳原 哲弥

■2025年度のトピックス

内容
法人創立40周年記念イベントを企画開催
カスタマーハラスメント対策の強化
法人全体のDXの推進
多様な働き方の実現に向けた調査研究及び制度設計
職域マーケットの導入

■事業報告

- ① 法人設立40周年の特設サイト記念動画を作成し公開した。法人の全事業所でイベントを開催。
- ② カスタマーハラスメント対策を強化し、行動指針をホームページに掲載、マニュアルを作成し全職員に共有。
- ③ 生成AI及び電子契約の導入
- ④ 新たな休暇制度や副業規程を策定。

事務局 経営企画部

■部門代表者

松下 清寛

■2025年度のトピックス

災害復旧に向けた取り組み

項目	内容
復旧工事	長期工事：青山彩光苑、穴水ライフ
災害復旧補助事業	社会福祉施設等災害復旧費国庫補助金申請・査定 なりわい再建支援補助金の申請・査定
工事代金資金の資金調達等	福祉医療機構及び民間銀行に対する借入及び償還

■事業報告

- ① 経営状況の把握・情報共有
- ② コスト増への対応（ネットバンキング活用）
- ③ スキル向上（勉強会：生成AI活用）
- ④ 緊急時のテレワーク環境整備
- ⑤ 理事会・評議員会開催（役員、評議員改選）
- ⑥ 監査対応（石川県指導監査、会計監査人監査）

教育研修委員会

■部門代表者

芳原 哲弥

■2025年度のトピックス

日程	内容
6月19日	管理監督者研修（課長以上）
7月23日	中堅職員研修
10月15日	カスタマーハラスメント研修開催
11月12日	ストレスマネジメント研修
12月	介護福祉士受験対策講座

■事業報告

- ① 管理監督者研修では、全国社会福祉法人経営者協議会副会長の谷村 誠氏より経営戦略についての講義を拝聴。
- ② 介護福祉士受験対策講座は董仙会より3名、徳充会 は2名が参加。

事例研究大会

■委員長

庭田 沙織

■2025年度のトピックス

2026年2月18日（水）に「危機感と覚悟をもってMOTTO」をテーマに大会を開催。感染対策のため前年度に続きZoomを用いたオンライン形式での実施となった。

1事業所1事例を発表。当日はレコーディングを行い、後日法人内職員が視聴できるように配信した。

■事業報告

- ① 2026年度も同様にZoomを活用した2会場（七尾・穴水）での開催を予定。一方で、対面開催の希望もあり、感染状況に応じた開催形態の検討が課題である。
- ② 2025年度はテーマ通り、危機感と覚悟をもった震災後の新しい取り組み・地域との関わりの事例もあり、他事業所の事例を参考に今後の支援に活かしたいとの意見があった。

福利厚生委員会

■委員長

幸田 恵

■2025年度のトピックス

- ① 業務で使用する「物品購入」、ストレスや健康維持に関する「物品・サプリメント購入」の助成
- ② 親睦会などの「食事会議」の助成
助成金：1人1,500円
- ③ 他事業所との交流を目的とした「バーベキュー」の開催
自己負担：500円

■事業報告

- ① 職員全体の約70%が利用
- ② 親睦会の実施：2件
- ③ コロナ・震災後、久しぶりに他事業所の交流であるバーベキューを開催することができ、参加者より喜びの声が聞かれた。今後は、以前のような旅行の開催も期待したい。

コンプライアンス委員会

■部門代表者

芳原 哲弥

■2025年度のトピックス

日程	内容
6月2日	カスタマーハラスメント行動指針 策定 カスタマーハラスメント対策マニュアル 作成
6月19日	カスタマーハラスメント研修開催（管理監督者）
10月15日	カスタマーハラスメント研修開催（主任・相談員）
2月2日	生成AI利用ガイドライン 策定
2025年度 委員会開催数 6回	

■事業報告

- ① カスタマーハラスメント行動指針を策定しホームページに掲載。
- ② 内部通報規程の策定。
- ③ 生成AI利用ガイドラインを策定し、AI導入を推進。